元総社蒼海遺跡群(36)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 1. 3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群 (36)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 1. 3

前橋市教育委員会



1区2面畠跡全景(西から)



2区竈構築材採掘坑跡(南から)

口絵 2



3区調査区全景(下が北)



4区西側調査区全景(西から)〈右〉W-1号溝跡、〈左〉W-2号溝跡(堀跡)

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳、天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地と して知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の 一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群(36)は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、平安時代の竪穴住居跡、中世の堀跡等を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を 再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面 のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当 者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成23年3月

前橋市教育委員会 教育長 佐藤博之

例 言

- 1 本書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴って実施した元総社蒼海遺跡群 (36) の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市元総社町1914ほか、総社町総社3136ほか。
- 3 調査は、前橋市教育委員会の指導のもとに委託者 前橋市長 高木政夫(都市計画部区画整理第二課)の 委託を受け、スナガ環境測設株式会社(代表取締役 須永眞弘)が実施した。

調查担当者神宮聡(前橋市教育委員会)

荻野博巳・金子正人 (スナガ環境測設株式会社)

- 4 発掘調査期間 平成22年9月9日~平成22年12月10日 整理期間 平成22年12月11日~平成23年3月11日
- 5 調査面積 1,640m²
- 6 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永(真)、調査助言…金子、調査担当…荻野、測量調査…荻野・須永嘉明・樋口晋悟・ 瀧澤典雄・中川絹子・細井美佐子、安全管理…金子、重機オペレーター…金子、作業事務…須永 豊が 担当した。
- 8 本書は、前橋市教育委員会の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆… I については神宮 聡 (前橋市教育委員会)、II~VIは荻野、遺物観察は瀧澤典雄が担当した。編集・校正…須永 (真)・金子、実測図の整理ほか…須永 (嘉)・瀧澤、遺構・遺物のトレース…板垣 宏・須永薫子・瀧澤・五位野 歩美、遺物の整理・実測…佐々木智恵子・星野陽子、遺物洗浄…品川浪江、写真整理・内業事務…須永 (豊)・五位野が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々(敬称略・順不同) 長澤俊男 武井知司 北爪一郎 菊川 毅 中村昌博 吉田宣政 品川浪江 岩井十四夫 松井道雄 小林隆一 田所保彦 長岡 保 関口勝司 湯浅覚哉 萩原順一 反町健一郎

凡. 例

- 1 遺跡の略称は、22A130-36である。
- 2 調査委託簡所は5箇所で、北から南へ順に1区~3区、西から東へ順に4・5区と呼称した。
- 3 遺構名の略称および遺構実測図中の記号は下記のとおりである。 住居跡…H 溝跡・堀跡…W 土坑…D ピット(柱穴)…P 井戸跡… I 土器…P 石…S
- 4 実測図の縮尺は、下記のとおりである。

遺構 住居跡… 1/60 竈… 1/30 溝跡・堀跡・畠跡… 1/60・1/80・1/100 土坑… 1/60 ピット… 1/60 井戸跡… 1/60 竈構築材採掘坑跡… 1/40・1/60 全体図… 1/80・1/100・1/150・1/200・1/300・1/1000

遺物 土 器… 1/3・1/10 瓦… 1/6 石製品… 1/3・1/6 鉄製品… 1/3 埴輪… 1/3

- 5 遺構名に(東)・(西)と付したものは、同一調査区内の複数掘削箇所を方位で表した。
- 6 本文中の数値で、() は推定値、[] は現存値を表した。
- 7 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』(農林省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修) 2000によった。
- 8 遺物実測図中のスクリーントーンは下記のとおりである。 須恵器の断面… 黒色土器… 施釉部分… 煤付着部分…
- 9 各遺構の面積は、平面図をもとに座標面積計算により算出した。
- 10 土層注記及び本文中には、天仁元年 (西暦1108年) 降下の浅間山給源テフラの略称を As-B、6世紀中葉 降下の榛名山給源テフラの略称を Hr-FP、6世紀初頭降下の榛名山給源テフラの略称を Hr-FA、3世 紀末葉降下の浅間山給源テフラの略称を As-C として使用した。
- 11 挿図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 12 第1図中の番号は、第1表と対照する。
- 13 第5図中の()番号は畦畔番号を表し、第3表と対照する。
- 14 第7図中の()番号はサク間番号を、それ以外の番号はサク番号を表し、第8表と対照する。

目 次

14	
I	調査に至る経緯
II	遺跡の位置と歴史的環境
1	遺跡の位置
2	歷 史 的 環 境
III	調査の方針と経過
1	調 査 方 針
2	調 査 経 過
IV	層 序
V	検出された遺構と遺物5
1	全調査区の概要
2	1区1面の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2	
	(2) 溝 跡 … 6
	(3) 土 坑
3	1区2面の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
	(1) 溝 跡
	(2) 畠 跡
4	2 区の概要9
	(1) 電構築材採掘坑跡 9
	(2) 溝 跡
5	3 区の概要9
	(1) 住 居 跡
	(2) 溝 跡
	(3) 土 坑
	(4) 井 戸 跡
6	4 区の概要·······15
O	(1) 竈構築材採掘坑跡
	(2) 溝 跡
	(3) 土 坑
7	5 区の概要17
	(1) 溝 跡
VI	ま と め
1	1 区 1 面 As-B 軽石層下水田跡について
2	1区2面の畠跡について
3	2 区・4 区竈構築材採掘坑跡について
4	4 • 5 区の溝跡(堀跡) について·······19
5	住居跡の時期と分類
0	

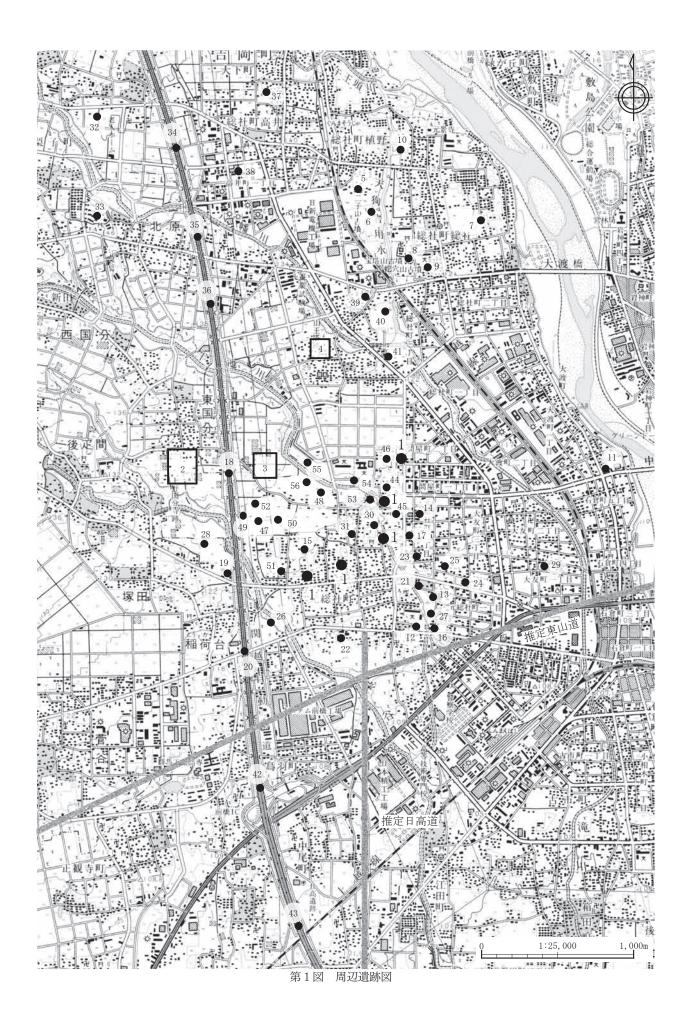
挿図目次

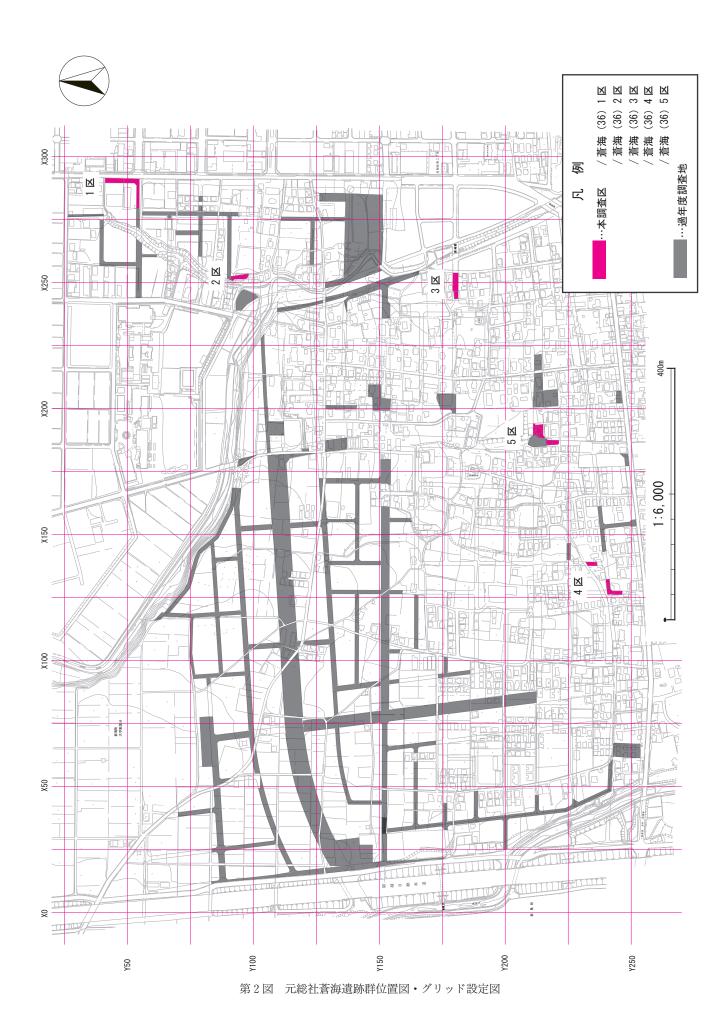
第1図	周辺遺跡図	
第2図	元総社蒼海遺跡群位置図・グリッド設定図	
第3図	元総社蒼海遺跡群(36) 1~5 区基本土層断面図	4
第4図	3 区住居跡主軸方向グラフ	20
第5図	1区1面全体図	28
第6図	$1 \boxtimes 1$ 面 $As-B$ 軽石層下水田跡、 $1 \sim 3$ 号水口、 $W-1 \sim 5$ 号溝跡、 1 号凹み跡、	
	D-1号土坑実測図······	29
第7図	1 区 2 面全体図	30
第8図	1区2面	31
第9図	2 区全体図	32
第10図	2 区竈構築材採掘坑跡、W-1号溝跡実測図······	33
第11図	3 区全体図	
第12図	3 区H−1~4 • 6 号住居跡、W−1号溝跡実測図····································	
第13図	3 区 $H-2\sim4$ ・ 6 号住居跡、 $W-1$ 号溝跡実測図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	36
第14図	$3 \boxtimes \mathrm{H-4} \sim 7 $ 号住居跡、D-9 • 10号土坑実測図 ····································	···37
第15図	$3 \boxtimes H - 8 \sim 10 \cdot 12 \cdot 15 \cdot 16$ 号住居跡実測図 \cdots	38
第16図	3 区H−10~13・15~17号住居跡、D−13~15号土坑実測図······	
第17図	3 区H−10・11・13・15号住居跡、D−13号土坑実測図······	40
第18図	3 区H−10 • 12 • 13号住居跡竈実測図······	41
第19図	3 区H−11 • 13 • 16 • 17号住居跡実測図······	
第20図	3 区 $\mathrm{H}-14$ 号住居跡、 I -1 ・ 2 号井戸跡実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	···43
第21図	3 区D -1 \sim 8 • 11 • 12 号土坑実測図	44
第22図	4 区全体図	
第23図	4 区W-1号溝跡、W-2号溝跡(堀跡)実測図······	
第24図	4 区W-3 号溝跡(堀跡)、D-1号土坑、竈構築材採掘坑跡実測図 ····································	
第25図	5 区全体図及び蒼海城旧状想定図	
第26図	5 区W-1 • 2 号溝跡(堀跡)実測図·····	
第27図	3 区H -1 ・ 3 ~ 5 ・ 8 ~ 10 号住居跡出土遺物実測図 ····································	
第28図	3 区H−9~12号住居跡出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第29図	3 区H-12·13号住居跡出土遺物実測図······	
第30図	3 区H-13·15号住居跡出土遺物実測図······	
第31図	3 区 $H-13 \cdot 15 \sim 17$ 号住居跡、 $I-1 \cdot 2$ 号井戸跡、 $W-1$ 号溝跡出土遺物実測図	54
第32図	3 extstyle extstyle	
	5 区W-1 号溝跡出土遺物実測図	
第33図	4 区W-3 号溝跡、 5 区W-1 • 2 号溝跡出土遺物実測図	56
	表目次	
第1表	周辺遺跡概要一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第2表	1区1面水田跡計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第3表	1区1面畦畔計測表	
第4表	1区1面水口計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第5表	1区1面凹み跡計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第6表	1 区 1 面溝跡計測表····································	
第7表	1 区 2 面溝跡計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第8表	1 区 2 面晶のサク跡計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第9表	3 区住居跡一覧表····································	
第10表	3 区任店跡一覧表····································	
第11表	山上退彻既佘农	23

写真図版目次

口	150万自時人見(エムと)		9 反 II 19 日
山松工	1区2面晶跡全景(西から)	凶版 /	3 区H-12号住居跡電掘り方全景(北西から) 3 区H-12号住居跡遺物出土状況(北西から)
□ ₩ 2	2 区竈構築材採掘坑跡全景 (南から) 3 区調査区全景 (下が北)		
山桧乙	4 区西側調査区全景 (西から)		3 区H-11・13号住居跡全景(西から) 3 区H-13号住居跡全景(西から)
छा⊭⊑ 1	1区1面調査区全景(南西から)		3 区H-13号住居跡遺物出土状況全景(西から)
	1区1回嗣正区主泉(南四から) 1区1面 As-B 軽石層下水田跡全景(北から)		3 区H-13号住居跡竈全景(西から)
	1区1面 As-B 軽石層下水田跡全景 (西から)		3 区H-13号住居跡竈遺物出土状況(北から)
	1区1面 As-B 軽石層下水田跡主景(西から)		3 区H-13号住居跡電掘り方セクション(西から)
	1区1面W-3号溝跡、4・5号畦畔全景 (東から)	ান≃ ০	3 区H-13号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 (西から)
	1区1面1・2号水口全景(南から)	MIX 0	3 区H-11・13号住居跡掘り方全景 (北から)
	1区1面W─1号溝跡全景(東から)		3 区H-14号住居跡全景(東から)
	1区1面W-2号溝跡、3号水口全景(南から)		3 区H-14号住居跡竈全景 (西から)
図版 2	1区1面W-3号溝跡、4・5号畦畔全景(北から)		3 区H-10・15・16号住居跡全景 (西から)
	1区1面W-4号溝跡全景 (南から)		3 区H―15号住居跡遺物出土状況全景 (西から)
	1区1面W-5号溝跡全景 (南から)		3 区H-10・16号住居跡全景 (西から)
	1区1面東壁畦畔セクション(西から)		3 区H-16号住居跡遺物出土状況全景(西から)
	1区1面1・2号凹み跡全景 (南から)	図版 9	3 区H-16号住居跡竈全景(西から)
	1区1面D-1号土坑全景(東から)		3 区H-17号住居跡竈全景(西から)
	1区2面調査区全景(南西から)		3 区H-17号住居跡竈掘り方全景(西から)
	1区2面畠跡、W-1号溝跡全景(南から)		3 区 I − 1 ・ 2 号井戸跡全景(北から)
図版 3	1区2面晶跡確認面(北東から)		3 区 Ⅰ − 2 号井戸跡遺物出土状況(東から)
	1区2面晶跡全景(西から)		3 区W-1 号溝跡全景(南から)
	1区2面畠跡全景(南西から)		3 区W-1 号溝跡遺物出土状況(東から)
	1区2面畠跡セクション(東から)		3 区D-1 号土坑全景(南から)
	1区2面畠跡、W-3号溝跡全景(北から)	図版10	3 区D-3 号土坑全景(西から)
	1区2面畠跡、W-1号溝跡全景(北西から)		3区D -5 ~ 8 号土坑全景(東から)
	1区2面W-2号溝跡全景(北から)		3 区D — 8 号土坑全景(北から)
	1区1・2面東壁セクション(西から)		3 区D-10号土坑全景(南から)
図版 4	2 区調査区全景(南から)		3 区D-13号土坑全景(北から)
	2 区W-1 号溝跡全景(北から)		3 区D-14号土坑全景(西から)
	2 区竈構築材採掘坑跡全景(北西から)		3 区D-15号土坑全景(西から)
	2 区竈構築材採掘坑跡全景(南西から)		3 区南壁セクション(北から)
	2 区竈構築材採掘坑跡(南東から)	図版11	4 区東側調査区全景(南から)
	2 区東壁セクション(西から)		4 区東側調査区W-3号溝跡(堀跡)全景(東から)
	3 区調査区全景(上が北)		4 区東側調査区W-3号溝跡(堀跡)全景(西から)
	3 区調査区西側(上が西)		4区西側調査区全景(西から)
図版 5	3 区調査区中央(上が西)		4 区西側調査区W-1号溝跡セクション(西から)
	3区H-1号住居跡全景(西から)		4 区西側調査区遺物出土状況(東から)
	3 区H-1~4・6 号住居跡全景 (南から) 3 区H-2 号住居跡竈・貼り床南壁セクション全景 (北から)		4 区西側調査区竈構築材採掘坑跡全景(南から) 4 区西側調査区竈構築材採掘坑跡近景(東から)
	3区H-4号住居跡竈南壁セクション全景(北から)	回版12	4 区西側調査区W-2 号溝跡(堀跡)全景(西から)
	3 区H-4 号住居跡竈南壁遺物出土状況(北から)	四灰红	4 区西側調査区W 2 号溝跡 (堀跡) 全景 (東から)
	3 区H-4・6 号住居跡掘り方、D-9 号土坑全景(南西から)		4 区西側調査区W-2号溝跡(堀跡)西壁セクション(東から)
	3 区D-9 号土坑全景 (西から)		4 区西側調査区D-1号土坑全景 (南から)
図版 6	3 区D-9号土坑遺物出土状況 (西から)		5 区東側調査区W-1号溝跡(堀跡)全景(西から)
<u> </u>	3 区H-5・7 号住居跡全景 (南から)		5 区東側調査区W-1号溝跡(堀跡)東壁セクション(西から)
	3 区H-8・9 号住居跡全景 (西から)		5 区西側調査区W-2 号溝跡(堀跡)全景(北から)
	3 区H — 8 号住居跡竈全景(西から)		5 区西側調査区W-2 号溝跡(堀跡)全景(南から)
	3区H-8号住居跡竈掘り方全景(西から)	図版13	3区出土遺物写真
	3 区H-10・12・15・16号住居跡全景 (西から)		3 区出土遺物写真
	3 区H—10号住居跡竈全景(南から)		3 区出土遺物写真
	3 区H-12号住居跡竈全景(北西から)	図版16	3 区出土遺物写真

図版17 4・5 区出土遺物写真





Ⅰ 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、11年目にあたる。本調査 地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成22年8月16日付けで前橋市長 高木政夫 (区画整理第二課) より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成22年9月7日付けで前橋市と民間調査組織であるスナガ環境測設株式会社 代表取締役 須永眞弘との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群 (36)」(遺跡コード:22A130-36)の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「(36)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の位置

元総社蒼海遺跡群(36)は、前橋市元総社町、総社町総社に所在し、前橋市役所の西方約3kmで、JR新前橋駅の北西約1.5~2.0km、また関越自動車道前橋インターチェンジから北へ約1.6~2.5kmに位置する。北東に赤城山、北西に榛名山、西に浅間山・妙義山という上毛の山々を望む集落の広がる地域である。

前橋市の地形は、北東部の赤城山山頂から山麓、東部の広瀬川低地帯、南西部の前橋台地とその間に利根川の氾濫原という4地域に大別される。当遺跡群は前橋台地上に立地しており、榛名山の南東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の扇端部にあたる。また、榛名山麓を源流として南東方向に流下する河川のうちの、染谷川が、3・4・5調査区の西側に、牛池川がその東側に流れ、牛池川を挟んで左岸に1・2調査区がある。

2 歴史的環境

本遺跡群ではこれまでに土地区画整理事業に伴う発掘調査によって、多くの遺構、遺物が検出されている。 また、周辺には多くの遺跡があり、中でも本遺跡群に近接する上野国分僧寺・尼寺中間地域は上野国分僧寺・ 尼寺跡、推定上野国府跡、山王廃寺等にも近接し、昭和55年から昭和59年にかけて大規模な発掘調査が行われ、縄文時代を始めとして近世までの遺構が数多く検出されている。

縄文時代前期の住居跡は、清里・長久保遺跡、熊野谷遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、元総社小見VII 遺跡、中期後半の住居跡は上野国分僧寺・尼寺中間地域、下東西遺跡、熊野谷遺跡、元総社小見II・III・VII 遺跡等で確認されている。

弥生時代では調査例は少なく、中期の環濠集落跡が発見された清里・庚申塚遺跡、後期集落跡では上野国 分僧寺・尼寺中間地域の他、日高遺跡、下東西遺跡、元総社小見内Ⅲ遺跡等で報告されている。

古墳時代では本遺跡群周辺に5世紀末頃の遠見山古墳から6世紀代には王山古墳、総社二子山古墳、終末期には愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳という首長墓からなる総社古墳群が形成される。その近くには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺があり古墳文化と仏教文化の併存がうかがえる。集落跡は4世紀代の住居跡を初現に、6世紀から7世紀代の遺構を多数検出しており、下東西遺跡、元総社明神 I~XIII遺跡、鳥

羽遺跡、草作遺跡、弥勒 I・II遺跡、大友屋敷 II・III遺跡、屋敷 I・II遺跡、閑泉樋南遺跡、上野国分寺参 道遺跡、元総社宅地遺跡、元総社蒼海遺跡群(17)、上野国分僧寺・尼寺中間地域等がある。この時期の生産 跡としては、3世紀末葉に降下した浅間山給源の軽石(As-C)により埋没した水田跡や畠跡、6世紀代に降 下した榛名山給源のテフラ(Hr-FA・FP)により埋没した水田跡や畠跡等を検出した元総社明神VIII遺跡、元 総社植野北開土遺跡、北原遺跡、総社閑泉明神北遺跡、元総社牛池川遺跡、元総社北川遺跡等がある。

奈良・平安時代に入り調査区周辺に、上野国の国府が造営されたと推測されている。また、天平13年(西暦741年)に、聖武天皇により国分寺建立の詔が発せられ、本遺跡群西方に上野国分僧寺および尼寺が建立された。推定上野国府跡およびその周辺の遺跡は元総社明神 I ~ X III遺跡、元総社小学校校庭遺跡、閑泉樋遺跡、鳥羽遺跡、草作遺跡、元総社寺田遺跡、寺田遺跡、大友屋敷 II・II遺跡、天神 I・II遺跡、屋敷 I・II遺跡、堰越 I・II遺跡、閑泉樋南遺跡、総社閑泉明神北遺跡、弥勒 I・II遺跡、元総社宅地遺跡、大友宅地添遺跡、元総社蒼海遺跡群(17)、上野国分寺参道遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域等がある。また、今回調査した 1 区から南へ約 3 kmには条里制水田が検出された日高遺跡があって、浅間山から噴出した軽石に埋もれた平安時代の水田跡とともに、幅約4.5mの道路状遺構も検出され、東山道駅路から推定上野国府正面へ続く道と考えられ、日高道と呼ばれている。

中世では国府跡を利用しているとされる蒼海城が、上杉氏の重臣総社長尾氏により築かれたが(西暦1429年他、諸説あり)、永禄9年(西暦1566年)ごろ、武田信玄によって攻撃され落城した。

その後、諏訪氏の領有を経て、近世初期には秋元氏による勝山城築城や天狗岩用水、五千石堰などの開発がなされる地域である。

前橋市元総社町の町名由来は、平安時代に上野国総社神社がこの地に創祀された後、総社と呼ばれていたが、秋元氏が新たに植野の地に城を築き、総社の人々を一部移転させ、その城下に佐渡奉行街道の総社宿を整備したため、総社宿のある地が総社と呼ばれ、上野国総社神社のある地は、総社の元地であることから元総社と呼ばれるようになった事による。

遺 概 遺 元総社蒼海遺跡群 (36) 大友宅地添遺跡 本報告遺跡 (調査区) 古墳一畠跡、平安一水田跡 2 史跡 上野国分寺跡 奈良--寺院跡(国分僧寺跡) 30 総社閑泉明神北遺跡 古墳一水田跡・畠跡、中世一溝跡 3 上野国分尼寺跡 奈良一寺院跡 31 元総社宅地遺跡 1~23トレ 古墳·平安-住居跡、近世-溝跡、他 史跡 山王廃寺跡 白鳳期-寺院跡(放光寺跡) 薬師前遺跡 縄文一ピット、奈良・平安-32 住居跡 史跡(総社)二子山古墳 前方後円墳(6世紀後半)石室2室 33 熊野谷遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡 縄文 • 平安一住居跡、平安一溝跡 6 総社愛宕山古墳 方墳(7世紀前半)家形石棺 34 下東西遺跡 縄文一埋甕、弥生~平安一住居跡、他 7 市史跡 遠見山古墳 前方後円墳(5世紀末) 35 北原遺跡 古墳-水田、奈良•平安-住居跡、他 36 国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡 古墳~平安一住居跡、他 史跡 宝塔山古墳 方墳(7世紀中葉)家形石棺、截石 8 史跡 蛇穴山古墳 方墳(7世紀後半)截石 総社植野北開土遺跡 古墳一水田跡、他 37 10 穂積稲荷山古墳 円墳(6世紀代) 38 柿木遺跡・II遺跡 奈良•平安-住居跡•溝跡 11 市史跡 王山古墳 前方後円墳(6世紀前半) 39 村東遺跡 古墳~平安一住居跡、中世一堀跡 12 元総社小学校校庭遺跡 40 大屋敷遺跡 I ~ V 縄文~平安一住居跡、中世一溝跡 平安一掘立柱建物跡、他 元総社明神遺跡 I ~XⅢ 古墳-水田跡・住居跡、他 41 昌楽寺廻向遺跡 · II 遺跡 奈良•平安-住居跡 14 閑泉樋遺跡 奈良•平安-住居跡 奈良•平安--溝跡 42 中尾遺跡 古墳~平安一住居跡、他 15 草作遺跡 43 史跡 日高遺跡 弥生-住居跡·水田跡、平安-水田跡 16 寺田遺跡 平安一溝跡 44 総社甲稲荷塚大道西遺跡 平安一住居跡 • 溝跡、他 閑泉樋南遺跡 古墳一住居跡、奈良•平安一溝跡 総社閑泉明神北II遺跡 古墳~平安一住居跡・溝跡 17 45 上野国分僧寺·尼寺中間地域 18 縄文~平安---住居跡・土坑、中世--寺院跡・井戸跡・溝跡、他 総社甲稲荷塚大道西II遺跡 古墳~平安--住居跡•溝跡 46 古墳~平安一住居跡·溝跡 19 塚田村東遺跡 平安一住居跡 47 元総社小見遺跡 20 鳥羽遺跡 古墳~平安一住居跡、神社跡、他 48 元総社小見内Ⅲ遺跡 弥生·古墳·平安-住居跡·溝跡 21 大友屋敷 II · III遺跡 古墳~平安--住居跡、他 49 元総社小見II遺跡 縄文・古墳・平安―住居跡・溝跡 天神遺跡 · II 遺跡 奈良•平安一住居跡 元総社小見III遺跡 縄文・古墳・平安-住居跡・溝跡 50 23 屋敷遺跡・II遺跡 古墳~平安一住居跡、中世一堀跡 51 元総社草作V遺跡 古墳~平安-住居跡•溝跡 24 堰越遺跡 奈良•平安一住居跡•溝跡 52 元総社小見VII遺跡 縄文・古墳・平安一住居跡・溝跡 古墳-水田跡・畠跡 堰越II遺跡 平安一住居跡 総社関泉明神北遺跡 25 53 古墳一水田跡 弥勒遺跡 · II 遺跡 古墳 • 平安一住居跡 元総社牛池川遺跡 古墳一水田跡、奈良•平安一住居跡 元総社寺田遺跡 元総社北川遺跡 古墳~平安-水田跡 55

第1表 周辺遺跡概要一覧表

56 元総社蒼海遺跡群(17)

古墳~平安一住居跡、他

28 上野国分寺参道遺跡

古墳 • 平安一住居跡

III 調査の方針と経過

1 調査方針

調査委託箇所は道路用地内で、5箇所の調査区はすべて距離が離れており、混乱を避けるため、遺構番号は調査区ごとに個別に付番した。

グリッドは公共座標に基づき 4×4 mで設定し、南北方向を Y 軸とし北から南へ Y 41、 Y 42、 Y 43 \dots 、東西方向を X 軸とし西から東へ X 126、 X 127、 X 128 \dots と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。各調査区の公共座標(日本測地系 第IX 系)は次のとおりである。

1 🗵 X290 • Y46 X=43,816m Y=-71,040m 2 🗵 X253 • Y94 X=43,624m Y=-71,228m

3 ⊠ X250 • Y180 X=43,280m Y=-71,200m 4 ⊠ X128 • Y241 X=43,036m Y=-71,688m

 $5 \boxtimes X191 \cdot Y213 \quad X=43,148m \quad Y=-71,436m$

水準点は公共水準点に基づき 1 区No.1 BM-H=119.00m、1 区No.2 BM-H=119.50m、2 区 BM-H=118.50m、3 区 BM-H=115.00m、4 区 BM-H=119.10m、5 区 BM-H=116.00mを設置した。

調査方法は、表土掘削、遺構確認、杭打ち、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。 図面作成は、平板・遣り方測量と器械測量を併用し、原則として住居跡・土坑は 1/20、竈は 1/10、水田跡・ 畠跡・溝跡等は 1/40、全体図を 1/100、各断面図は竈を除き 1/20の縮尺で作図を行った。遺物については遺 物分布平面図を遺構と同縮尺で作成し、遺物台帳に記載し、標高を計測の後、付番処理をして取り上げた。 遺構・遺物等出土状況は写真(白黒・リバーサルフィルム・デジタル画像)を撮影した。

2 調査経過

調査は、前橋市教育委員会の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。調査の順序は前橋市区画整理第二課の指示により工事に入る順番に合わせて行う事とした。また各調査区の遺構検出面の確認は、前橋市教育委員会業務監督員とともに行う事とした。

調査は、平成22年9月9日に現地調査事務所を設置し、発掘器材や掘削機械及び資材を搬入した。

1区の表土掘削を同日に掘削機械(バックホウ)で開始した。遺構確認後、発掘作業に入った。1区は1面の調査で As-B 軽石層下水田跡 7 区画と水田跡に伴う溝跡 4 条と中近世の溝跡 1 条、土坑 1 基を検出した。2 面の調査では、Hr-FA 層を確認面として調査を行った。古墳時代の溝跡 3 条と畠のサク跡51列を検出した。遺物は土師器・須恵器片が少量出土した。10月27日に調査を終了した。

2 区は 9 月30日より調査に入った。中世の溝跡 1 条と平安時代と思われる竈構築材採掘坑跡を検出した。 遺物は須恵器片が 3 点出土した。10月 8 日に調査を終了した。

3 区は10月 6 日より調査に入った。平安時代住居跡17軒、平安時代から中近世の土坑15基、中世の溝跡 1 条、平安時代から中世の井戸跡 2 基を検出した。遺物は、平安時代住居跡に伴う土師器甕、坏、須恵器坏、 甕、埦、灰釉陶器、瓦、鉄製品などが出土した。12月10日に調査を終了した。

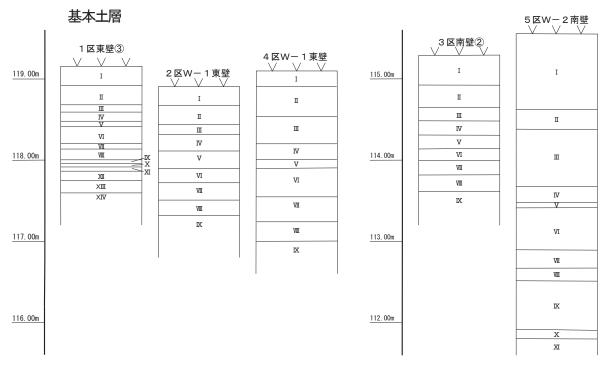
4 区は11月9日より調査に入った。平安時代の溝跡1条と竈構築材採掘坑跡、中世の溝跡2条(堀跡)を 検出した。遺物は石臼、板碑などが出土した。11月20日に調査を終了した。

5 区は11月22日より調査に入った。中世の溝跡 2 条 (堀跡) を検出した。溝跡からは、かわらけ、甕、瓦、石臼、内耳土鍋、板碑、陶器などが出土した。12月10日に調査を終了した。

各調査区の測量・記録作業は発掘作業と並行して行い、作業を終了した調査区より随時、業務監督員の検査を受けて埋め戻し作業を行った。平成22年12月10日に現地作業をすべて終了した。

層 序 IV

層序は、各調査区内に入れた深掘りトレンチセクション図をもとに、模式図を作成し、土層説明を下記に 掲載した。



1 区 東 辟(3)

- Ⅱ 盛土。黄褐色土10YR5/6。

- Ⅲ 医土 黄褐色土10YR5/6。
 Ⅲ 医黄褐色土10YR5/2 粘性ややあり。締まりあり。微砂を含む。
 Ⅳ 医褐色土7.5YR5/2 粘性、締まりあり。細砂と含み、酸化を帯びる。
 Ⅴ にぶい褐色土7.5YR5/4 粘性、締まりあり。細砂と明褐色土7.5Y5/6を含む。 酸化を帯びる。
 Ⅵ 医褐色土5YR4/2 粘性、やあり。締まりあり。As-B軽石を多く含む。 下層に鉄分の凝縮が見られる。
 Ⅷ As-B 軽石層。上層に鉄分の凝縮が見られる。(4cm~7cm堆積) (1面確認面)
 Ⅷ 灰黄褐色土7.5YR4/2 粘性、締まりあり。白色軽石 (62mm~3mm)を3%含む。
 Ⅸ 灰黄褐色土7.5YR4/2 粘性、締まりあり。白色軽石 (62mm~3mm)を3%含む。
 Ⅸ 灰黄褐色土7.5YR4/2 粘性、締まりあり。白色軽石 (62mm~3mm)を3%含む。
 ※ 接色土7.5YR4/2 粘性、締まりあり。白色軽石 (62mm~3mm)を3%含む。

- X 橙色土7.5YR6/6 Hr-FA層。Hr-FP (φ2mm~3mm) を含む。(2面確認面) XI 褐灰色土7.5YR4/1 As-C軽石層。

- 4 区W-1 東壁
 I 盛土。石、砂、礫を含む。
 II 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりややあり。細砂,軽石粒を含む。
 II 灰黄褐色土10YR5/2 粘性なく、締まりややあり。As-B 軽石と軽石をわずかに含む。 (遺構確認面)
 IV 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。III層とAs-B 軽石の混土層。
 V As-B 軽石層。灰層ブロックを含む。
 VI 灰黄褐色土10YR4/2 粘性、締まりあり。白色軽石(φ 2mm~5mm)を1%と砂層ブロックを含む。
 VI 灰黄褐色土10YR4/2 粘性、締まりあり。白色軽石(φ 2mm~10mm)を1%と小礫を含む。

- X にぶい黄橙色砂質層10YR7/2。 XI にぶい黄橙色砂質土10YR7/2。

5 区W-2 南壁

- 区W 2 南壁

 Ⅰ 灰黄褐色±10 YR6/2 粘性なく、締まりややあり。石、小碟を多く含む。(盛土)
 Ⅱ 灰黄褐色±10 YR4/2 粘性、締まりややあり。細砂、小碟を含む。(遺構確認面)
 Ⅲ 灰黄褐色±10 YR6/2 粘性、締まりあり。小碟、にぶい黄橙色砂質ブロックを含む。
 Ⅳ 灰黄褐色±10 YR6/2 粘性、締まりあり。小碟、にぶい黄橙色砂質ブロックを含む。
 ▼ 灰黄褐色±10 YR6/2 粘性、締まりあり。にぶい黄橙色砂質ブロックを多く含む。
 ▼ 「灰黄褐色±10 YR4/2 松性、締まりあり。にぶい黄橙色砂質ブロックを多く含む。
 ▼ 「灰黄褐色±10 YR4/2 木性、締まりあり。白色軽石(φ²шm~5mm)を1%と炭化物含む。
 ▼ 「灰黄褐色±10 YR4/2 木性、締まりあり。にぶい黄橙色砂質±ブロックを多く含み、砂碟ブロックを含む。

 ▼ 「大田・新賀・10 YR3/1、下田・新賀・10 YR3/1。

- IX 黒褐色土。粘質土10YR3/1。
- X にぶい黄橙色粘質土10YR4/6。 XI にぶい黄橙色砂礫層。

2 区W-1 車時

- I 灰黄褐色土10YR4/2 粘性、締まりややあり。細砂を含む。 (現耕作土)
 I 灰黄褐色土10YR4/2 粘性、締まりややあり、細砂を含む。 (現耕作土)
 II 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりややあり。微砂を含む。
 IV にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性、締まりややあり。微砂を多く含む。
 V にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性、締まりあり。細砂層ブロックを所々に含む。
 VI にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性、締まりあり。軽石粒(φ1㎜~2㎜)を含む。
 VI にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性、締まりあり。軽石粒(φ1㎜~2㎜)を含む。
 VII 灰黄褐色砂質土(凝灰岩質層)黄色、灰色小礫含む。(遺構確認面)
 VIII 灰黄褐色砂質土(凝灰岩質層)。
 VII 灰黄褐色砂質土(凝灰岩質層)。
 VII 火黄褐色砂質土(凝灰岩質層)。
 VII 火黄褐色砂質土(凝灰岩質層)。
 VII 火黄褐色砂質土(凝灰岩質層)。

- IX 黄褐色砂質土 (凝灰岩質層) 礫を多く含む。

3区南壁②

- VII 灰黄褐色砂質土10YR7/3。 VII 灰黄褐色粘質土10YR7/4。
- IX 灰褐色粘質土7.5YR6/2。

V 検出された遺構と遺物

1 全調査区の概要

道路用地の調査で幅が狭く、部分的に検出した遺構が多い。古墳時代後期では、畠のサク跡51列、溝跡3条、平安時代では竪穴住居跡17軒(竈のみの1軒を含む)、As-B軽石層下水田跡7区画、溝跡5条、As-B軽石が堆積する凹み跡2箇所、平安時代~中近世の土坑17基、井戸跡2基、竈構築材採掘坑跡2箇所、溝跡7条(その内、蒼海城の堀跡と思われるもの4条)などを検出した。以下、各調査区ごとにまとめて報告する。

2 1区1面の概要

1区1面の調査では、As-B 軽石層を遺構確認面とし、平安時代の As-B 軽石層下水田跡 7 区画、水田跡に伴う溝跡 4 条、As-B 軽石が堆積する凹み跡 2 箇所、中世の土坑 1 基、近世の溝跡 1 条を検出した。

(1) As-B 軽石層下水田跡〔第5・6図、図版1・2〕

1面は、表土下90cm前後で水田面を覆う As-B 軽石層(基本土層VII)が 4~8 cm堆積するのを確認した。また、調査区西側部分では西方向に向かって As-B 軽石層が薄くなっていた。全体で水田区画は 7 区画を検出した。遺存状態は、畦畔と水田面との比高が数cm確認できる程度である。規模は 1 区画の面積を完全に計測できるものはない。検出した範囲では、[14.57]㎡(5 号水田跡)~[100.73]㎡(2 号水田跡)を測る。水田跡を区画する畦畔については 7 本を検出した。規模は上幅20~62cm、下幅42~100cm、高さ 1~8 cmを測る。方位は東西方向N-83°~89°-E、南北方向N-1°~6°-Wと北西方向~南東方向N-34°~35°-Wにとり、東西方向、南北方向に直進性が見られる。北西方向~南東方向の 4 号畦畔、その北側に直交する 3 号畦畔と5 号畦畔の間にW-3 号溝跡があり、3・4 号畦畔側に1・2・3 号水口が伴う。他の溝跡 3 条は、いずれも水田跡に伴う。大畦畔は検出されなかった。水田面からは、足跡や株物跡等の痕跡は検出されなかった。2 号水田跡には As-B 軽石で埋まった長径196cm~[255]cm、短径42cm~60cm、深さ 3 cm~10cmの楕円形の凹み跡が 2 箇所検出された。属性は不明である。標高は北側の 1 号水田跡で118.20m、西側の 7 号水田跡で118.50m、南東側の 3 号水田跡で118.05mを測り、標高差から見て北西方向から南東方向へ配水したと考えられる。水田跡からの出土遺物は、土師器や須恵器の小片が数点あったが掲載できなかった。

1区1面 As-B 軽石層下水田跡、畦畔、水口、As-B 軽石が堆積する凹み跡の計測値は、第 $2\sim5$ 表にまとめた。

第2表 1区1面 水田跡計測表

東・西・南・北畦は長さを、[] は検出値を表す。

水田No.	面積(m²)	東畦(m)	西畦(m)	南畦(m)	北畦(m)	備考
1号水田	[40.35]			[5.5]		1区1面
2 号水田	[100.73]			[5.3]	[5.5]	1区1面
3 号水田	[86.43]			[5.5]	[5.3]	1区1面
4 号水田	[15.45]		5.95		[5.5]	1区1面
5 号水田	[14.57]	[6.8]	[4.3]			1区1面
6 号水田	[32.84]	[3.9]	[3.1]			1区1面
7 号水田	[78.70]	[3.08]				1区1面

第3表 1区1面 畦畔計測表

E・W・S・Nは東西南北を、[] は検出値を表す。

No	No. グリッド	上端幅	下端幅		畦畔の高さ(cm)		走行方向	備考	
INO.	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	(cm)	(cm)	北側	南側	東側	西側	上11万円	/佣 /写
1	X290 · 291, Y42	[24~32]	[42~52]	$2\sim4$	$3 \sim 7$			W-E	
2	X289~291, Y47	26~36	55~60	$2\sim6$	3~10			W-E	
3	X289~291, Y52 · 53	20~35	50~60	$2 \sim 7$	$2 \sim 7$			W-E	1・2号水口
4	X289~291, Y53 · 54	25~60	60~100	$1\sim4$	14~17.5			NW-SE	2 · 3 号水口
5	X289 • 290, Y53 • 54	22~48	42~72	$5 \sim 8$	$1\sim5$			NW-SE	
6	X289, Y53 • 54	44~62	82~90			$2 \sim 7$	6~10	N-S	
7	X286, Y53 • 54	50~60	94~100			$1\sim5$	1~3	N-S	

第4表 1区1面 水口計測表

[]は検出値を表す。

No.	位置(グリッド)	深さ(cm)	底のレベル(m)	水口幅(cm)				
INO.	位画(クラッド)	本で(CIII))民のアマベル(III)	上端	下端	//H /与		
1	X289 • 290, Y53	[3]	118.07	[40]	[20]	3号水田跡~3号畦畔~W-3号溝跡へ排水。		
2	X290, Y54	2	118.09	104	100	4号水田跡~3・4号畦畔~W-3溝跡へ排水。		
3	X290 • 291, Y54	8	118.02	50	20	4号水田跡~4号畦畔~W-3溝跡へ排水。		

第5表 凹み跡計測表

E・W・S・Nは東西南北を、[] は検出値を表す。

No.	位果(ガリ ド)	位置(グリッド) 長さ(m) 深さ(cm)		底のレベル(m)	溝幅	(cm)	方 向	
INO.	1年間(クリッド)	大さ(III)	休さ(CIII)	<u> </u>	上端	下端	/J [F]	
1	X290 • 291, Y44 • 45	[2.55]	W 4 ∼ E 10	W118.06~E118.02	44~52	28~35	N-142°-E	
2	X290, Y44	1.95	W 3 ∼ E 5	W118.05~E118.03	42~60	27~42	N-144°-E	

(2) 溝跡〔第5・6図、図版1・2〕

全体で 5 条、内、As-B 軽石層下の溝跡 4 条、近世の溝跡 1 条を検出。W $-2 \cdot 4 \cdot 5$ 号溝跡は、泥濘が固化したような状況の溝跡で水田面中にある。W-2 号溝跡は、3 号水口からW-3 号溝跡に繋る。北西方向と南東方向の高低差を利用した、As-B 軽石層下の溝跡 4 条は排水目的であろう。W-1 号溝跡は近世の遺構で水路としての使用が考えられる。

各溝跡の計測値は、第6表にまとめた。

第6表 1区1面溝跡計測表

 $E \cdot W \cdot S \cdot N$ は東西南北を、[] 検出値を表す。

No	No. 位置(グリッド) 長 (:		深さ(cm)	底のレベル(m)	溝幅	流水方向 底のレベ	
100.			休さ(CIII)	氏のレベル(m)	上端	下端	心から
W-1	X289~291, Y51	[5.0]	W 6 ∼ E 9.5	W118.00~E117.95	70~84	18~38	$W \rightarrow E$
W-2	X290 • 291, Y53 • 54	[2.7]	NE 6 \sim SW8.5	NE118.04~SW118.03	28~50	12~30	$NE \rightarrow SW$
W-3	X289 • 290, Y53 • 54	[7.8]	NW13.5~S E11	NW117.96~S E117.99	68~90	26~54	S E→NW
W-4	X287 • 288, Y53 • 54	[3.2]	NW 9 ~ S E 8	NW118.07~S E118.04	84~120	40~70	NW→S E
W- 5	X284 • 285, Y53 • 54	[5.0]	NW 5 ~ S E 6	NW118.26~S E118.21	50~74	24~42	NW→S E

(3) 土坑

D-1 〔第5・6図、図版2〕

位置 X289・290, Y52グリッド 西側半分は調査区外。 形状 平面形状は円形を呈し、断面形状は 「U」字状である。 規模 長径[92]cm、短径[66]cm、深さ43cm、底面標高は117.67mを測る。 **覆土** As-B 軽石を含む。 **遺物** 出土しなかった。 時期 覆土の状況から中世と考えられる。

3 1区2面の概要

1区2面では、Hr-FA層を遺構確認面とし、古墳時代の溝跡3条、畠のサク跡51列を検出した。

(1) 溝跡〔第7・8図、図版2・3〕

全体で3条検出した。北側に位置するW-1号溝跡は、As-C 軽石で埋まり、北西方向~南東方向に走行し、検出長7.3m、上幅7.3m、上间7.3m、

各溝跡の計測値は、第7表にまとめた。

第7表 1区2面溝跡計測表

E・W・S・Nは東西南北を、[] 検出値を表す。

No.	位置(グリッド)	長さ(m)	深さ(cm)	深さ(cm) 底のレベル(m)		溝幅(cm)		
INO.		及さ(III)	休さ(CIII)	BOD レベル (III)	上端	下端	流水方向底	
W-1	X290 • 291, Y41 • 42	[7.30]	N 5∼S 3	N117.15~S117.15	74~118	35~65	不明	
W-2	X290 · 291, Y45~42	[7.90]	N 4~S 9	N117.83~S117.80	42~82	22~50	$N \rightarrow S$	
W— 3	X282, Y53 • 54	[3.06]	N10~S 3	N118.17~S118.17	38~64	24~45	不明	

(2) **畠跡**〔第7・8図、図版2・3〕

調査区北側と南側で、Hr-FA層に埋まったり、Hr-FA層を掘り込むサク列跡を検出した。

北西方向~南東方向のサク列跡 4 列は Hr-FA 層に埋まり、検出長0.50~2.75m、上幅 8~25cm、下幅 4~16cm、深さ 1~7cm、サク間幅25~55cmを測る。東西方向で Hr-FA 層を掘り込むサク列跡 3 列(南側 1 列を含む) は、検出長1.35~2.95m、上幅12~26cm、下幅 4~10cm、深さ 1~4cm、サク間幅38~70cmを測る。また、南側の北東方向~南西方向のサク列跡37列は Hr-FA 層を掘り込み、検出長0.3~6.50m、上幅 8~54cm、下幅 2~40cm、深さ 1~15cm、サク間幅 4~74cmを測る。南北方向のサク列跡 7 列は Hr-FA 層を掘り込み、検出長0.4~3.00m、上幅 8~28cm、下幅 2~18cm、深さ 1~15cm、サク間幅10~66cmを測る。北東方向~南西方向のサク列跡37列には、耕作痕と思われる凹みが多数見られた。また、サク列跡は Hr-FA 層に埋まったものと、掘り込まれているものの 2 種類があり、さらにサク列方向やサク間幅などに違いが見られた。時期は北西方向~南東方向の Hr-FA 層で埋まった 4 列は Hr-FA 層降下前とし、他の Hr-FA 層を掘り込んでいるものは Hr-FA 層降下後の耕作跡と考えられる。

各サク列跡計測値は、第8表にまとめた。

که ۱۷	衣 1 匹 2 回由のリノ別	11月11111111111111111111111111111111111		E · W ·	い。これ来に	四用4	L'E, (/ はソン 回州	用INO.で、[] N	3. 映山胆で衣り。
列 No.	グリッド	長さ(m)	サク上幅 (cm)	サク下幅 (cm)	深さ(cm)	サクト	間幅(cm)	方向	備考
1	X290, Y54	[1.14]	24~28	16~18	W 2 E	Ξ 1	(1)	28~38	$NE \rightarrow SW$	N-50°-E
2	X289 • 290, Y54	[2.10]	24~31	8~18	W 4 B	Ξ 3	(2)	14~26	$NE \rightarrow SW$	N-53°-E
3	X289 • 290, Y54	[2.70]	28~54	3~28	W 2 B	E 5	(3)	26~32	$NE \rightarrow SW$	N-51°-E
4	X289 • 290, Y54	[3.0]	24	8~18	W 5 E	E 4	(4)	6~30	$NE \rightarrow SW$	N-53°-E
5	X 289, Y 54	[3.70]	25~27	8~40	W 5 E	€ 4	(5)	20~46	$NE \rightarrow SW$	N-52°-E
6	X288 • 289, Y53 • 54	[4.40]	22~36	6~19	W 4 B	Ξ 3	(6)	16~74	$NE \rightarrow SW$	N-52°-E
7	X289, Y53 • 54	2.50	22~38	6 ~ 22	W 4 E	Ξ 3	(7)	18~30	$NE \rightarrow SW$	N-53°-E
8	X288 • 289, Y53 • 54	[4.10]	20~28	16~54	W 4 E	Ξ 2	(8)	10~46	$NE \rightarrow SW$	N-49°-E
9	X288 • 289, Y53 • 54	[5.30]	20~50	6 ~ 22	W 5 E	Ξ 3	(9)	6~28	$NE \rightarrow SW$	N-50°-E
10	X288 • 289, Y53 • 54	[4.70]	14~52	6~18	W 6 E	E 4	(10 • 1	1) 4~36	$NE \rightarrow SW$	N —52°— E
11	X288, Y54	2.44	12~28	4 ∼18	W 5 E	Ξ 6	(12)	24~46	$NE \rightarrow SW$	N-51°-E
12	X287 • 288, Y54	[0.40]	27	10~12	5		(13)	32~34	$NE \rightarrow SW$	N-50°-E
13	X287 • 288, Y54	[3.32]	21~40	6~21	W 6 E	Ξ 2	(14)	29~40	$NE \rightarrow SW$	N-51°-E
14	X287 • 288, Y53 • 54	[5.33]	24~42	2~32	W12 B	E 10	(15)	4~24	$NE \rightarrow SW$	N-52°-E
15	X287 • 288, Y53 • 54	[4.75]	22~34	9~21	W 5 E	Ξ 5	(16)	18~36	$NE \rightarrow SW$	N-56°-E
16	X287, Y54	[0.50]	26	18	2		(17)	18~21	$NE \rightarrow SW$	N-55°-E
17	X287 • 288, Y53 • 54	[4.00]	25~32	8~18		E 10	(18)	19~42	$NE \rightarrow SW$	N-55°-E
18	X286 • 287, Y54	[1.00]	18~26	6~18		Ξ 2	(19)	26~56	$NE \rightarrow SW$	N-54°-E
19	X286 • 287, Y53 • 54	[4.70]	18~28	6~16		E 13	(20)	26~40	$NE \rightarrow SW$	N-58°-E
20	X286, Y54	[0.30]	20	18	3		(21)	26~31	$NE \rightarrow SW$	N-60°-E
21	X286 • 287, Y53 • 54	[5.80]	22~38	6~18	W 6 E	E 4	(22)	10~40	$NE \rightarrow SW$	N-59°-E
22	X285~287, Y53 • 54	[6.45]	26~41	8~28	W9 E	E 4	(23)	26~40	$NE \rightarrow SW$	N-63°-E
23	X285~287, Y53 • 54	[6.50]	20~32	6~21	W 6 E	E 8	(24)	20~34	$NE \rightarrow SW$	N-63°-E
24	X285~287, Y53 • 54	6.00	23~46	4 ~ 20	W11.5 E	E 8	(25 • 2	26) 18~44	$NE \rightarrow SW$	N-62°-E
25	X285 • 286, Y53 • 54	[2.50]	20~35	8~18	W11 E	8.5	(27)	21~44	$NE \rightarrow SW$	N62° E
26	X285, Y54	2.10	18~36	10~18	W7.5 E	Ξ 6		_	$NE \rightarrow SW$	N63° E
27	X285 • 286, Y53 • 54	[2.10]	22~40	12~18	W11 E	1.5	(28)	35~40	$NE \rightarrow SW$	N62° E
28	X285, Y53 • 54	[2.30]	18~25	8 ~12	W4.5 E	E 7	(29)	28~30	$NE \rightarrow SW$	N-66°-E
29	X285, Y53 • 54	[1.40]	20~28	10~20	W10 F	£ 4	(30)	40	$NE \rightarrow SW$	N-63°-E
30	X284 • 285, Y53 • 54	[0.56]	14	6	1		(31)	[8]	$NE \rightarrow SW$	N-69°-E
31	X284, Y53 • 54	[2.30]	12~14	6~8	N 9 S	3 3	(32)	20	$N \rightarrow S$	N-8°-E
32	X284, Y53 • 54	[1.10]	8~19	6~8	N2.5 S	3 3	(33)	10	$N \rightarrow S$	N-1°-E
33	X284, Y53 • 54	0.80	11~12	$2\sim6$	N15 S	3 7		_	NW→ SE	N-23°-W
34	X283, Y54	[0.40]	17	10	4			_	$N \rightarrow S$	N — 9 °— E
35	X283, Y54	[0.70]	18~24	10~14	2		(34)	66	$N \rightarrow S$	N-3°-E
36	X283, Y53 • 54	[2.90]	22~28	8~18	N 4 S	3 4	(35)	50~56	$N \rightarrow S$	N-2°-E
37	X283, Y53 • 54	[3.00]	16~23	8~14	N 1 S	5 4		_	$N \rightarrow S$	N-2°-E
38	X282, Y54	[0.50]	14~20	4~10	N 1 S	3 1	(36)	20~38	$NE \rightarrow SW$	N-50°-E
39	X282, Y54	[1.00]	18~28	6~14	W 1 E	Ξ 3	(37)	38~42	$NE \rightarrow SW$	N-43°-E
40	X282, Y54	[2.20]	18~26	8~14	N 3 S	5 2	(38)	35~40	$NE \rightarrow SW$	N-40°-E
41	X282, Y54	[2.40]	18~23	4~8	N 6 S	5 2		_	$NE \rightarrow SW$	N-38°-E
42	X282, Y54	[1.85]	16~26	9~15	N 5 S	3 3	(39 • 4	10)34~40	$NE \rightarrow SW$	N-41°-E
43	X281 • 282, Y54	[1.75]	18~20	6~12	N 2 S	5 2	(41)	45~50	$NE \rightarrow SW$	N-40°-E
44	X281 • 282, Y54	0.90	16~21	9~10	N 3 S	3 4		_	$NE \rightarrow SW$	N-50°-E
45	X281 • 282, Y54	[1.35]	20~26	8~10	W 4 E	£ 4		_	$NE \rightarrow SW$	N-92°-E
46	X 289, Y 41	[0.50]	16~18	6~11	N 7 S	5 2	(42)	25~28	$NE \rightarrow SW$	N-33°-W
47	X289, Y41	[0.82]	10~15	$4 \sim 7$	N 4 S	3 1		_	$NE \rightarrow SW$	N-27°-W
48	X289 • 290, Y41 • 42	[1.80]	14~25	8~16	N 3 S	3 1	(43)	53~55	$NE \rightarrow SW$	N-28°-W
49	X289 • 290, Y41 • 42	[2.75]	8~15	4~11	N 6 S	3 3		_	$NE \rightarrow SW$	N-22°-W
50	X290 • 291, Y42	[2.95]	12~18	4~9	W 2 F	Ξ 3	(44)	38~70	$E \rightarrow W$	N-95°-E
51	X290 • 291, Y42	[2.40]	12~15	6~9	W1 E	Ε 2		_	$E \rightarrow W$	N-88°-E
	·									

4 2区の概要

2 区の調査は、灰黄褐色砂質土層を確認面とした。北東方向から南西方向へ牛池川左岸に向かって、段状に自然傾斜が始まる上面でW-1号溝跡を、傾斜面から竈構築材採掘坑跡を検出した。

(1) **電構築材採掘坑跡**〔第9·10図、図版4〕

位置 X251・252, Y92・93グリッド 規模 形状が判明する遺構で見ると、長辺45~83cm、短辺14~(38)cm、厚さ15~18cm程の掘り込み跡が検出された。 特徴 長方形で上幅が広く、下幅がやや狭い採掘坑跡が多い。各遺構はほぼ同様な規模と見られ規格性を看取でき、専門的に採掘を行っている状況が推測される。付近一帯には総社砂層と呼ばれる地層中に凝灰岩質の層があり、この層から採掘した石材は、容易に加工できる石材として古代住居跡の竈構築材などに使用され数多く出土する。 遺物 須恵器片が3点出土したが、掲載できるものはなかった。 時期 明確にできないが、4区の竈構築材採掘坑跡が検出されたW 一1号溝跡では、覆土に As-B 軽石が堆積しており、他の遺跡での検出事例も勘案すると平安時代以前の可能性が高いと思われる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡〔第9 · 10図、図版 4 〕

位置 X252・253, Y92~95グリッド 形状 傾斜面に沿って北西方向から南東方向に走行する。底は平坦で硬く、水に削られたと思われる凹みには砂礫が溜まっていた。 規模 全長13.6m、上幅[420]cm、下幅324cm、深さ北西側32cm、南東側70cm、溝底の標高は北西側117.42m、南東側117.15mを測る。 遺物 出土しなかった。 時期 覆土に As-B 軽石が流れ込んでいることから中世初頭頃と思われるが、4・5 区で検出の溝跡よりは浅く、蒼海城の縄張り図にも該当する堀は確認できず、どのような性格の溝跡か、現時点では不明である。

5 3区の概要

3 区は、表土下50~100cm掘削した所を確認面とし、平安時代の住居跡17軒(竈のみの1 軒を含む)、平安時代~中近世の土坑15基、平安時代~中世の井戸跡2基、中世の溝跡1条を検出した。全体に西方向から北東方向へ傾斜しており、西側では凝灰岩質の総社砂層を、東側では砂質の総社砂層を地山面としている。このため、東側では住居跡の確認が困難な状況が見られた。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡〔第11・12図、図版4・5〕

位置 X243・244, Y180グリッド 重複 無し。西、北側は調査区外。 形状 (隅丸長方形) 規模 東西[2.00]m、南北[1.57]m、現壁高20cm。 面積 [3.36]m² 主軸方向 (N-84°-E) 床面 平坦で 床面標高は115.40mを測る。堅い凝灰岩質の地山面までを掘り方として、薄く貼り床を施す。 柱穴 2基 検出。中央部のP₁ は長径38cm、短径[25]cm、深さ13cmの円形、南側のP₂ は長径34cm、短径29cm、深さ12 cmの円形。 貯蔵穴 南東隅に設けられ、長径117cm、短径72cm、深さ12cmの長方形。 電 検出されな かった。 遺物 掲載したものは須恵器坏 (1) である。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半~11世紀前 半と考えられる。

H-2号住居跡 [第11・12・13図、図版 4 ・ 5]

位置 X243・244, Y180・181グリッド 重複 東側でH-4・6号住居跡と重複。西、南側は調査区外。 形状 (長方形) 規模 東西[3.90]m、南北[2.40]m、現壁高[4]cm。 面積 [8.64]m² 主軸方向 (N-85°-E) 床面 平坦で、床面標高は115.50mを測る。単独部分では地山面に、重複部分では、H-4・6号住居跡の覆土上に貼り床を施す。 柱穴 2基検出。P1は長径24cm、短径23cm、深さ37cmの円形、P2は長形28cm、短径25cm、深さ25cmの円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 竈 東壁に検出。トレンチを入れる際に北側を掘り抜いているが、調査区南壁セクションに炭化物を含む土層があり、これにより位置と残存全長を確認。主軸方向不明。全長[140]cm。 遺物 掲載できるものはなかった。 時期 重複状況から10世紀代と考えられる。

H-3号住居跡〔第11・12・13図、図版4・5〕

位置 X244・245, Y179・180グリッド 重複 無し。北側は調査区外。 形状 (長方形) 規模 東西2.95m、南北[1.75]m、現壁高13cm。 面積 [5.12]m² 主軸方向 (N-85°-E) 床面 平坦で、地山面に貼り床を施す。床面標高は115.30mを測る。 竈 検出されなかった。 遺物 掲載したものは須恵器大甕 [確認面覆土出土] (1)、須恵器高台付埦 (2)、須恵器羽釜 (3)、須恵器坏 (4) である。 時期 覆土や出土遺物から10世紀代と考えられる。

H-4号住居跡〔第11・12・13図、図版4・5〕

位置 $X244 \cdot 245$, $Y180 \cdot 181$ グリッド **重複** $H-2 \cdot 6$ 号住居跡、D-9 号土坑、W-1 号溝跡と重複。南側は調査区外。 形状 (長方形) 規模 東西3.20m、南北[3.40]m、現壁高50cm。 面積 [11.20]m² 主軸方向 ($N-87^{\circ}-E$) 床面 平坦で堅緻。H-6 号住居跡の床面に堆積した土層上に貼り床を施す。床面標高は115.30mを測る。 柱穴 8 基検出($P_6 \cdot P_7 \cdot P_8$ は掘り方で検出し、H-6 号住居跡に伴う可能性がある)。南壁中央の P_1 は長径30cm、短径29cm、深さ18cmの円形。南壁中央の P_2 は長径44cm、短径[39]cm、深さ[16]cmの円形。北東隅の P_3 は長径44cm、短径42cm、深さ11cmの円形。北西隅の P_4 は長径56cm、短径53cm、深さ27cmの円形。西壁中央寄りの P_5 は長径 $P_7 \cdot P_8 \cdot P_$

H-5号住居跡〔第11·14図、図版4·6〕

位置 X245・246, Y179・180グリッド 重複 南側でH - 7号住居跡と重複。北側は調査区外。 形状 (長方形) 規模 東西2.95m、南北[2.25]m、現壁高13cm。 面積 [3.86]m² 主軸方向 (N-77°-E) 床面 地山面を掘り込んで床面を構築する。平坦で堅緻。床面標高は115.00mを測る。 柱穴 2 基検出。南西隅のP₁ は長径77cm、短径66cm、深さ12cmの円形。南壁中央寄りのP₂ は長径60cm、短径50cm、深さ16cmの円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 遺物 掲載したものは須恵器 坏 (1) である。 時期 覆土や出土遺物から11世紀代と考えられる。

H-6号住居跡〔第11・12・13・14図、図版4・5〕

位置 X244・245, Y180・181グリッド 重複 H-2・4号住居跡、D-9号土坑、W-1号溝跡と重複。南側は調査区外。 形状 (隅丸方形) 規模 東西3.85m、南北[2.55]m、現壁高[10]cm。 面積 [8.15]m² 主軸方向 (N-98²-E) 床面 地山に貼り床を施す。床面標高は115.20mを測る。壁周溝有り。 柱穴 不明 (H-4号住居跡 P₆・P₇・P₈が該当する可能性を有す)。 貯蔵穴 検出されなかった。 電 検出されなかった。 遺物 掲載できるものはなかった。 時期 重複状況より10世紀前半と推測。

H-7号住居跡〔第11・14図、図版4・6〕

位置 X245・246, Y180グリッド 重複 北側はH-5号住居跡と、中央部はD-10号土坑と重複。 形状 (隅丸方形) 規模 東西3.20m、南北[2.65]m、現壁高16cm。 面積 [5.13]㎡ 主軸方向 N -88°-E 床面 平坦で堅緻。地山面を掘り込んで床面を構築する。床面標高は115.00mを測る。 柱穴 検出されなかった。 貯蔵穴 検出されなかった。 竈 検出されなかった。 遺物 掲載できるものは なかった。 時期 覆土や重複するH-5号住居跡が11世紀代と考えられるのでそれ以前と推測した。

H-8号住居跡〔第11・15図、図版4・6〕

位置 X246・247, Y179・180グリッド 重複 南側でH-9号住居跡と、北東側でI-1井戸跡と重複。 形状 (長方形) 規模 東西3.67m、南北[3.65]m、現壁高31cm。 面積 [11.17]m² 主軸方向 N-83°-E 床面 地山面を粗掘りした後、土を入れて堅緻な平坦面を作る。床面標高は114.10mを測る。 柱穴 1基検出。P₁は長径40cm、短径37cm、深さ21cmの円形。 土坑 1基検出。D₁は長径126cm、短径110cm、深さ29cmの円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 竈 南東隅に検出。主軸方向N-110°-Eで、全長124cm、最大幅55cm、焚き口部幅45cmを測る。焚き口部はピット状に凹む。 遺物 掲載したものは土師器羽釜 (1)、須恵器高台付埦 (2) である。 時期 覆土や出土遺物から10世紀中葉〜後半と推測。

H − 9 号住居跡〔第11 · 15図、図版 4 · 6〕

位置 X246・247, Y180グリッド 重複 北側はH-8号住居跡と重複のため西壁、南壁のみ残存。 形状 (長方形) 規模 東西[2.60] m、南北[2.34] m、現壁高22cm。 面積 [2.37] m² 主軸方向 (N-86°-E) 床面 地山面まで粗掘りした後、土を入れて平坦面を構築する。床面標高は114.90mを測る。 柱穴 検出されなかった。 貯蔵穴 検出されなかった。 竈 検出されなかった。 遺物 掲載したものは平瓦 (1)、丸瓦 (2)、須恵器坏 (3) である。 時期 覆土や出土遺物から10世紀前半~中葉と推測。

H-10号住居跡〔第11・16・17図、図版 4 ・ 5 ・ 6 ・ 8〕

位置 X248・249, Y178・179グリッド 重複 H-12・15・16号住居跡と重複。北側は調査区外。 形状 (隅丸方形) 規模 東西4.20m、南北[2.92]m、現壁高46cm。 面積 [10.76]㎡ 主軸方向 (N-92°-E) 床面 地山面を掘り込んで平坦な床面を構築する。床面標高は114.20mを測る。 柱穴 2 基検出。南東隅の P1 は長径30cm、短径26cm、深さ11cmの円形。南東隅の P2 は長径30cm、短径25cm、深さ6 cmの円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 竈 東壁の北側に検出。北半分は調査区外。主軸方向[N-2°-W]、全長[135]cm、最大幅[40]cm、焚き口部幅[38]cmを測る。粘土で短い袖を構築する。H-16号住居跡竈が近接。 遺物 掲載したものは平瓦 (1)、須恵器坏 (2)・(7)、砥石 (3)、須恵器羽釜 (4)、黒色土器埦 (5)・(6)、須恵器埦 (8)、緑釉陶器高台付皿 (9)、鉄鏃 (10)、鉄製品 (11) である。 時期 重複状況より10世紀後半と推測。

H-11号住居跡〔第11・16・17・19図、図版 5 ・ 7 ・ 8 〕

位置 X249・250, Y179・180グリッド 重複 南東側はH-13号住居跡と、北側はD-13・14号土坑、H-15・16号住居跡と重複。 形状 (隅丸長方形) 規模 東西4.34m、南北3.30m、現壁高34cm。 面積 [8.66]㎡ 主軸方向 (N-85°-E) 床面 地山を掘り込んで平坦な床を構築する。床面標高は114.60mを測る。 柱穴 2 基検出。北東隅のP₁ は長径54cm、短径46cm、深さ26cmの円形。北壁中央のP₂ は長径[53]cm、短径[50]cm、深さ32cmの (円形)。 貯蔵穴 検出されなかった。 竈 検出されなかった。 遺物 掲載したものは須恵器高台付埦 (1)、土師器土釜 (2) である。 時期 出土遺物から10世紀中葉と推測。

H-12号住居跡〔第11・16・18図、図版5・6・7〕

位置 X247・248, Y178・179グリッド 重複 東側はH-10号住居跡と、南東側はH-15号住居跡と重複。北側は調査区外。 形状 (長方形) 規模 東西[3.00]m、南北[2.13]m、現壁高20cm。 面積 [5.93]㎡ 主軸方向 N-88°-E 床面 ほぼ地山面まで掘り込んで平坦に堅緻な床を構築する。床面標高は114.40mを測る。 柱穴 検出されなかった。 貯蔵穴 検出されなかった。 竈 南東隅に検出。東半分はH-10号住居跡構築時に滅失。主軸方向N-148°-E、全長[85]cm、最大幅 不明、焚き口部幅[74] cmを測る。丸瓦、凝灰岩の切石を支脚とする。上部は攪乱されて底部のみ残存する。 遺物 掲載したものは黒色土器高台付埦 (1)、須恵器埦 (2)、須恵器高台付埦 (3)・(6)、須恵器坏 (4)・(8)・(9)、丸瓦 (5)、須恵器高脚高台付埦 (7) である。 時期 覆土や出土遺物から10世紀中葉と考えられる。

H-13号住居跡〔第11・16・17・18・19図、図版5・7・8〕

位置 X249~251, Y180・181グリッド 重複 北西側はH-11号住居跡と重複。本住居跡竈の南に並列 する竈を1基検出しており、もう1軒(H-17号住居跡)重複していると考えたが、ほぼ並列しており、住 居跡の東壁は共用に近い状況で新旧関係は不明である。南側は調査区外。 形状 (隅丸方形) 規模 東 西4.87m、南北[4.70]m、現壁高40cm。 **面積** [21.04]m **主軸方向** N-87-E **床面** 掘り方に炭化 物を薄く散布した後、平坦な貼り床を施す。壁周溝有り。床面標高は114.50mを測る。 **柱穴** 6基検出。 中央北東寄りの P_1 は長径60cm、短径56cm、深さ27cmの円形。中央北西寄りの P_2 は長径45cm、短径40cm、 深さ24cmの円形。南側中央のP3 は長径54cm、短径[46]cm、深さ21cmの円形。東側中央の南 (掘り方面) に検 出した P4 は長径39cm、短径36cm、深さ50cmの円形。中央北西寄り(掘り方面)に検出した P5 は長径33cm、 短径29cm、深さ24cmの円形。北西隅(掘り方面)に検出した P。は長径25cm、短径24cm、深さ27cmの円形。 土坑 3基をいずれも掘り方から検出。北東隅のD, は長径74cm、短径73cm、深さ35cmの円形。南側中央の D2 は長径[100]cm、短径[56]cm、深さ36cmの不整円形。南西隅のD3 は長径114cm、短径[82]cm、深さ48cm 貯蔵穴 南東隅竈前に検出。長軸175cm、短軸[119]cm、深さ50cmの不整方形。 竈 南東隅に検 出。主軸方向N-96°-E、全長192cm、最大幅71cm、焚き口部幅42cmを測る。焚き口部から煙道にかけて平 瓦を立てて壁面を構築する。煙道入口には瓦片を立てて両壁を作った後に、凝灰岩の切石を天井に架構して いた。南のH-17号住居跡竈と本住居跡竈を焚き口部の掘り方で比べると本住居跡竈の方が17cm低い位置に 遺物 掲載したものは灰釉陶器高台付城(1)・(13)、土師器鉢(2)、須恵器城(3)、須恵器坏(4)・ (5) · (6) 、須恵器高台付皿 (7) 、土師器土釜 (8) · (9) 、灰釉陶器壺 (10) 、鉄製紡錘車紡輪 (11) 、丸瓦 (12) 、 平瓦 (14) • (15) • (16) • (17) • (18)、土師器坏 (19)、砥石 (20)、須恵器蓋 (21)、鉄鏃 (22)、和釘 (23) である。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半~11世紀前半と考えられる。

H-14号住居跡〔第11·20図、図版 8〕

位置 $X252 \cdot 253$, $Y179 \cdot 180$ グリッド **重複** 無し。 **形状** (方形) **規模** 東西2.83m、南北3.45 m、現壁高10cm。南壁は攪乱により南東側に部分的に残存。東側は床面は検出できたが壁は検出できなかった。 **面積** [8.60]m² **主軸方向** $(N-73^{\circ}-E)$ **床面** 地山を掘り込んだ後、土を入れて平坦で堅緻な床面を構築する。床面標高は114.60mを測る。 柱穴 4 基検出した。北東の P_1 は長径19cm、短径18cm、深さ22cmの円形。北西の P_2 は長径24cm、短径17cm、深さ16cmの円形。南西の P_3 は長径33cm、短径30cm、深さ18cmの円形。南東の P_4 は長径50cm、短径47cm、深さ18cmの円形。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **電** 東壁中央に位置する。主軸方向 $N-69^{\circ}-E$ 、全長[84]cm、最大幅[53]cm、焚き口部幅[28]cmを測る。検出した段階で掘り方底部の残存を確認できたに止まる。焚き口部分に袖石状の凝灰岩を検出。 **遺物** 掲載できるものはなかった。 **時期** 覆土の状況から10世紀後半~11世紀代と考えられる。

H-15号住居跡〔第11・16図、図版6・8〕

位置 X248・249, Y179・180グリッド 重複 東側はH-11号住居跡と、北西側はH-12号住居跡と、北側はH-10・16号住居跡と重複。 形状 (長方形) 規模 東西[4.05] m、南北[3.55] m、現壁高30cm。 面積 [10.77] m² 主軸方向 (N-87°-E) 床面 地山を掘り込んで平坦な床を構築する。床面標高は114.40mを測る。 柱穴 1 基検出。 P₁ は長径55cm、短径[30] cm、深さ12cmの円形。 土坑 1 基検出。 D₁ は長径133cm、短径117cm、深さ15cmの楕円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 竈 検出されなかった。 遺物 掲載したものは須恵器坏(1)・(2)、土師器羽釜(3)、須恵器高台付埦(4)、灰釉陶器埦(5)である。 時期 覆土や出土遺物から10世紀中葉と考えられる。

H-16号住居跡〔第11・16・19図、図版 5 ・ 6 ・ 8 ・ 9〕

位置 X249・250, Y179グリッド 重複 西側はH-10号住居跡と、南西側はH-15号住居跡と、南側はH-11号住居跡、D-13・14号土坑と、東側でD-15号土坑と重複。 形状 (長方形) 規模 東西 3.50m、南北[2.83]m、現壁高29cm。 面積 [3.89]m² 主軸方向 (N-89°-E) 床面 地山面を掘り込んでいるが貼り床を施しているかはセクションを検討しても判然としない。掘り方は僅かにH-10号住居跡の方が深く掘り込む。床面標高は114.30mを測る。 柱穴 検出されなかった。 貯蔵穴 検出されなかった。 電 北東隅に検出。北側にH-10号住居跡竈が近接する。竈の掘り方下にD-15号土坑を検出。主軸方向N-93°-E、全長90cm、最大幅55cm、焚き口部幅35cmを測る。焚き口部は左右に粘土で短い袖を作る。 遺物 掲載したものは須恵器境(1)、須恵器坏(2)・(3)、鉄製紡錘車紡茎(4)である。 時期 重複するH-10号住居跡との新旧関係や規模から10世紀中葉と考えられる。

H-17号住居跡〔第11・16・19図、図版 5 ・ 9〕

位置 X250・251, Y181グリッド 重複 H-13号住居跡と重複。南側は調査区外。東壁はH-13号住居跡の東壁を共用している可能性がある。 形状 不明。 規模 不明。 床面 不明。 竈 H-13号住居跡東壁に検出。北側にH-13号住居跡竈が並列する。焚き口部掘り方はH-13床面より17㎝高い位置にある。主軸方向N-93°-E、全長135㎝、最大幅[28]㎝、焚き口部幅[48]㎝を測る。煙道入口部分に天井石を架構する。竈前面にH-13号住居跡貯蔵穴がある。 遺物 掲載したものは須恵器坏(1)・(2)である。 時期 出土遺物と、重複するH-13号住居跡の推定時期より以前の構築と見られることから10世紀中葉と考えられる。

(2) 溝跡

W−1号溝跡〔第11・12図、図版4・9〕

位置 X245, $Y179\sim181$ グリッド **重複** 南側は $H-4\cdot 6$ 号住居跡と、中間でD-1号土坑と重複。 方向は $N-27^\circ$ —Wであるが、H-4号住居跡と接する位置から $N-3^\circ$ —Wに変わり、ほぼ $H-3\cdot 4\cdot 5\cdot 7$ 号住居跡の間を流下する。 **形状** 試掘調査により掘り抜いおり南側が明確ではないが、調査区南壁セクションには上幅170cm、深さ36cm程の緩やかな凹みを見ることができ、そこから、平面形状が「く」の字状に蛇行している。断面形状は北側へ向かって緩やかな「U」字状を呈す。 **規模** 全長[5.40]m、上幅 $1.70\sim 2.05$ m、下幅 $1.18\sim1.22$ m、確認面からの深さ $36\sim40$ cmを、底面標高は南側で115.28m、北側で115.05mを測り、南から北に流れたと思われる。 **遺物** 北側の凹みに溜まった砂礫層中より流れ込み状態で出土した。掲載したものは須恵器坏($1)\cdot(2)\cdot(3)\cdot(4)\cdot(5)\cdot(6)$ である。 **時期** 覆土や重複状況などから中世頃と思われる。

(3) 土坑

土坑の概要〔第11・14・16・17・21図、図版4・5・9・10〕

3 区からは $D-1\sim15$ 号土坑までの15基の土坑を検出。そのうち遺物を出土したものは $D-1\cdot3\cdot4\cdot5\cdot6\cdot7\cdot8\cdot9\cdot10\cdot11\cdot12\cdot13\cdot15$ 号土坑の13基で、 $D-2\cdot14$ 号土坑からは出土していない。 時期別に分類すると、下記の通りである。

- ①覆土の様相や重複の関係から住居跡と同時期の平安時代と考えられるものは、 $D-5\cdot 6\cdot 7\cdot 8\cdot 9\cdot 15$ 号土坑の 6 基で、D-9 号土坑を除き、覆土に炭化物を多く含み、As-B 軽石をほとんど含まない。
- ②中世と考えられるものは $D-3 \cdot 4 \cdot 10 \cdot 11 \cdot 13 \cdot 14$ 号土坑の 6 基である。覆土に As-B 軽石を含み、締まりがないものがある。
- ③近世〜近代と考えられるものは $D-1 \cdot 2 \cdot 12$ 号土坑の3基である。現地表下の $I \cdot II$ 層を含み、覆土に粘性、締まりがない。

遺物 掲載したものは須恵器坏 $D-3 \cdot 10 \cdot 11$ 土坑である。

各土坑の計測値は第9表にまとめた。

なお、D-9号土坑については次に別記した。

第9表 3区土坑計測表

()は推定、[]は検出値を表す。

土坑No.	遺構	位置	長径・軸 (cm)	短径·軸 (cm)	深さ(cm)	形状	備考		
D-1	X 245,	Y 180 • 181	80	78	90	円	土師器片 W-1と重複		
D-2	X 246,	Y 181	[125]	[34]	10	円	南側は調査区外		
D-3	X 246 • 247,	Y 180 • 181	150	132	24	不整円	土師器片		
D-4	X248,	Y 180 • 181	94	79	30	円	土師器・須恵器片 東側攪乱		
D-5	X250 • 251,	Y 179	103	86	24	不整円	土師器・須恵器・灰釉陶器片		
D-6	X250 • 251,	Y 179	140	98	15	隅丸方形	須恵器片		
D-7	X251,	Y 179	130	90	15	隅丸方形	土師器片		
D-8	X251,	Y179	115	102	46	円	土師器・灰釉陶器片		
D - 9	X244,	Y 180	138	124	85	方形	須恵器片 H-4・6掘り方下		
D-10	X 245 • 246,	Y 180	125	120	25	不整円形	須恵器片・砥石 H-7と重複		
D-11	X 247,	Y 180 • 181	194	169	30	不整形	須恵器·灰釉陶器片		
D-12	X 249,	Y 180 • 181	114	95	84	楕円	須恵器片		
D-13	X 249,	Y 179 • 180	155	[89]	39	隅丸方形	土師器・須恵器片 H-11・16と重複		
D-14	X249,	Y 179	[80]	[74]	35	(円)	H−11・16と重複		
D-15	X249 • 250,	Y 179	[235]	[93]	26	不整形	土師器・須恵器片 H-10・16竈下		

D-9号土坑〔第11·14図、図版15〕

位置 X244, Y180グリッド 平面形状は方形。断面形状は、底部でオーバーハングし袋状を呈す。 規模 上部長124×138cm、底部長182×186cm、深さ85cm。 重複 H-4・6号住居跡の掘り方下で検出。総社砂層凝灰岩質層から褐灰色土層まで掘り込む。土坑底部に噴砂の痕を検出。覆土に少量の炭化物を含む。北側と西側で高低差2~10cm程の方形の段が本遺構を囲むように検出されたが、本遺構に付帯するかは不明。 属性 ①地下式土壙、②土壙墓、③祭祀関係遺構などが推測されるが、本遺構は出土遺物から10世紀代以前の構築で、いわゆる中世の地下式土壙とすることはできない。付近の遺跡からは人骨を伴う土壙墓も検出されているが、本遺構からは焼土、人骨は出土しなかった。また、祭祀に関係する遺物も出土しなかった。本遺構の属性は現時点では不明である。遺物は須恵器高台付埦底部が1点出土したが掲載できなかった。

(4) 井戸跡

Ⅰ − 1 号井戸跡〔第11 • 20図、図版 4 • 9〕

位置 X247, Y179グリッド **重複** I - 2 号井戸跡と重複。 **形状** 確認面では楕円形で、下部へ向かって円形に変わりロート状を呈す。 **規模** 上端の長径174cm、短径154cm、下端の長径77cm、短径72cm、確認面からの深さ165cmを測る。 **覆土** As-B 軽石を含んで締まりがなく、短期間で埋没と推測。 **遺物** 掲載したものは埴輪(1)、須恵器皿(2)、須恵器羽釜(3) である。 **時期** 不明(平安時代~中世か)。

I - 2 号井戸跡〔第11・20図、図版 4 ・ 9 〕

位置 X247, Y179グリッド 重複 I — 1 号井戸跡と重複。 形状 確認面では楕円形で、上端から中段にかけて広く、北東側は方形状、北西から南西側はオーバーハングして緩やかに傾斜、下端に向かい狭くロート状を呈す。 規模 上端の長径225cm、短径174cm、下端の長径74cm、短径70cm、確認面からの深さ223cmを測る。 覆土 As-B軽石や白色軽石などを含み、住居跡と同様の土層が見られる。 遺物 掲載したものは底部から出土した土師器羽釜(1)・(2)である。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀後半頃と思われる。

6 4区の概要

4 区は、発掘箇所が東西の 2 箇所に分かれる。西側調査区より作業に入り、表土から60cm程掘削した面で、灰黄褐色土層を検出し、これを確認面として順次、作業範囲を広げた。西側調査区からは平安時代のW-1号溝跡、竈構築材採掘坑跡、中世のW-2号溝跡(堀跡)、W-2号溝跡の底面からD-1号土坑を、東側調査区からは中世のW-3号溝跡(堀跡)を検出した。

(1) **電構築材採掘坑跡(西)**〔第22·24図、図版11〕

位置 X126・127、Y242・243グリッド。W-1号溝跡の壁面で、緩やかに傾斜し一部テラス状に平坦になる部位で採掘している。この部位は総社砂層中の凝灰岩質層では特に硬質な層である。規模は長径100~125 cm程の採掘坑跡を数箇所検出した。形状は不整円形に斜面を掘り、その中で良質な材料となる部分を面取り加工している。 電構築材採掘坑跡の内の 1 箇所で取り残された切石 2 個を検出した。その周囲には掘削時の痕跡と推測される筋が、段状または半月状の掘削痕として観察できた。取り残された切石 2 個は長辺36cm~39 cm、短辺18cm~21cm、厚さ10cm程で両方とも短辺が一部欠損しているが、面取り加工が施されている。時期は、As-B 軽石の純層がW-1号溝跡の覆土中に存在しており、本遺構での採掘はW-1号溝跡の形成から埋没までの間に行われたと推測されることから平安時代以前と思われる。遺物で掲載できるものはなかった。

(2) 溝跡

W-1号溝跡(西)〔第22 ⋅ 23図、図版11〕

位置 X126~130、, Y241~245グリッド **重複** 北壁面には竈構築材採掘坑跡がある。北東側は東西方向に走行するW-2号溝跡(堀跡)と重複。 **形状** 北東方向から南西方向に走行しN-49°-Eである。断面形は逆台形状を呈す。 **規模** 全長[21.60]m、上幅3.84m~7.45m、下幅2.75m~4.90m、確認面からの深さ1.27~1.65mを、底面標高は北東側で117.24m、南西側で116.71mを測り、北東方向から南西方向へ低くなる。 **覆土** As-B 軽石の純層が堆積する。 **遺物** 掲載したものは土師器甕(1)、かわらけ坏(2)、皿(3)、軟質陶器甕(4)である。 **時期** As-B 軽石層の堆積状況や出土遺物から平安時代以前の遺構思われる。

W-2号溝跡(西)(堀跡)〔第22 ⋅ 23図、図版11 ⋅ 12〕

位置 X126~132, Y239・241グリッド **重複** W-1号溝跡と重複。北壁は調査区外。 **形状** 溝跡の南壁面を検出。方向は北東方向から南西方向に走行しN-73°-Eである。断面形状は、段を有して逆台形状と思われる。 規模 全長は[22.60]m、上幅[2.95]m~[5.70]m、下幅[1.05]m~[3.30]m、確認面からの深さ[2.39]~[2.54]mを測る。底面標高は北東側で115.76m、南西側で115.59mを測る。 遺物 掲載したものは軟質陶器焙烙(1)、軟質陶器火鉢(2)、陶器埦(3)、陶器徳利(4)である。 **時期** W-1号溝跡よりも新しく、出土遺物に16世紀前後の資料を含んでおり、古代以前の遺物や軽石を含まないので、中世以降と推測される。

W−3号溝跡(東)(堀跡)〔第22・24図、図版11〕

位置 X137~139, Y232・234グリッド **重複** 無し。 **形状** 溝跡の南北両壁面を検出。北東方向から南西方向に走行しN-53°-Eである。断面形状は壁面に段を有し、底部は逆台形状である。 規模 全長は6.60m、上幅[6.60]m~[7.10]m、下幅0.90m~1.40m、確認面からの深さ2.22~2.42mを、底面標高は北東側で114.73m、南西側で114.71mを測る。 遺物 掲載したものはかわらけ坏 (1)、石臼 (2) である。 時期 出土遺物に15世紀前後の資料を含んでおり、古代以前の遺物や軽石を含まないので、中世以降と推測される。

(3) 土坑

D − 1 号土坑 (西) 〔第22 · 24図、図版12〕

位置 X128・129, Y240グリッド 重複 W-2号溝跡(堀跡)の底部から検出。北側半分は調査区外。 形状 平面形状は方形、断面形状は逆台形状を呈す。 規模 長径[110]cm、短径[70]cm、深さ36cm、底面標高は115.98mを測る。 覆土 細砂、白色軽石、灰白色土を含む。 遺物 出土しなかった。 時期 W-2号溝跡(堀跡)より新しい別の遺構と考えられるが、橋脚などの溝跡(堀跡)に伴う構造物の可能性も考えられ、いずれにしても中世以降と推測される。

7 5区の概要

5 区は、発掘箇所が東西の 2 箇所に分かれる。東側調査区より作業を開始し、表土から80cm程掘削した面で、灰黄褐色土層を検出し、これを確認面とし順次、作業範囲を広げた。東側調査区からW-1 号溝跡(堀跡)、西側調査区よりW-2 号溝跡(堀跡)を検出した。

(1) 溝跡

W− 1 号溝跡(東)(堀跡)〔第25 · 26図、図版12〕

位置 X189~193, Y211・212グリッド **重複** 無し。北壁は調査区外。 **形状** W-1号溝跡(堀跡)の南壁面を検出。東西方向に走行しN-80°-Eである。断面形状は逆台形状と推測。 **規模** 全長[15.00] m、上幅[4.75]~[5.40] m、下幅[2.10]~[2.73] m、確認面からの深さ[2.45]~[2.61] mを、標高は東側底面112.81 m、西側底面113.30 mを測る。 **遺物** 掲載したものはかわらけ坏(1)、軟質陶器内耳土鍋(2)、硯(3)、板碑(4) である。 **時期** 出土遺物に15~16世紀の資料を含んでおり中世以降と推測。

W-2号溝跡(西)(堀跡)[第25・26図、図版12]

位置 X186, Y216~219グリッド 重複 無し。壁面は掘削範囲外にあり底部のみ検出。 形状 W - 2 号溝跡 (堀跡) 底部に西壁の立ち上がり部分を検出。北方向から南方向に走行しN-0°である。断面形状は部分的な検出状況のため不明。 規模 全長[10.90]m、上幅[2.82]~[2.90]m、下幅[1.63]~[2.40]m、確認面からの深さ[3.60]mを、標高は南側底面111.89m、北側底面112.80mを測る。なお、本調査区は湧水が著しく、崩落の危険性が増大し、段掘り状に掘削する調査を行ったため、限定的な検出に止まった。 遺物 掲載したものは かわらけ坏 (1)・(2)・(3)、灰釉陶器高台付皿 (4)、桟瓦 (5)、石臼 (6)、軟質陶器内耳土鍋 (7) である。 時期 出土遺物に15世紀前後の資料を含んでおり中世以降と推測される。

Ⅵ ま と め

今回の調査では、古墳時代~平安時代・中近世の貴重な資料を得ることができた。各区の検出遺構の一部 について若干の考察を述べてまとめとする。

1 1区1面 As-B 軽石層下水田跡について

1区1面において検出の As-B 軽石層下水田跡は道路範囲の調査のため部分的な検出ではあるが、畦畔や水田に伴う溝跡を検出した。畦畔はやや湾曲気味であるが東西方向または南北方向にとる遺構と、北西方向 ~南東方向にとる遺構を検出した。溝跡も検出した範囲で同様な状況であるが後者が多い。As-B 軽石の堆積 状況や標高差などから推測すると、水田跡は北西方向から南東方向へ広がる可能性が高い。

この時期の水田跡は条里制の地割りを残している可能性が考えられ、国府範囲を推定する説も条里制区画を基本として発表されており、周辺地割りもそれにならっていると推測される。本調査区で検出した畦畔も推定国府域に近接した水田跡であることから条里制区画を構成する地割りの中に位置付けられる可能性もあるが、条里制区画に伴う大畦畔は検出されなかった。

近年の発掘調査では前橋市内でも条里制水田跡が多数報告されており、市内東部に位置する中原遺跡群においては弘仁9年(西暦818年)の地震に起因する洪水層に覆われた9世紀代の水田跡が検出され、条里制区画が確認されている。また、市内南部に位置する南部拠点地区遺跡群からは大畦畔が検出され、条里制区画が確認されている。また、本遺跡群の南方に位置する日高遺跡をはじめとして、隣接する高崎市域にかけて多くの条里制水田跡が検出されており、今後、本遺跡群ならびにその周辺地域において、当該時期水田跡検出例が増加することを期待するとともに、古代には群馬郡に属していたと考えられることから、他市町村を含め、想定される古代群馬郡全域も視野に入れて理解してゆきたい。

2 1区2面 Hr-FA 層面の 晶跡について

1区2面では Hr-FA 層で畠のサク跡を検出した。サク跡に Hr-FA 層が残るものと、Hr-FA 層を掘り込んでいるものの2種類がある。遺構の走行方向では東西方向~南北方向の遺構と北東方向~南西方向の遺構、北西方向~南東方向の遺構の3種類がある。これらは基本的にそれぞれまとまって検出された。全体の規模は、サク間幅は4~74cm、サク幅は上幅で8~54cmを測る。サク列幅は一定の長さを基本に耕作したと思われるが、計測値から見ると幅に乱れがあり一部には枝分かれするものや湾曲するものが見られる。さらにサク跡は「U」字状の掘り込みで深さ1~11cm程で浅いものが多い。また。サク跡は調査区全体の中で部分的に検出されたが、Hr-FA 層が薄くサク跡や畝跡が未検出の部分は休耕地等の可能性もあり、サク跡と同様に注意深く調査したが、良好な結果が得られなかった。

古墳時代の畠跡が検出された1区を俯瞰して見てみると、西に向かって緩やかに標高が高くなる傾向が見られ、西へ50m程に位置する総社甲稲荷塚大道西遺跡B区、総社甲稲荷塚大道西II遺跡の調査では、耕作跡は検出されず、古墳時代の住居跡、溝跡等が検出されている。1区周辺での畠跡の検出例が少ないこともあり、断定はできないが、1区の東側に畠遺構が広がる可能性がある。付近では元総社牛池川遺跡(古墳一水田跡)、元総社北川遺跡(古墳一水田跡)、総社閑泉明神北遺跡(古墳一水田跡・畠跡)、大友宅地添遺跡(古墳一島跡)などから古墳時代の水田跡や畠跡が検出されている。また、本遺跡群の北西の相馬が原扇状地に位置する、古墳時代豪族居館跡の北谷遺跡(標高145m)周辺に Hr-FA 層下の畠跡が検出されている。標高差で見ると本調査区と最高で27m程の差がある。木津博明氏は本遺跡群周辺の古墳時代後期の土地利用について概念図を発表されているがい、1区の位置には特殊域と生活域の境界を想定されている。そしてこの特殊域には上毛野君の居館を想定されているようである。今回の調査ではこれを肯定するような結果は得られなかったが、こうした周辺地域を含め、総合的に俯瞰して見ることで地域社会での本遺構の位置付けも明確になるだろう。

(1) 木津博明 「古代群馬郡考(上)・(下)」『群馬文化』第219号・第220号 群馬県地域文化研究協議会 1989

3 2区・4区竈構築材採掘坑跡について

2区・4区の凝灰岩質層から竈構築材採掘坑跡を検出した。

2 区では、形状が長方形の採掘坑跡が緩やかな斜面に段々に重なった状態で残されていた。採掘状況は、斜め上方から深く掘り込んでいるものと、平坦な面に垂直に採掘された長方形状の2種類の遺構が見られる。採掘坑跡には上幅が下幅より広く残る遺構もある。採掘にはノミ状工具の使用が推測される。4 区では、形状が不整円形状の採掘坑跡を数箇所検出した。その内の1箇所で採掘坑中に取り残された切石を検出した。また、一部の採掘坑跡に掘削時の工具痕と思われる痕跡が見られた。採掘範囲は斜面の上端から深さ70~100 cm程で、採取に適した礫の少ない比較的硬質な層を選択し採掘している。

これらの状況を、検出規模の大きい鳥羽遺跡O区第1台地竈構築材採掘坑跡、大屋敷遺跡C区竈構築材採掘坑跡と比較すれば、本調査区の2区検出竈構築材採掘坑跡に規模や形状、規格性などの類似点が認められ、4区の採掘坑跡とは形態が異なる様相が見られた。これは、採掘時期や工具の使用方法、工人などの違いによるものと推測される。

採掘場所については4区の採掘坑跡は覆土中にAs-B軽石層の純層が堆積する溝跡壁面から検出された。 2区では、大屋敷遺跡と同様、傾斜面において採掘坑跡が検出されたが、鳥羽遺跡では、溝以外の採掘が容易な場所において大規模に採掘している。いずれも凝灰岩質層の露頭を選定して行うことは共通する。

採掘時期については、覆土に As-B 軽石層の純層が堆積する溝跡壁面に検出した 4 区竈構築材採掘坑跡は下限を11世紀以前と推測する。 2 区については明確にできないので、他の事例にあたってみたい。前述の鳥

羽遺跡では奈良時代~平安時代にかけての住居跡竈構築材に切石を使用しており、消費地の側面から推定年代を導いている。また、大屋敷遺跡では、W-9・10号溝跡の覆土上部に As-B 軽石層が堆積する状況から、12世紀初頭以前を下限とし、同遺跡H-126・153・155・158号住居跡が凝灰岩質層の切石を用いた 6 世紀代の住居跡であることから 6 世紀を上限にしている。本調査区 3 区H-13号住居跡竈でも天井に架構にされており、10世紀後半~11世紀前半の住居跡と思われることから、鳥羽遺跡や大屋敷遺跡の推定年代の範囲内にあるといえる。このように 4 区での下限年代や類似遺構の検出された鳥羽遺跡、大屋敷遺跡例を勘案するならば、2 区の竈構築材採掘坑跡の推定年代は、概ね 6 世紀~11世紀のいずれかの時期と推測しておきたい。今後、検出事例が増えることにより採掘時期や方法など詳細な研究が進展することを期待したい。

4 4・5区の溝跡(堀跡)について

4 区W-2・3 号溝跡・5 区W-1・2 号溝跡について中世以降の構築と推測した。以下に所見を述べる。 山崎 一氏の研究によれば⁽¹⁾、本遺跡群の位置に蒼海城という長尾氏の中世城館跡が記述されている。また、長尾一央氏蔵古図にも縄張りが描かれている。

相模国鎌倉郡長尾郷を本貫地とする長尾氏は上杉氏被官の武士で、系図上で5系統に分かれ、その内の2系統が総社長尾氏とされる。この総社長尾氏が蒼海城を築城した年代は明確ではないが、上杉憲定が応永10年(西暦1403年)、上野国衙職を幕府から宛がわれており、この頃には上野に進出したと考えられている。高崎市東国分町で発見された梵鐘銘には応永17年(西暦1410年)に長尾憲明らが妙見寺に梵鐘を寄進した旨が刻まれており、また『上毛伝説雑記』は永享元年(西暦1429年)の築城を記し、『白井長尾世系略』では永享11年(西暦1439年)に長尾景行の蒼海城築城を記す。以上はいずれも15世紀前半の年代で収まるが、これ以外に貞治2年(西暦1363年)築城説がある。落城についても明確ではないが、永禄8年(西暦1565年)に武田信玄が諏訪大社上社に納めた願文中に箕輪城と共に惣社等も手中にしたい旨が記されており、この段階では落城していない。しかし、長年寺住持受連の覚書には箕輪城が永禄9年(西暦1556年)9月に落城したと記述され、以後、西上野が武田氏の領国となることから、この前後には蒼海城も落城したものと考えられている。その後、諏訪氏、秋元氏の領有となるが、秋元氏は勝山城を築城し、落城後は荒廃していったとされている。

今回、中世の遺構と考えた溝跡(堀跡)は、山崎氏の研究を現在の地図と図複した図上に示すと(第25図参照)、山崎氏が調査した堀跡と概ね一致する位置にあたり、以下に述べる年代観とも矛盾がなく、考古学的に山崎氏の研究の一端が理解できた。

出土遺物は15世紀代と考えられる陶器や16世紀代と考えられる内耳土鍋、焙烙など蒼海城が機能していたであろう年代と合致する遺物が検出された。これらの遺物は原位置ではなく、覆土中から一括して採取した遺物であって、直ちに遺構の年代に結び付けることはできないが、 $4 \, \text{EW}-1$ 号溝跡のような As-B 軽石の堆積もなく、古代以前の遺物も検出されておらず、消極的ながら、溝を構築した年代の上限を少なくとも中世以降と考えざるを得ない。また、京都府室町殿濠跡など、時期の近い遺構に類似した様相を見ることができ、障子堀構造や石垣などの構造は検出されなかった。さらに、掘削の作業単位(小間割)のような痕跡も確認できなかった。

覆土中には近世の遺物も見られ、また、近代に盛り土して埋めている部分もある。埋没するまでの時間が 長いことを看取した。

今回の出土資料は部分的な検出に止まったため言及できる範囲は限られるが、今後、本遺跡群の調査が進み、遺構・遺物等が集成される際に、その属性も明らかにされるであろう。

(1) 山崎 一 『群馬県古城塁址の研究』上巻 群馬県文化事業振興会 1971

5 住居跡の時期と分類

3区より住居跡17軒(竈のみの検出 1 軒を含む)が検出され、その他の調査区からは検出されなかった。今回検出した住居跡の時期は、平安時代の概ね10世紀前半~11世紀後半の範囲に収まるもので、平安時代でも後半の律令制が崩壊しはじめ、中世に向かおうとする時期に構築された住居跡が多かったと考えられる。 $H-1\sim17$ 号住居跡は、形状が、一部推定を含めて方形や長方形で、規模は最小で 2.83×3.45 m(H-14号住居跡)、最大で $[4.70]\times4.87$ m(H-13号住居跡)であった。本地域では当該時期の住居跡が小型化してゆく傾向性を看取できるが、一辺 4 mを越える住居跡が部分検出ではあるが $H-11\cdot13\cdot15$ 号住居跡に見られ、やや大型となっている。主軸方向はN-73° $-E\sim(N-98$ °-E)の範囲に集中し画一化が進んでいる。 竈は、 $H-2\cdot4\cdot8\cdot10\cdot12\sim14\cdot16\cdot17$ 号住居跡の合計 9 基を検出した。

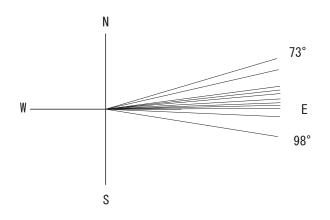
住居跡の重複が多く、後世の掘削等によって残存状態があまり良好でなく、出土遺物からは時期決定が困難で、新旧関係その他から時期を推定せざるを得なかった。重複が著しく、出土土器からは同時期と判断される例は本地域の他、武蔵国府地域の遺跡などでも見られ、建て替えが頻繁に行われた様子が看取される。

竈の主軸・位置・形態の特徴は、主軸方向は $N-69^\circ\sim148^\circ-E$ の範囲に 7 基(H-2・ 4 ・ 10 ・ 13 ・ 14 ・ 16 ・ 17 号住居跡)が集中し、 2 基(H-8 ・ 12 号住居跡)は東南隅に設ける竈である。燃焼部は東壁を掘り込んで構築し、両袖は住居内に突出しないものが多い。また、燃焼部と明確に区別された煙道を有し、煙道は長く延びるものが 6 基(H-4 ・ 8 ・ 10 ・ 12 ・ 13 ・ 17 号住居跡)検出された。さらに構築材に瓦や切石・自然石を使用しているものが 4 基(H-10 ・ 12 ・ 13 ・ 17 号住居跡)検出された。遺物は土師器坏などが出土した。

H-3号住居跡の覆土より古墳時代の遺物と思われる須恵器大甕や調査区内グリッド一括で鬼高式土師器 坏片などを検出しているが、古墳時代~奈良時代にかけての住居跡は検出されなかった。3区の西方では、 古墳時代~奈良時代の住居跡を多数検出しており、3区において採取した古墳時代の遺物はこうしたところ から持ち込んだり、流れ込んだりした遺物であろう。

また、今回、瓦類を多数検出した。その一部は竈構築材に転用されていた。これらは上野国分僧寺跡、上野国分尼寺跡または、山王廃寺さらに推定上野国府跡などから持ちこまれた可能性もあるが、山王廃寺は牛池川の対岸にあり、推定上野国府跡は実態が明らかではなく、現時点では上野国分僧寺跡、上野国分尼寺跡のいずれか一方または両方の瓦を持ち込んでいる可能性が高いとみられる。

今後の資料の蓄積を待って、今回は解明できなかった諸課題に言及できるよう努力してゆきたい。



第4図 3区住居跡主軸方向グラフ

〈参考文献〉

前橋市 『前橋市史』第1巻 1971

前橋市文化協会 『うずもれた前橋の歴史』比刀称双書 6 1992 近藤養雄 『図説 前橋の歴史』あかぎ出版 1980 群馬県 『群馬県史』通史編 第 2 巻 原始古代 2 1991 群馬県 『群馬県史』通史編 第 3 巻 中世 1989

群馬県埋蔵文化財調査事業団 『庚塚・上・雷遺跡』1980 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『浜町屋敷内遺跡C地点』1985

群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域 (1)』1986 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域 (2)』1987 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域 (3)』1988 詳馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域 (4)』1990 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上野国分僧寺・尼寺中間地域 (5)』1991 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『鳥羽遺跡-L・M・N・O区―』1990

群馬県埋蔵文化財調査事業団 『国分境遺跡』1990

群馬県埋蔵文化財調査事業団 『白石大御堂遺跡―園池を伴う中世寺院址の調査―』1991

群馬県埋蔵文化財調査事業団 『下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡』1998 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『下芝五反田遺跡一古墳時代編一』1998 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『和田山天神前遺跡』1999

群馬県埋蔵文化財調査事業団 『小八木志志貝戸遺跡群 2 』 2001 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『総社閑泉明神北遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡』 2007

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社明神遺跡 I \sim X III』 1986

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『大友屋敷遺跡Ⅲ』1995

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査II』2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社小見遺跡』2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社小見内III遺跡』2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社蒼海遺跡群・総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社小見II遺跡』2002

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社小見Ⅲ遺跡・総社閑草作V遺跡』2002

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社小見VII遺跡』2005 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『元総社蒼海遺跡群(17)』2008

愛知県教育委員会 『愛知県古窯跡群分布調査報告 (IV) 瀬戸・藤岡 (瀬戸古窯跡群)』 1985

葛飾区郷土と天文の博物館 「関東戦乱―戦国を駆け抜けた葛西城―」2007 葛飾区郷土と天文の博物館 編 「葛西城と古河公方足利義氏」雄山閣 2010

かみつけの里博物館 『鍋について考える―土なべの生産・地域性・民俗からさぐる室町・戦国という時代―』2000

かみつけの里博物館 『第12回特別展1108―浅間山噴火―中世への胎動― 展示解説図録』2004

かみつけの里博物館 『釜の登場―平安時代の煮炊き具を探る―』2005

かみつけの里博物館 『高崎藩の考古学』2005

かみつけの里博物館 『はるな30年物語―古墳時代に榛名山が大噴火した 災害と向かい合うヒト、そして復興へ―』2006

京都市 『京の城-洛中洛外の城郭―』京都市文化財ブックス20集 2006

群馬町史』通史編 上 2001

群馬県群馬町教育委員会 『北谷遺跡』2005

埼玉県立嵐山史跡の博物館 『板碑が語る中世―造立とその背景―』2008

埼玉県立嵐山史跡の博物館 『遺物が語る中世の館と城一菅谷館跡の理解のために一』2010

高崎市教育委員会 『史跡 箕輪城跡』Ⅷ 2008

館林市教育委員会 『秋元家の歴史と文化―館林藩最後の城主―』1994

千代田区教育委員会 『平河町遺跡』1986

府中市郷土の森博物館 『古代武蔵国府』府中市郷土の森博物館ブックレット 6 2005 MIHO MUSEUM 横浜市歴史博物館 『古陶の譜 中世のやきもの一六古窯とその周辺ー』 2010 横浜市歴史博物館 『都筑区茅ヶ崎城跡と謎のウズマキかわらけ』 2011 寄居町教育委員会 以北 武 『中世の石材流通』高志書院 2006 池上 悟 『地下式端瞥見』『立正史学』第59号 立正大学史学会 1986 石田茂作 監修 『新版 仏教考古学講座』 3 巻 塔・塔婆 雄山閣 1976

福村 繁 「群馬県における馬形埴輪の変遷―上芝古墳出土品を中心として―」『MUSEUM』No425 東京国立博物館 1986

井上宗和 『城』法政大学出版局 1973

岩根承成 編 『戦争と群馬―古代から近代の戦場と民衆―』みやま文庫 2008

大澤伸啓 「法界寺跡出土かわらけの編年と器種構成について」『栃木県考古学会誌』第16集 栃木県考古学会 1994

太田博之 「「五十子陣」研究ノート」「群馬考古学手帳」第15号 群馬土器観会 2005

小澤国平 『板碑入門』隣人社 1967

潮見 浩

小野正敏 「出土陶磁よりみた十五、十六世紀における画期の素描」『MUSEUM』№416 東京国立博物館 1985

 久保田順一
 『上野武士団の中世史』みやま文庫 1996

 近藤養雄
 『箕輪城と長野氏』上毛新開社 1985

 近藤養雄 他
 『群馬県民の歴史』 2 中世 上毛新開社 1993

 『群海・藤野一之・三原翔吾
 『群馬・金山丘陵窯跡群II』駒澤大学考古学研究室 2009

 坂訪秀・森 郁夫編
 『日本歴史考古学や学ぶ』(下)生産の諸相 有要閣 1986

 坂訪秀・編
 『歴史考古学の問題点』近藤出版社 1990

鈴木公雄ゼミナール 編 『近世・近現代考古学入門』慶應義塾大学出版会 2007 田辺芳昭 「北谷遺跡とその周辺」『考古学論究』第13号 池上 悟先生還暦記念号 立正大学考古学会 2010

津野 仁 「古代・中世の鉄鏃」『物質文化』No.54 物質文化研究会 1990

中沢 悟 「出土土器の分類と編年」「清里・陣場遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981

『図解 技術の考古学』改訂版 有斐閣 2000

新倉明彦 「出土板碑より見る板碑の造立と廃棄について」『群馬の考古学』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 能登 健 「弘仁九年地震災害についての覚書」『群馬県史研究』第34号 群馬県史編さん委員会 1991 連舎勇夫 『平井城興亡記』上毛新聞社 1996

服部敬史 「内耳土鍋の研究(上)・(下)」『土曜考古』第21・22号 土曜考古学研究会 1997. 1998

服部実喜 「南武蔵・相模における中世の食器様相 (5) 一中世後期の様相Ⅲ一」「神奈川考古」第34号 神奈川考古同人会 1998

福田貫之 「上毛野国のまほろば総社古墳群」『群馬の古墳を歩く』みやま文庫 2010

前原 豊・小島敦子 編 『群馬の古墳を歩く』みやま文庫 2010

三浦京子 「群馬県における平安時代後期の土器様相一灰釉陶器を中心にして一」「群馬の考古学」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988

峰岸純夫 「箕輪落城―三つ巴の争覇のなかの長野氏―」『群馬県立歴史博物館紀要』第20号 1999

森 郁夫 『瓦と古代寺院』六興出版 1983

若狭 徹 「古墳時代における地域首長の政治領域―首長居館三ツ寺 I 遺跡・北谷遺跡の検討から―」『考古学雑誌』第90巻第 2 号 2006

第10表 3 区住居跡一覧表

()は推定値、[] は検出値を表す。

为10公	3 区住冶	亦 見む	•				`	.) 1	みまた。	E, [] (9	快山胆でひり。
\m # 4	位置	規模(m)			74757415).#L-b-6	竈	DD >44	貯蔵	重複	11-16 447
遺構名	グリッド	東西	南北	壁高	平面形状	主軸方向	位置•方向	· 周溝	蔵穴	旧<新	時 期
H-1	X 243 • 244 Y 180	[2.00]	[1.57]	0.20	(隅丸長方形)	(N-84°-E)	不明	不明	有	無	10C後半~ 11C前半
H-2	X 243 • 244 Y 180 • 181	[3.90]	[2.40]	[0.04]	(長方形)	(N-85°-E)	東壁 方向不明	不明	不明	H-4 < H-6 <	100代
H-3	X 244 • 245 Y 179 • 180	2.95	[1.75]	0.13	(長方形)	(N-85°-E)	不明	不明	不明	無	10 C代
H-4	X244 • 245 Y180 • 181	3.85	[3.50]	0.20	(長方形)	(N-87°-E)	東南隅方向不明	有	不明	$H-2> \\ H-6< \\ W-1>$	10C前半
H-5	X245 • 246 Y179 • 180	2.95	[2.25]	0.13	(長方形)	(N-77°-E)	不明	不明	不明	H-7<	11C代
H-6	X244 • 245 Y180 • 181	3.85	[2.55]	[0.10]	(隅丸方形)	(N-98°-E)	不明	有	不明	$H-2> \\ H-4> \\ W-1>$	10C前半
H-7	X 245 • 246 Y 180	3.20	[2.68]	0.16	(隅丸方形)	(N-88°-E)	不明	不明	不明	H-5> D-10>	11 C代
H-8	X 246 • 247 Y 179 • 180	3.67	[3.65]	0.31	(長方形)	(N-83°-E)	東南隅 N-110°-E	不明	不明	H-9 <	10 C 中葉~ 10 C 後半
H-9	X 246 • 247 Y 180	2.60	2.34	0.22	(長方形)	(N-86°-E)	不明	不明	不明	H-8>	10 C 前半~ 10 C 中葉
H-10	X 248 • 249 Y 178 • 179	4.20	[2.92]	0.46	(隅丸方形)	(N-92°-E)	東壁 [N-93°-E]	不明	不明	H-12< H-15< H-16<	10C後半
H-11	X249 • 250 Y179 • 180	4.34	3.30	0.34	(隅丸長方形)	(N-85°-E)	不明	不明	不明	H-13> H-15< H-16< D-13< D-14<	10℃中葉
H-12	X247 • 248 Y178 • 179	[3.00]	[2.13]	0.20	(長方形)	(N-88°-E)	東南隅 [N-148°-E]	不明	不明	H-10> H-15<	10℃中葉
H-13	X249~251 Y180 • 181	4.87	[4.70]	0.40	(隅丸方形)	(N-87°-E)	東壁 N-96°-E	有	有	H-11< H-17<	10C後半~ 11C前半
H-14	X 252 • 253 Y 179 • 180	2.83	3.45	[0.10]	方形	N-73°-E	東壁中央 N-69°-E	不明	不明	無	10C後半~ 11C代
H-15	X 248 • 249 Y 179 • 180	[4.05]	[3.55]	0.30	(長方形)	(N-87°-E)	不明	不明	不明	H-10> H-11> H-12> H-16>	10C中葉
H-16	X 249 • 250 Y 179	3.50	[2.83]	0.29	(長方形)	(N-89°-E)	東北隅 N-93°-E	不明	不明	H-10> H-11< H-15< D-13> D-14>	10℃中葉
H-17	X250 • 251 Y181	不明	不明	不明	不明	不明	東壁 N-93°-E	不明	不明	H-13> 竈のみ検出	10℃中葉

					, , ,	
遺物番号 出土位置	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴、成・整形方法	備考
3 ⊠H-1-1	3 ⊠ H-1 No. 2	須恵器 坏	①(11.8) ② 4.8 ④ 3.4	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化) ③橙7.5YR6/6④底部完存	体部は内湾し、口唇は丸い。ロ クロ整形。底部回転糸切り。	内底面に輪状の磨きがある。 内底面中央は僅かにが盛り上 がる。
3 ⊠H-3-1	3 ⊠ H −3 No. 1 . 2	須恵器 大甕	③(90.0) ④(84.0) 頸部径(35.1)	①中粒(白色粒・砂粒・小礫 含む)②良好(酸化)③鈍い 黄2.5Y6/4他④頸部から胴 部の一部	輪積み成形。外面は刷毛目状叩き調整痕、内面に青海波状の当 て具痕がある。頸部は外反し、 波状文を施す。	
3 ⊠H-3-2	3 ⊠ H-3 No. 3	須恵器 高台付埦	①(11.4) ②(6.5) ④[3.7]	①細粒(白色粒・小礫含む) ②不良(還元) ③褐灰10YR5/1④1/5残	体部は内湾し、口唇は外反する。 外面に磨き、内面に黒色処理と 箆磨き。ロクロ整形。	内黒土器。黒斑がある。
3 区H-3-3 掘り方	3 区H-3 掘り方 一括	須恵器 羽釜	①(18.4) ④[7.2]	①細粒(白色粒・小礫含む) ②良好(還元)③灰5Y6/1 ④口縁部破片	輪積み成形。鍔部は下向きの三 角形状。口唇は内傾し角張る。 撫で調整を全面に施す。	
3 ⊠H-3-4	3 区H-3 一括	須恵器 坏	①(9.0) ②(5.0) ④ 2.0	①細粒(褐色粒含む) ②良好(酸化) ③淡黄色2.5Y8/3④1/4残	体部は稜を持って外反する。口唇は丸く細い。ロクロ整形。底部回転糸切り。	白い器体の坏。内底面中央か 薄い。
3 ⊠H-4-1	3 ⊠H-4 No.21	須恵器 坏	①(8.4) ② 3.7 ④ 1.8	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③鈍い褐7.5 YR5/4他④1/2残	体部は稜を付け直線的に開き、 口唇が肥厚。内面は撫で調整。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	部分的に還元状態の焼きが見 られる。
3 ⊠H-4-2	3 ⊠ H −4 No. 1	須恵器 坏	①(14.0) ② 7.6 ④ 4.0	①細粒(白色粒含む)②良好 (酸化)③鈍い橙7.5YR5/3 ④底部完存・口縁部1/3残	体部は内湾し、口縁部で外反する。外面に箆撫で調整により稜を付ける。内面に箆撫で調整。 ロクロ整形。底部糸切り。	内底面に螺旋状の沈線がある。
3 ⊠H-4-3	3 ⊠H-4 No13	須恵器	①(13.4) ② 5.7 ④ 4.4	①細粒(砂粒・小礫・白色粒 含む)②良好(酸化)③ 橙5 YR6/8④底部完存・口縁部 1/5残	体部は外湾から内湾して口縁部 で外反して立ち上げる。ロクロ 整形。底部回転糸切りで、切る 位置が高い。	口縁部に煤が付着する。
3 ⊠H-4-4	3 ⊠ H−4 No.16	須恵器 坏	①(14.8) ②(8.0) ④ 4.1	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)黒班あり ③橙5YR6/6④1/5残	体部は2段に外反して立ち上げる。外面下部に撫で調整。口唇は尖り気味。ロクロ整形。	黒斑がある。内底面に煤がた 着し、螺旋状の沈線がある。
3 ⊠H-5-1	3 ⊠ H-5 No. 1	須恵器 坏	①(8.2) ② 4.9 ④ 1.7	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化) ③褐7.5YR4/4④底部完存	体部は緩やかに内湾し、稜が付き、口唇は丸い。全体に肉厚。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
3 ⊠H-8-1	3 ⊠H-8 No.1	土師器羽釜	①(21.0) ④[8.6]	①中粒(白色粒・砂粒含む) ② 良好(酸化)③ 黒 褐7.5 YR2/2④口縁部から胴部 の一部	輪積み成形。外面胴部は指押え 調整、口縁部は撫で調整。内面 は指撫で調整。鍔部はやや下向 きの三角形状。口唇は丸い。	
3 ⊠H-8-2	3 ⊠H-8 No.10	須恵器 高台付埦	② 6.1 ④[2.3]	①細粒(小礫・砂粒含む) ②良好(酸化)③鈍い橙7.5 YR6/4④底部完存	底部に「ハ」の字状に内湾して 開く丸い高台を貼付する。内底 面に箆磨きと黒色処理を施す。	内黒土器。
3 ⊠H-9-1	3 ⊠ H-9 No.1.2	瓦 平瓦	長さ[18.7] 幅 27.8 厚さ 2.6	①中粒(小礫・砂粒含む) ②良好(還元)③灰7.5Y6/1 ④狭端部完存	型成形。凹面は布目圧痕。凸面 は縄目叩き整形。端部は箆削り 調整。狭端部は布目圧痕残る。	狭端部中央に釘押え用の凹か ある。
3 ⊠H-9-2	3 ⊠ H−9 No. 4	瓦丸瓦	長さ[20.0] 幅 [10.0] 厚さ1.4~1.9	①中粒(砂粒・小礫含む) ②良好(還元) ③灰黄7.5Y7/1④1/4残	型成形。凹面は2種類の布目圧 痕がある。凸面と狭・側端部は 箆削り調整を施す。	円筒半裁か?布目の縫合痕か ある。
3 ⊠H-9-3	3 ⊠ H−9 No. 6	須恵器 坏	① 9.2 ② 6.0 ④ 2.6	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③明黄橙10YR8/4 ④ほぼ完形	体部は外反気味から内湾して、 口縁部は外反し口唇は丸い。ロ クロ整形。底部回転糸切り。	
3 ⊠H-10-1	3 ⊠H-10 №73	瓦平瓦	長さ[16.6] 幅 [10.9] 厚さ 2.1	①中粒(砂粒・小礫含む) ②良好(還元)③灰 N5/ ④側端部の一部	型成形。凹面は布目圧痕が残り、 凸面は縄目叩き調整を施す。 側 端部は箆削り調整。	
3 ⊠H-10-2	3 ⊠ H−10 No.14	須恵器 坏	①(9.0) ② 5.4 ④ 2.0	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化) ③浅黄2.5Y7/3④底部完存	体部は微かに内湾して開く。口 縁部は口唇に丸みを付ける。ロ クロ整形。底部回転糸切り。	
3 ⊠H-10-3	3 ⊠ H−10 No.52	石製品 砥石	長さ6.4 幅 2.6~3.4 厚さ1.2~2.1	①粗粒安山岩 ③褐灰10YR4/1.10YR6/1 ④完形	平面形状は不定形の短い短冊 形。全面に研ぎ跡がある。狭端 部に直径6㎜の穿孔を施す。	一面だけ黒い。重さは64.7d g。
3 ⊠H-10-4	3 ⊠H-10 No82	須恵器 羽釜	①(20.3) ④[6.4]	①中粒(砂粒・白色粒含む) ②良好(酸化) ③鈍い橙7.5YR7/4 ④口縁部の一部残	ロクロ整形。胴部は内湾し、一 部箆撫で調整。鍔部は下向きで 三角形状。口縁部は内傾気味で 薄く、口唇は角張って平坦。	
3 ⊠H-10-5	3 ⊠ H−10 No.59	黒色土器 埦	①(10.5) ②(6.0) ④ 3.6	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(酸化) ③暗灰 N3/④1/4残	体部は内湾し、口唇は外反し丸 く肥厚。外面に箆撫で調整。ロ クロ整形。底部回転糸切り。	
3 ⊠H-10-6	3 ⊠ H−10 No.57	黒色土器 埦	①(11.8) ④[2.7]	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(酸化) ③暗灰 N3/④1/4残	体部は内湾し、口唇は外反し丸 く肥厚する。外面に箆撫で調整 を施す。ロクロ整形。	刻文のような搔き目がある。
3 ⊠H-10-7	3 ⊠ H−10 No.79	須恵器 坏	① 8.4 ② 5.6 ④ 1.9	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③にぶい橙 7.5YR7/4④ほぼ完形	体部は内湾し、口唇は外反し丸 く肥厚。上下に箆撫で調整。ロ クロ整形。底部回転糸切り。	
3 ⊠H-10-8	3 区H-10 №76 一括 3 点	須恵器 城	①(14.0) ④[4.0]	①細粒②良好(酸化) ③鈍い褐7.5YR5/4 ④口縁部1/3残	体部は内湾し、口唇は外反して 角張る。内外面に箆撫で調整。 内面黒色処理。ロクロ整形。	内黒土器だが黒色処理が不完全。内底面に螺旋状の沈線かある。
3 ⊠H-10-9	3 ⊠ H−10 No.23	緑釉陶器 高台付皿	①(11.8) ②(5.5) ④[1.4]	①細粒②良好(還元) ③オリーブ灰10Y4/2 ④口縁部から底部の一部	体部はやや内湾し、口唇は丸い。 断面形状は体部が厚く口縁部が 薄い。ロクロ整形。	高台部分は接合痕が一部に見られる。

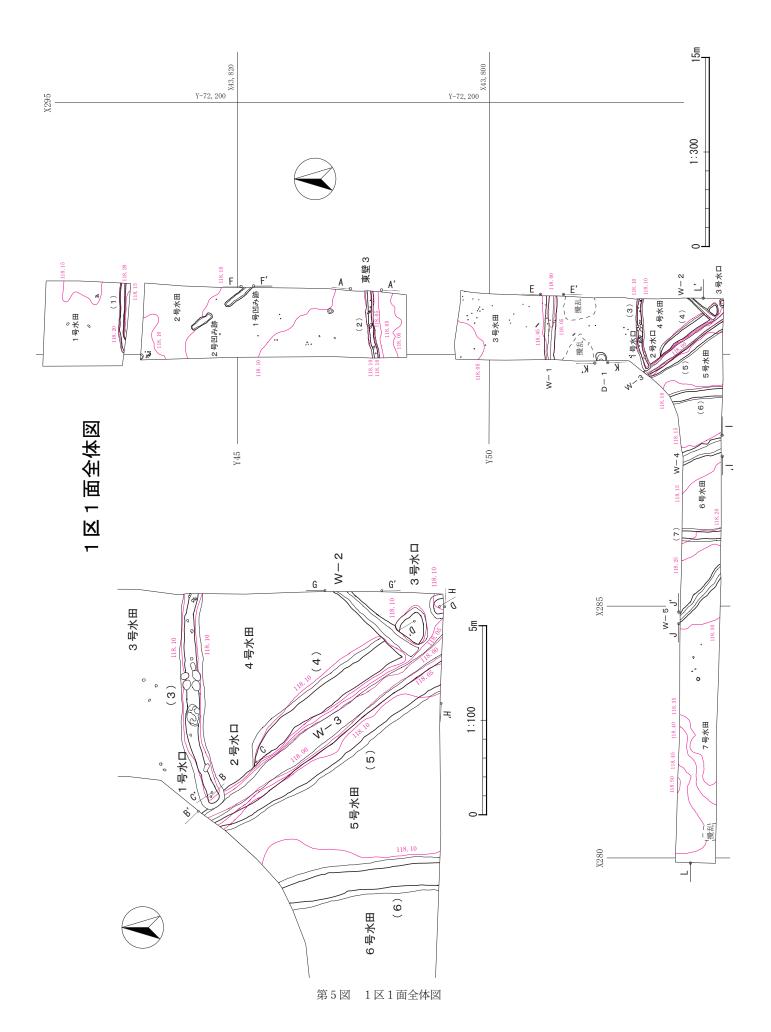
遺物番号 出土位置	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴、成・整形方法	備考
3 ⊠H-10-10	3 ⊠H-10 N₀.45	鉄製品 鉄鏃	全長 [11.0] 茎長 [2.4] 箆被長 2.0 刃部長刃6.6 刃部幅 2.1	①鉄 ③ 褐7.5YR4/6.7.5YR5/8 ④ほぼ完形に近い	刃部は断面形が菱形に近く厚い。篦被部は錆化が著しいが短めで明瞭である。茎部を一部欠損している。	茎部に有機物が錆化したよう な付着物がある。重さは29.29 g。
3 ⊠H-10-11	3区H10 一括2点	鉄製品 不明	長[5.2 * 5.2] 厚 0.5 * 0.7	①鉄③明褐7.5YR5/8 ④不明	錆化が著しく判然としない。断 面形が正方形に近い。	重さは14.33g。
3 ⊠H-11-1	3 ⊠H-11 No. 3	須恵器 高台付埦	①(14.4) ③ (6.2) ④[4.6]	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③鈍い褐7.5 YR5/4④1/5残	体部は内湾し、口唇は丸く外反。 外面に箆撫で調整、内面に黒色 処理と磨き。ロクロ整形。	内黒土器。
3 ⊠H-11-2 P₂	3 ⊠H-11 P₂ No. 1	土師器 土釜	①(19.2) ③(18.0) ④[10.8]	①中粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③鈍い橙7.5YR6/4 ④口縁部破片	輪積み成形。外面は直立気味に 開き、指押え調整を施す。口縁 部は外反し、撫で調整を施す。	
3 ⊠H-12-1	3 ⊠ H-12 No20	黒色土器 高台付埦	②(7.4) ④(2.5)	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③黒2.5Y2/1 ④底部1/4残	外面に高台部分を含め箆磨き調整を施す。内面は磨き調整。 ロクロ整形。内外面黒色処理。	
3 ⊠H-12-2	3 ⊠H-12 No.22	須恵器 城	①(10.8) ④[3.9]	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい橙5 YR6/4④1/8残	体部は内湾し、口唇は外反して 薄い。外面に箆撫で調整を施す。 ロクロ整形。	口縁部に煤が付着する。
3 ⊠H-12-3	3 ⊠H-12 No.11	須恵器 高台付埦	②(7.0) ③[10.5] ④[2.2]	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③浅黄橙7.5 YR8/4④底部2/3残	体部は内湾し、稜を付けて開く。 外底面に「ハ」の字状の高台を 貼付。ロクロ整形。	内外底面に螺旋状撫で調整が あり、内底面は突起状に盛り 上がる。
3区H-12-4 竈	3 区H-12 力No.1.8 3 区H-12 No.24	須恵器 坏	①(12.8) ② 6.2 ④ 4.0	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③鈍い橙7.5 YR7/4④底部完存	体部は内湾し口縁部は外反し、 口唇は角張る。外面に撫で調整。 ロクロ整形。底部糸切り。	
3 区H-12-5 竈	3 区H-12 カNo.13	瓦丸瓦	長さ[21.0] 幅 14.5 厚さ1.3~1.7	①中粒(砂粒・小礫含む) ②良好(還元) ③灰白2.5Y8/1④1/2残	型成形。凹面は布目圧痕。凸面 は縄目叩き調整後、箆削り調整。 狭・側端部は箆削り調整。	竈の支脚石の後方に埋設され ていた。円筒半裁か?布目の 縫合痕がある。
3区H-12-6 竈	3 区H-12 カNo.4.5	須恵器 高台付埦	①(16.6) ②(7.5) ④[6.0]	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化)③灰白10YR 8/2④体部1/2残	体部は内湾し、外面に箆削り調整がある。口唇は丸く外反する。 ロクロ整形。	高台貼付痕がある。
3 区H-12-7 竈	3 区H-12 カNo. 6	須恵器? 高脚高台 付城?	②(9.8) ④[3.9]	①細粒②良好(酸化) ③暗黄橙10YR8/3 ④高台部の一部	高台を分離成形。底縁は丸く、 外面を箆撫で調整。ロクロ整形。 接合部は「M」字状。	
3 区H-12-8 竈	3 区H-12 カNo. 3	須恵器 坏	①(8.0) ②(6.0) ④ 1.5	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元)③灰白10YR 7/1④底部1/2・口縁部1/8残	体部は内湾し、口唇は尖り気味。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	内底面は中央が窪む。
3 区H-12-9 竈	3 区H-12 カNo. 9 .10	須恵器 坏	① 9.4 ② 7.0 ④ 2.0	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元) ③灰白2.5Y7/1④3/4残	体部は内湾して立ち上げ、口唇 は丸みを付けるが尖り気味。ロ クロ整形。底部回転糸切り。	
3 ⊠H-13-1	3 区H-13 №39.42 一括	灰釉陶器 高台付埦	①(15.6) ② 7.6 ④ 5.9	①細粒(小礫含む) ②良好(還元) ③灰白2.5Y7/1④底部完存	体部は内湾し、口縁部は直線的 で、口唇は丸く灰釉を漬け掛け している。ロクロ整形。	内面は釉が胡麻状で底面には ないため重ね焼きか?
3 ⊠H-13-2	3 区H-13 №22.75 一括	土師器? 鉢?	①(18.2) ② 10.8 ④ 6.5	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③鈍い黄橙10 YR7/3④底部完存	底部成形後、輪積み成形。外面 は指撫で調整を施す。ロクロ使 用。	
3 ⊠H-13-3	3区H-13 №11.29 一括	須恵器城	① 12.8 ② 6.0 ④ 4.5	①細粒(砂粒・白色粒含む) ②良好(酸化)③暗灰黄2.5 YR5/2④底部完存・口縁部 1/2残	体部は外面は内湾して、内面は 直線的に立ち上げ肥厚させる。 口縁部は外反させる。ロクロ整 形。底部回転糸切り。	部分的に還元状態の焼きが見 られる。
3 ⊠H-13-4	3 ⊠H-13 No.23	須恵器 坏	① 8.3 ② 5.0 ④ 2.1	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化) ③明褐7.5YR5/6④完形	体部は直線的に開き、口唇は丸 い。ロクロ整形。底部回転糸切 り。	
3 ⊠H-13-5	3 ⊠ H-13 No14	須恵器 坏	①(10.8) ②(5.8) ④ 2.4	①中粒 ②不良(還元) ③灰白10YR7/1④1/3残	体部は内湾し口唇は丸い。ロクロ整形。底部回転糸切り。	黒斑がある。内底面は指頭押 圧で窪む。
3 ⊠H-13-6	3 ⊠ H-13 No62	須恵器 坏	①(8.7) ② 4.3 ④ 2.1	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化) ③淡黄2.5Y8/3④底部完存	体部は内湾し、口縁部は外側に 丸い。ロクロ整形。一部箆撫で 調整を施す。底部回転糸切り。	
3 ⊠H-13-7	3 ⊠H-13 No.80	須恵器 高 台 付 皿?	②(5.2) ③[10.0] ④[2.0]	①細粒(白色粒・砂粒・小礫 含む)②良好(還元) ③灰白 N7/④底部残	内底部は平坦に作るが、高台直 径に対して大きい。ロクロ整形。	
3 ⊠H-13-8	3 ⊠H-13 No.43	土師器 土釜	①(20.4) ③(20.8) ④[9.4]	①中粒(砂粒含む) ②良好(酸化)③10YR8/3 ④口縁部の一部	輪積み成形。外面は胴部撫で調整、一部板押圧調整。内面は指 撫で調整。口唇は外反し丸い。	外面に煤が付着する。
3 ⊠H-13-9	3 ⊠H-13 No.18	土師器 土釜	①(23.2) ③(23.1) ④[19.8]	①中粒②良好(酸化) ③黒褐10YR2/2 ④口縁部の一部	輪積み成形。外面は胴部指押え 調整、篦削り調整。内面は指撫 で調整。口唇は外反し丸い。	外面に煤が付着する。
3 ⊠H-13-10	3 ⊠H-13 No. 2	灰釉陶器 壺?	②(13.8) ③[16.0] ④[3.9]	①細粒(砂粒含む)②良好 (還元)③灰白10YR8/ ④底部の一部	体部は厚く、底部は薄い。釉が 斑に内外面に掛かる。高台は厚 く低い。ロクロ整形。	
3 ⊠H-13-11	3 ⊠H-13 No.77	鉄製品 紡錘車 (紡輪)	直径 6.0 厚さ 0.3	①鉄 ③灰黄褐10YR6/2 ④完形	鉄製円盤に直径0.3cmの穿孔を 施す。錆化が著しいが、微かに 凸面と凹面が認められる。	H-16-4と一具の可能性あり。 重さは28.76g。
3 ⊠H-13-12	3 ⊠H-13 Na61	瓦丸瓦	長さ[15.4] 幅 [15.1] 厚さ 2.0	①中粒(小礫含む)②良好 (還元)③灰白2.5Y8/1 ④広端部角残	型成形。凹面は布目圧痕、凸面 は縄目叩き調整後、箆削り調整。 狭・側端部は箆削り調整。	円筒半裁か?

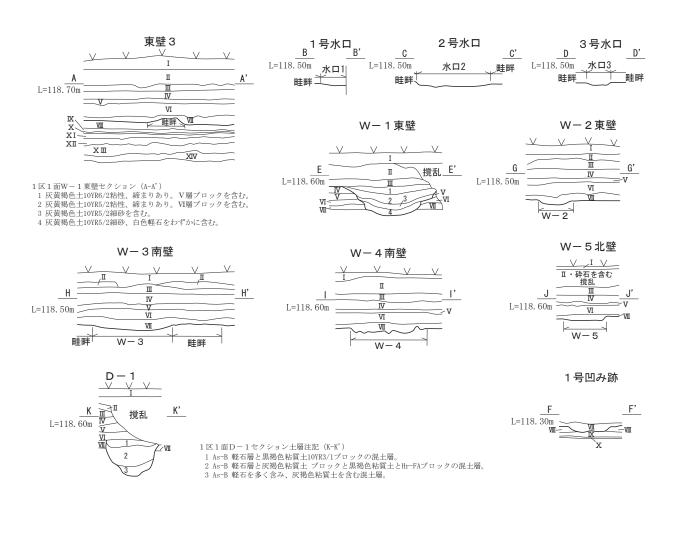
遺物番号出土位置	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴、成・整形方法	備考
3 区H-13-13 竈	3 区H-13 カNo. 1	灰釉陶器 高台付埦	① 9.8 ② 4.8 ④ 3.0	① 田和 (7人) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	体部は稜を付け、外反する。口唇は肥厚し丸い。口縁外面と内面に僅かに釉がある。ロクロ整形。底面糸切り痕は撫で消す。	内底面に釉がないため重ね焼 きか?
3区H-13-14 電	3 区H-13 カNo. 8	瓦 平瓦	長さ[23.0] 幅 26.7 厚さ 2.1	①中粒(砂粒・白色粒・小礫 含む)②良好(酸化) ③橙7.5YR7/6④1/2残	型成形。凹面は布目圧痕を箆削 り調整で、凸面は縄間叩き調整 後、刷毛目状工具や指頭押圧で 粗く消す。端部は箆削り調整。	
3区H-13-15 竈	3 区H-13 カNo. 9	瓦 平瓦	長さ[40.7] 幅 [17.7] 厚さ 3.2	①中粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化) ③橙7.5YR7/6④1/4残	型成形。凹面は布目圧痕、凸面 は縄目叩き調整後、指頭押圧調 整。狭・側端部は箆削り調整。	
3 区H-13-16 竈	3 ⊠H-13 カ№11.12	瓦 平瓦	長さ[31.3] 幅 [18.1] 厚さ 2.0	①中粒(砂粒・小礫含む)② 良好(還元)③明褐灰7.5 YR7/1④1/2残	型成形。凹面は布目圧痕、凸面 は縄目叩き調整後、箆削り調整。 狭・側端部は箆削り調整。	
3区H-13-17 竈	3 ⊠H-13 ⊅№ 5 . 6 .10	瓦 平瓦	長さ[31.3] 幅 [18.1] 厚さ 2.0	①中粒(白色粒・小礫・砂粒 含む)②良好(還元) ③灰 N5/④ほぼ完形	型成形。凹面は布目圧痕を刷毛 目状工具で粗く消す。凸面と端 部は箆削り調整を施す。	
3 区H-13-18 貯蔵穴	3 区H-13 貯穴No. 2	瓦平瓦	長さ[27.6] 幅 [22.5] 厚さ 3.0	①中粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化)③橙5YR6/6 ④狭・側端部残	型成形。凹面は布目圧痕が残る。 凸面は板押圧調整。狭。側端部 は箆削り調整を施す。	
3区H-13-19 掘り方	3区H-13 掘り方D 2 № 1	土師器 坏	① 10.0 ② 4.7 ④ 3.2	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化) ③灰白10YR8/2④完形	手捏ね成形。体部は内湾気味に 伸び口唇は尖る。内外面に指撫 で調整。底部箆削り調整。	黒斑がある。
3 ⊠H-13-20	3区H-13 一括	石製品 砥石	長さ[12.7] 幅 4.4~6.0 厚さ2.2~4.0	①流紋岩 ③灰白2.5Y8/1 ④一面破損	不定形の直方体状を呈す。6面 の内5面に研ぎの痕跡がある。	重さは470g。
3 区H-13-21	3区H-13 一括	須恵器 蓋	②(10.0) ④[1.7]	①細粒(白色粒含む) ②良好(還元)③灰 N5/ ④1/5残	裏面に返りがあり、三角形状で 薄く内側へ尖る。口唇は薄く外 側へ尖る。一部に篦削り調整。	
3 ⊠H-13-22	3区H-13 一括	鉄製品 鉄鏃	長さ [5.5] 刃部長 3.4 刃部幅 1.8 刃部厚 0.3 茎部長 [2.0] 茎部幅 0.7 茎部厚 0.6	①鉄 ③褐7.5YR4/6・7.5YR5/8 ④刃部完存、茎部の一部	刃部は薄く扁平で端部が尖る。 茎部は断面形が正方形に近い。	重さは8.49g。
3 ⊠H-13-23	3区H-13 一括	鉄製品 和釘?	長さ[14.4] 幅 1.2 厚さ 0.8	①鉄 ③灰黄褐10YR6/2 ④不明	平面形は頭部が太く、端部が細い。断面型はやや張りのある方形。先端は刃部状になる。	釘であれば頭部自体は欠損していることになる。重さは57.13g。
3 ⊠H-15-1	3 ⊠H-15 No.21	須恵器	① 8.8 ② 5.2 ④ 2.2	①細粒(砂粒・白色粒含む) ②良好(酸化) ③浅黄橙7.5YR8/6④完形	体部は直線的に開き、口唇は外 反し肥厚する。ロクロ整形。底 部回転糸切り。	
3 ⊠H-15-2	3 ⊠H-15 №27	須恵器 坏	① 8.8 ② 5.0 ④ 2.1	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③淡黄2.5Y8/4 ④完形	体部は直線的に立ち上げる。口唇は丸い。ロクロ整形。底部回 転糸切り。	
3 区H-15-3	3 ⊠H-15 №15	土師器 羽釜	①(18.6) ④[8.8]	①中粒(白色粒・砂粒・小礫 含む)②良好(酸化) ③鈍い褐7.5YR5/4 ④口縁部破片	輪積み成形。体部は内湾し、指押え調整と箆削り調整、口縁部と内面は撫で調整を施す。鍔部は下向きに三角形状で、口唇は内傾気味でやや角張る。	胴部に煤が付着する。
3 ⊠H-15-4	3 ⊠H-15 No.17	須恵器 高台付埦	①(14.6) ②(8.2) ④[6.0]	①細粒(砂粒含む) ②良好(酸化) ③浅黄2.5Y7/3④1/5残	体部は内湾。口唇は丸く肥厚。 外面に箆撫で調整、内面は黒色 処理と箆磨き。ロクロ整形。	内黒土器。器壁内面に沈線が ある。
3 ⊠H-15-5	3 ⊠ H−15 No.14	灰釉陶器 境	③(14.6) ④[4.5]	①細粒②良好(還元) ③灰白7.5Y7/1 ④口縁部1/4残	体部は内湾し、口唇は丸く外反 し灰釉を漬け掛けしている。内 面は釉が胡麻状。ロクロ整形。	
3 ⊠H-16-1	3 ⊠ H−16 No. 3	須恵器 城	② 9.3 ④[2.8]	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③橙7.5YR7/6 ④底部4/5残	体部は内湾気味に立ち上げる。 外面に撫で調整を施す。ロクロ 整形。底部回転糸切り。	
3 ⊠H-16-2	3 区H-16 No. 2	須恵器 坏	① 8.8 ② 5.5 ④ 1.5	①細粒(砂粒・小礫含む) ② 良 好(酸 化)③ 明 褐7.5 YR5/6④ほぼ完形	体部は内湾気味で口唇は丸い。 外面篦撫で調整を施す。ロクロ 整形。底部回転糸切り。	内底面中央を窪ませ螺旋状の 調整がある。
3 ⊠H-16-3	3区H-16 一括	須恵器 坏	①(8.7) ②(5.0) ④ 2.0	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③褐灰10YR5/1他 ④1/4残	体部は内湾し、口唇は丸く外反 する。ロクロ整形。底部回転糸 切り。	外底面は黒く、口縁付近は両 面橙色に塗彩。器体は白い。
3 ⊠H-16-4	3区H-16 一括	鉄製品 紡錘車 (紡茎)	長さ9.2 厚さ0.2~0.3	①鉄 ③褐灰10YR6/1 ④完形?	錆化が著しく判然としないが、 断面形が正円形に近い。両端は 一方が太くもう一方が細い。	H-13-11と一具の可能性がある。重さは7.08g。
3区H-17-1 竈	3 区H-17 カNo. 1	須恵器 坏	① 7.8 ② 4.7 ④ 2.0	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元) ③浅黄2.5Y7/3④完形	体部は直線的に開き、口唇は肥厚し丸い。外底面に撫で調整。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	煤が付着する。内底面は突起 状に盛り上がる。
3 区H-17-2 竈	3 区H-17 カNo. 2	須恵器 坏	① 9.2 ② 5.9 ④ 1.4	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化) ③橙2.5YR6/8④1/2残	体部は外反し、口唇は丸い。外 面に箆撫で調整が見られる。ロ クロ整形。底部回転糸切り。	内底面に輪状の沈線がある。
3 ⊠ W-1-1	3 ⊠W-1 No. 3	須恵器 坏	① 8.8 ② 4.6 ④ 2.2	①細粒②良好(酸化) ③橙7.5YR6/6④ほぼ完形	体部は外反後直線的に開き、口唇が尖る。外面は箆撫で調整。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	内底面中央は螺旋状に撫で残 して突起状を呈す。

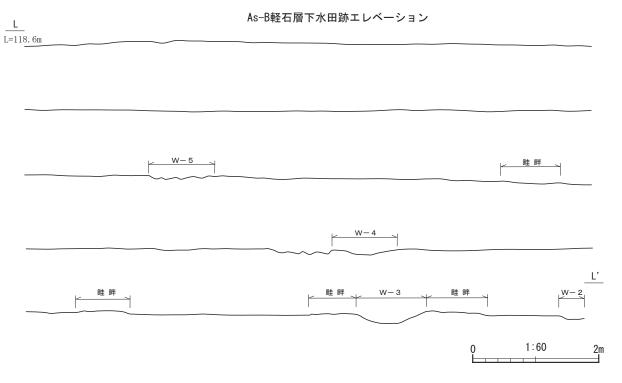
遺物番号 出土位置	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴、成・整形方法	備考
3 ⊠W-1-2	3 区W-1 一括 2 点	須恵器 坏	①(15.4) ②(6.6) ④ 5.0	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/8④口縁部から 底部の一部	体部は外反し、胴部下端で稜を 作り内湾、口唇は外反し丸い。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
3 ⊠W-1-3	3 区W-1 一括	須恵器 坏	①(15.1) ②(7.3) ④ 4.0	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③橙5YR6/8 ④1/2残	体部は内湾し、口唇は外反し尖 る。外面に箆撫で調整。ロクロ 整形。底部回転糸切り。	内面に段が多い。
3 ⊠W-1-4	3 区W-1 一括 2 点	須恵器 坏	①(14.7) ③(6.8) ④ 4.1	①細粒(白色粒含む)②良好 (酸化)③黄橙10YR8/6 ④1/3残	体部は内湾し、口唇は外反し丸 い。内面は段が多い。ロクロ整 形。底部回転糸切り。	内底面中央は窪む。
3 ⊠W-1-5	3 区W-1 一括	須恵器 坏	① 8.8 ② 5.8 ④ 1.9	①細粒(白色粒含む)②良好 (酸化)③浅黄2.5YR7/3 ④口縁部一部欠損	体部は内湾して、口唇は尖る。 外面に緩い稜を付ける。ロクロ 整形。底部回転糸切り。	内底面中央は窪む。
3 ⊠W-1-6	3 区W-1 一括	須恵器 坏	① 8.0 ② 3.6 ④ 2.0	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③橙7.5YR6/6 ④ほぼ完形	体部は外反後内湾し、口唇は尖 る。外面に箆撫で調整を施す。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
3 ⊠ D-3-1	3区D-3 一括	須恵器 坏	①(9.8) ②(6.1) ④ 2.1	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化)③浅黄橙7.5 YR8/3④1/5残	体部は外反し、口唇は尖り気味 で薄い。ロクロ整形。底部回転 糸切り。	内底面中央は窪む。
3 ⊠ D-10-1	3 ⊠ D −10 No. 1	須恵器 坏	① 9.0 ② 4.4 ④ 2.1	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化) ③浅黄2.5YR7/3④完形	体部は内湾し、口唇は尖り気味。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	内底面中央は僅かに窪む。
3 ⊠ D-11-1	3 区 D -11 No. 1	須恵器 坏	① 14.4 ② 6.2 ④ 4.6	①細粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化) ③淡黄2.5Y8/3④4/5残	体部は緩やかに内湾し、口縁部 は内側で外反し口唇は丸い。ロ クロ整形。底部糸切り。	
3 ⊠ I-1-1	3区I-1 一括	埴輪 馬形埴輪 脚部?	②(12.6) ④[10.9]	①中粒(砂粒・白色粒・小礫 含む)②良好(酸化) ③橙5YR7/6 ④脚底部残?	底部は約7cm幅の粘土帯を粘土 板円筒化技法で成形か?内面を 刷毛目状工具で撫で、外面は内 面を指押えして刷毛目状工具で 強く整形。	付近に古墳は確認できない。 馬形埴輪の脚部か?円筒状埴 輪の底部で歪む。
3 ⊠ I -1-2	3区I-1 一括	須恵器皿	①(8.8) ②(7.3) ④ 1.0	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③橙7.5YR7/6 ④1/2残	体部は直線的で短い。口唇は尖 る。篦撫で調整を施す。ロクロ 整形。底部糸切り。	
3 ⊠ I -1-3	3区I-1 一括	須恵器 羽釜	①(21.1) ④[4.1]	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい褐 7.5YR5/3④口縁部破片	口縁部は直立的に立ち上がる。 比較的短い。口唇は内傾して角 張る。鍔部は上向きで尖る。ロ クロ整形。	
3 ⊠ I -2-1	3 ⊠ I −2 No.10	土師器 羽釜	①(23.4) ④[12.8]	①細粒(砂粒・白色粒・小礫 含む)②良好(酸化)③黒褐5 YR2/1④口縁部から胴部 全周	輪積み成形。体部は内湾、口縁 部は直立的で長い。口唇は外傾 し丸い。鍔部は下向きで尖る。 体部は撫で調整や指押え調整。	
3 ⊠ I -2-2	3 ⊠ I −2 No11	土師器 羽釜	①(12.4) ④[5.1]	①細粒(白色粒・砂粒小礫含む)②良好(酸化)③褐灰5 YR4/1④口縁部破片	体部は内湾し、口唇は尖り内傾。 鍔部は上向きで尖る。口縁部、 鍔部は撫で調整、体部は指撫で 調整や指押え調整を施す。	
3 区 X251・252, Y180・181 グリッド-1	3区 X251・252, Y180・181 グリッド一括	土師器 坏	①(10.2) ④[3.5]	①細粒②良好(酸化) ③橙2.5YR6/8④1/6残	体部は内湾し、口唇は外反する。 体部は箆削り調整、口縁部は箆 調整後撫で調整を施す。内面は 撫で調整を施す。	
3 区 X251・252, Y180・181 グリッド-2	3区 X251・252, Y180・181 グリッド一括	須恵器 高台付埦	② 8.0 ④[4.7]	①細粒(小礫・白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい橙 7.5YR6/4④口縁部欠損。 体部。底部3/4残	体部は内湾気味に立ち上げる。 高台は高く、「ハ」の字状に開き、 器壁が薄い。	内底部中央は薄く窪む。
4 ⊠W-1-1	4 区W-1(西) 一括	土師器 甕	①(22.5) ④[4.2]	①中粒(白色粒含む)②良好 (酸化)③にぶい褐7.5YR5/3 ④口縁部破片	頸部は「コ」の字状を呈し、段 が明瞭である。口縁部は外反し 開く。口唇は肥厚して丸める。	「コ」の字状甕口縁部から頸 部。煤が付着する。
4 ⊠W-1-2	4 区W-1(西) 一括	かわらけ 坏	①(12.8) ② 6.0 ④ 4.4	①細粒(白色粒含む)②良好 (酸化)③浅黄2.5YR7/4 ④口縁部1/4体部3/4残	体部は内湾し、器壁は薄く、底 部は厚い。糸切り位置が高い。	煤が付着する。
4 ⊠W-1-3	4 区W-1 (西) 一括	陶器?	①(21.9) ②(18.6) ④ 2.8	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元) ③灰白10Y7/1④1/4残	体部は内湾させて立ち上げ、口唇は内傾させて、外側へ尖る。 大きめの盤状皿。ロクロ成形。	
4 ⊠W-1-4	4 区W-1 (西) 一括	軟質陶器 甕	② 6.6 ③(13.9) ④[9.8]	①中粒(砂粒・小礫含む) ②良好(酸化)③灰白2.5 YR8/2④底部完存	体部は斜めに開き頸部で直立。 外面は削り調整、撫で調整。内 面は指押え調整、撫で調整。	
4 ⊠W-2-1	4 区W-2(西) 一括	軟質陶器 焙烙	①(29.3) ②(25.9) ④ 5.6	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元)③黒7.5YR2/1 ④口縁部から底部の一部	体部はやや内湾して立ち上げる。口唇は内傾し外側へ尖る。 全体に撫で調整を施す。	内耳は未検出。煤が付着する。
4 ⊠W-2-2	4 区W-2(西) 一括	軟質陶器 火鉢?	①(20.6) ③(21.1) ④[10.6]	①細粒(白色粒・砂粒小礫含む)②良好(酸化)③灰白10 YR8/2④口縁部から胴部 の一部	体部は内湾し、口唇は逆 [L]字 状。内面と外面頸部より上は撫 で調整。胴部は篦削り調整。胴 部に円孔と方形孔を作る。	黒斑がある。口唇に突起が付きその部分では断面が「T」字状になる。
4 ⊠W-2-3	4 区W-2(西) 一括	陶器 中境	①(11.0) ②(5.0) ④ 7.0	①細粒②良好③オリーブ灰 10YR6/2④口縁部から底 部の一部	体部は内湾させてから直立気味 に立ち上げ、口唇は肥厚して尖 り気味。高台は直立し短い。	瀬戸焼(勇右衛門窯)の出土品 に似た器形。外面に描画があ る。貫乳が入る。
4 ⊠W-2-4	4 区W-2(西) 一括	陶器 徳利	① 3.6 ③ 7.4 ④[19.0] 頸部径2.6	①細粒(砂粒含む)②良好 ③オリーブ灰5GY7/1 ④底部欠損	ロクロ成形。体部は直立、頸部 は内傾し、口縁部で外反する。 口唇は肥厚し丸い。	緑青色の曜変状釉が口縁部から頸部に掛かる。

遺物番号 出土位置	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴、成・整形方法	備考
4 ⊠W-3-1	4 区W-3(東) 一括	かわらけ 坏	① 10.6 ② 6.1 ④ 3.4	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③浅黄橙7.5YR8/4 ④口縁部から底部の一部欠 損	体部は外反し、調整により段状を呈す。口唇は丸い。内面は内 湾気味で直線的に開く。	
4 ⊠W-3-2	4 区W-3(東) 一括	石製品 石臼 (上臼)	径 (31.2) 高さ [15.0] ふくみ高 [2.8] くほみ径 (24.5) くほみ高 [3.5] 上縁幅 3.4 芯穴径 (4.0) 供給口径 (4.0)	①粗粒安山岩 ③青灰5PB5/1 ④1/2残	直径が約1尺の穀臼で、擂り合わせ面は左回り6分画の挽き目で6条1単位が確認できるが、供給口付近では芯穴に対し放射状になり異なる。くぼみは丸みを付けて直立気味に立ち上がる。	挽き手穴は未検出。重さは7900g。
5 🗷 W-1-1	5 区W-1(東) 一括	かわらけ 坏	① 8.0 ② 4.7 ④ 1.9	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③橙2.5YR8/3 ④口縁部1/3.底部3/4残	体部は底部から丸みを持って立 ち上げる。口唇は丸みを付ける。 外面に篦削り調整がある。ロク ロ整形。底部回転糸切り。	
5 ⊠W-1-2	5 区W-1(東) 一括	軟質陶器 内耳土鍋	①(27.8) ④[12.0]	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元)③灰 N6/ ④口縁部1/8残	輪積み成形。体部は直立、口縁 部は内湾。胴部は箆削り調整、 内面と口縁部は撫で調整。	外側全体に煤が付着する。頸 部に沈線がある。口縁部と胴 部の境の段が明瞭。
5 ⊠W-1-3	5 区W-1(東) 一括	石製品 硯	長さ[9.7] 幅 6.7 高さ 3.0	①粘板岩③暗青灰5B4/1 ④墨池、岡の下部半分。硯 縁一部	硯面は長方形である。墨池は「V」字状に削り込む。硯縁は岡が薄く低い。	重さは240g。
5 ⊠W-1-4	5 区W-1(東) 一括	石製品 板碑	長さ[34.1] 幅 [21.1] 厚さ[2.8]	①緑泥片岩 ③緑灰10G6/1 ④部位不明破片	銘文等なし。今回の出土資料中 では大型の破片。堀内へ宝塔破 片などと共に廃棄されていた。	重さ2760g。今回4,5調査区で合計6点の板碑が出土。全て破片で厚み1cm~3cm。
5 ⊠W-1-5	5 区W-1(東) 一括	石製品 板碑	長さ[16.0] 幅 [10.5] 厚さ	①緑泥片岩 ③明青灰5BG4/1 ④破片	阿弥陀三尊種子の「サ」観音菩薩の一部かと思われるが、彫り が浅く詳細不明。	拓本のみ図示。重さは980g。
5 ⊠W-2-1	5 区W-2(西) 一括	かわらけ 坏	①(10.6) ②(7.1) ④ 2.6	①細粒(砂粒含む)②良好 (酸化)③淡黄2.5Y8/3 ④7/8残	体部は直線的に開き、口唇は外 反し肥厚。内面は箆撫で調整。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
5 🗷 W-2-2	5 区W-2(西) 一括	かわらけ 坏	①(11.8) ② 7.6 ④ 2.7	①細粒 (砂粒・小礫含む) ②良好 (酸化) ③橙7.5YR6/6 ④口縁部1/3.底部3/5残	体部は直線的に開き、僅かに段を付け、口縁部を外湾させ口唇は丸い。ロクロ整形。底部回転糸切り。	内底面中央が窪む。
5 ⊠W-2-3	5 区W-2(西) 一括	かわらけ 坏	① 10.6 ② 5.6 ④ 3.3	①細粒(砂粒・小礫・白色粒 含む)②良好(酸化) ③ 鈍 い 橙7.5YR7/3④1/2 残	体部は直線的に開き、口唇は丸い。ロクロ整形。底部回転糸切り後、箆状工具を挿入して起こす。	内底面は中央が窪み螺旋状に 強く撫でる。
5 ⊠W-2-4	5 区W-2(西) 一括	灰釉陶器 高台付皿	①(12.0) ②(7.0) ④ 2.4	①細粒②良好(還元) ③オリーブ黄7.5Y6/3 ④1/8残	体部は内湾し、口唇で外反し薄い。黄緑色釉を施す。貫乳が全体に入る。ロクロ整形。	瀬戸焼(昔田窯)の出土品に似た器形。内底面に菊花文の濃がある。
5 ⊠W-2-5	5 区W-2(西) 一括	瓦 桟瓦	長さ[11.2] 幅 [11.0] 厚さ[1.7]	①細粒(砂粒・白色粒含む) ②良好(酸化) ③橙2.5YR6/6④小破片	型整形。箆撫で調整、箆削り調整。切り込み部の破片と思われる。	
5 ⊠W-2-6	5 区W-2(西) 一括	石製品 石臼 (上臼)	径 (30.0) 高さ [10.7] ふくみ高 [1.2] くほみ径 (23.0) くほみ高 [5.1] 上縁幅 3.0 芯穴径 4.5 供給口径4.0	④1/2残	直径約1尺の穀臼。擂り合わせ面は挽き目が未検出。くぼみは立ち上がりに、丸みを付け直立気味な部分と、やや角張って斜めな部分がある。全体に摩耗が著しい。	4200 g 。
5 ⊠W-2-7	5 区W-2(西) 一括	軟質陶器 内耳土鍋	①(28.4) ④[12.6]	①細粒(白色粒・砂粒含む) ②良好(還元)③灰5/ ④口縁の一部 宮内出土は「貯蔵宮」 ピッ	輪積み成形。体部は直立。口縁部は内湾。胴部は箆削り調整、口縁部と内面は撫で調整。	外側全体に煤が付着する。口 縁部と胴部の境の段が明瞭。

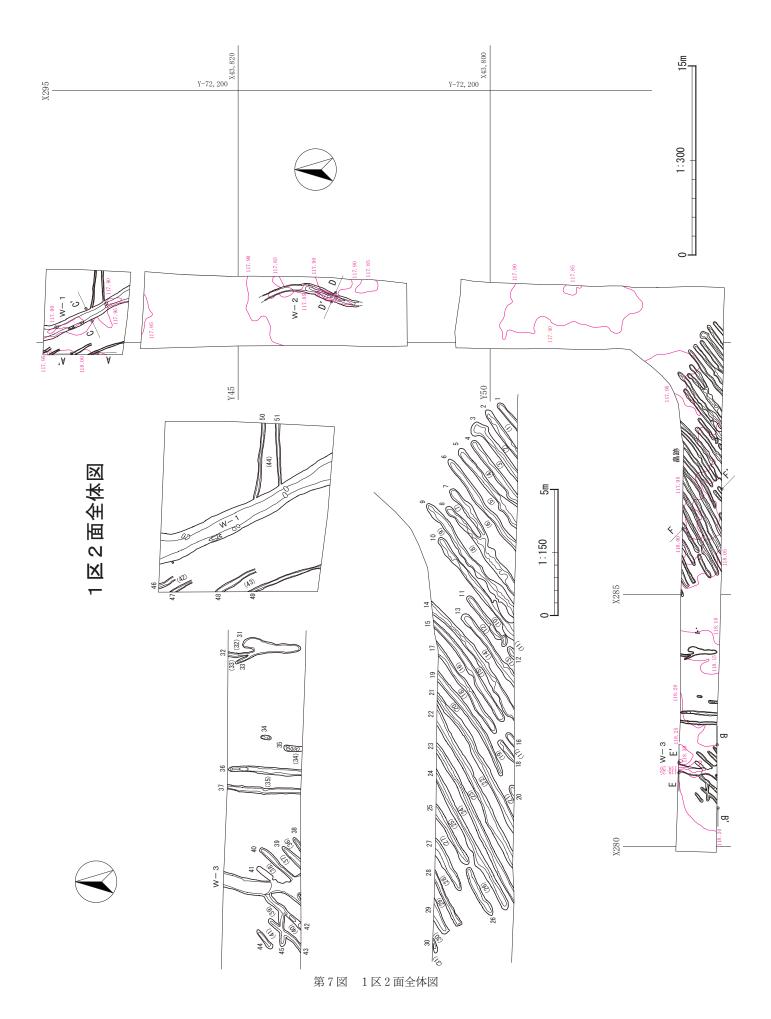
住居跡の竈内出土は「竈」、掘り方出土は「掘り方」、貯蔵穴内出土は「貯蔵穴」、ピット内出土は「P番号」と記載した。 台帳番号は調査時の付番で、遺物の注記番号と一致する。 胎土は、細粒(0.9㎜以下)、中粒(1.0~1.9㎜)、粗粒(2.0㎜以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合には鉱物名等を記載した。 焼成は、極良、良好、不良の3段階とした。 色調は外面で観察し、色名は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修 2000)によった。



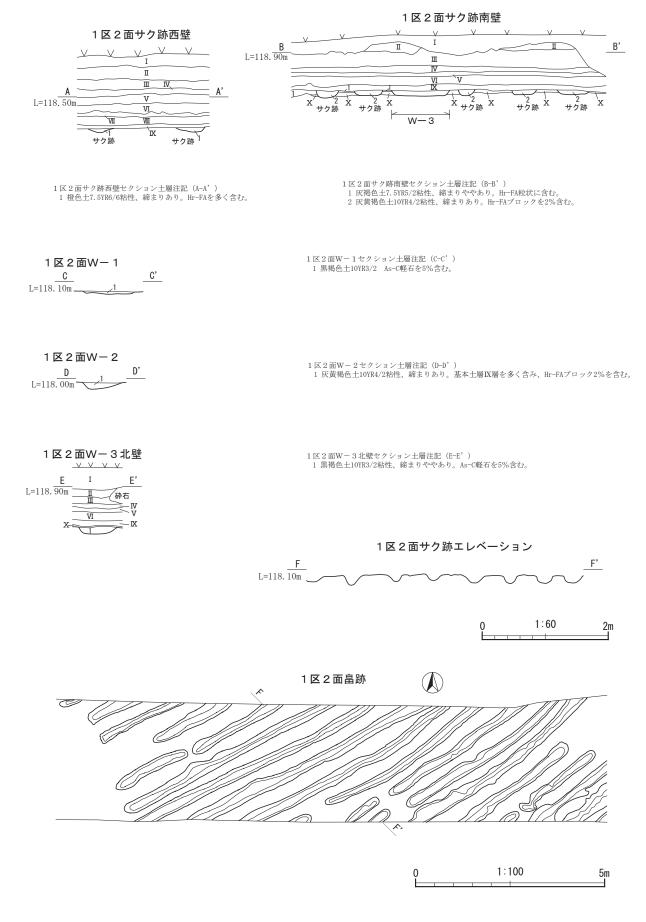




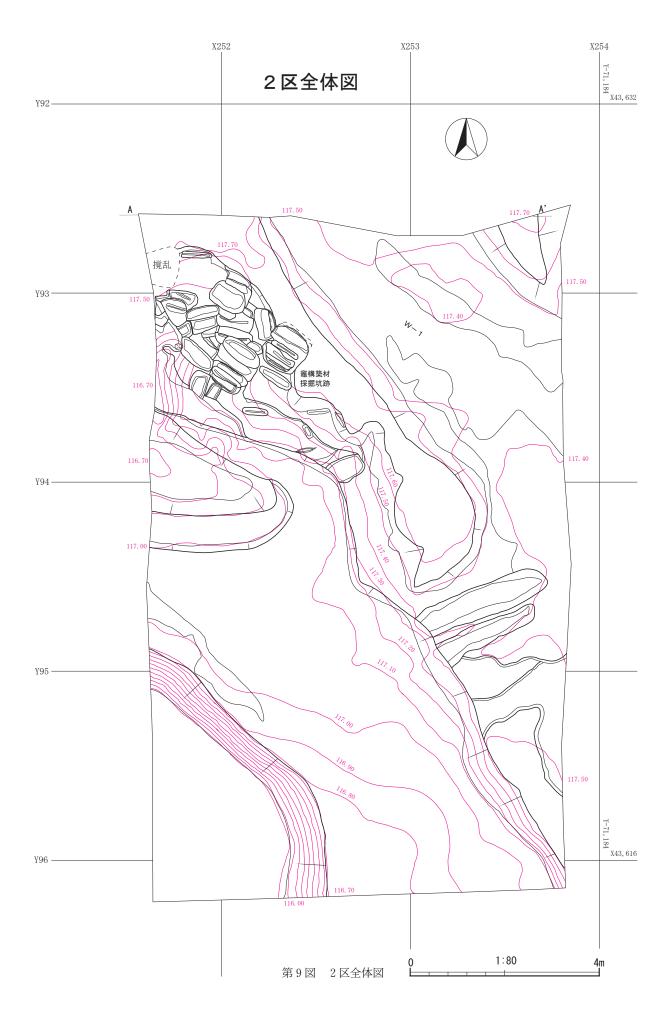
第6図 1区1面 As-B 軽石層下水田跡、 $1\sim3$ 号水口、W $-1\sim5$ 号溝跡、1 号凹み跡、D-1 号土坑実測図

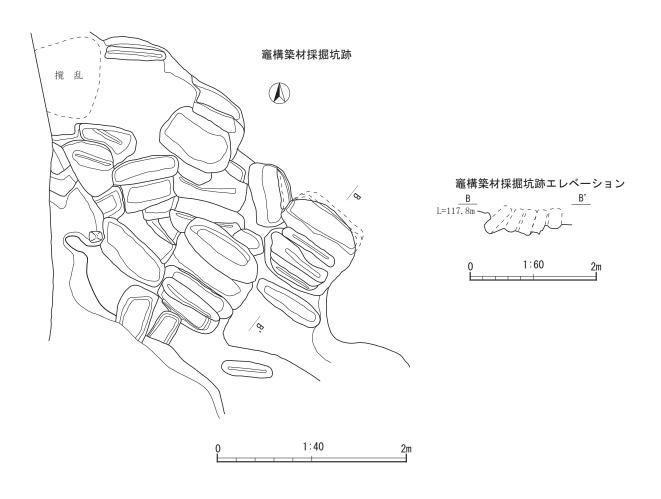


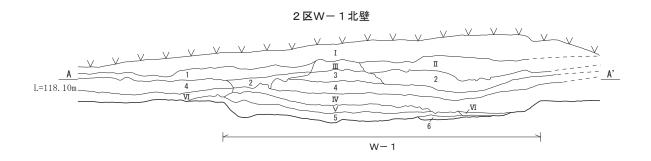
— 30 —



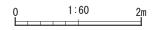
第8図 1区2面晶跡、W-1~3号溝跡実測図



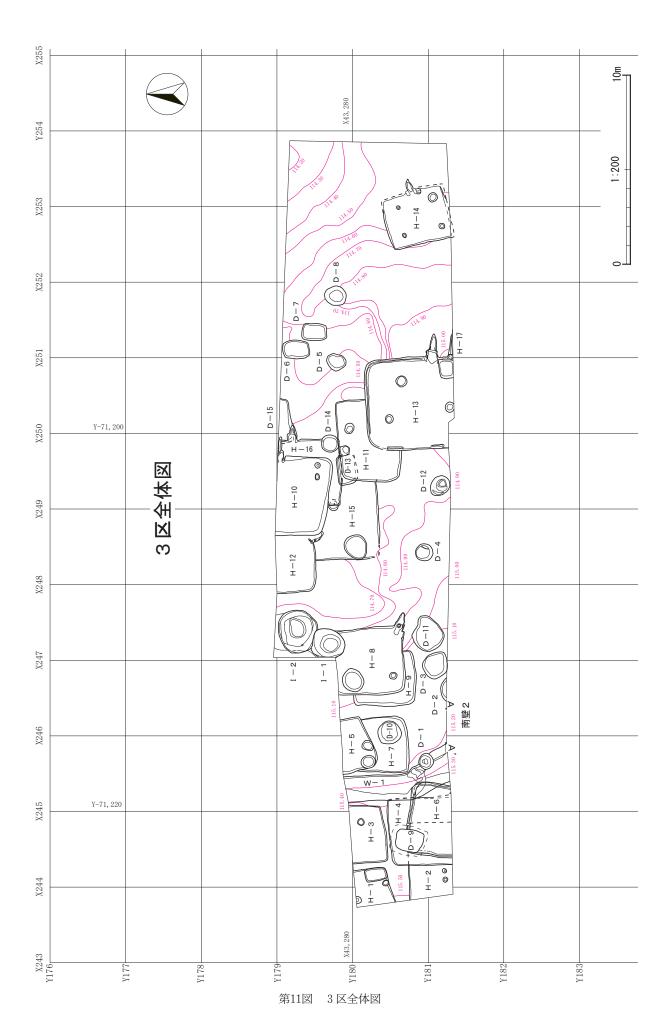


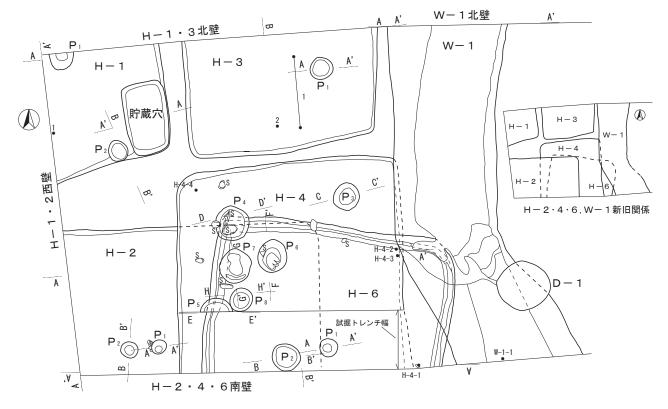


- 2 区W-1 北壁セクション土層注記(A-A') 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性、締まりややあり。細砂と軽石粒をわずかに含む。 2 にぶい黄褐色土10YR5/3粘性、締まりややあり。微砂を多く含む。 3 2層より締まりあり。 4 にぶい黄褐色土10YR5/3粘性、締まりややあり。As-B軽石を含む。 5 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりあり。砂層ブロックを含む。 6 砂礫層 砂と小礫 1~3 cmを含む。



第10図 2区電構築材採掘坑跡、W-1号溝跡実測図



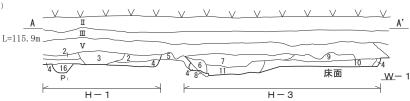


- 3区H-1・3北壁、H-1・2西壁セクション土層注記(A-A')
 1 灰黄褐色土10/R4/2粘性、締まりあり。Hr-FP軽石 (φ2mm~3mm)を1%とAs-B軽石、にぶい黄橙色砂質土 ブロックを含む。(H-2覆土)
- フロックを含む。 (H-2模工) 2 灰黄褐色±107K5/2粘性、締まりなし。 細砂、明黄褐色 砂質土ブロックを含む。 3 灰黄褐色±107K5/2粘性、締まりなし。 炭化物と明黄褐 色砂質土ブロックを含む。 4 灰黄褐色±107K5/2粘性、締まりなし。 明黄褐色砂質土
- ブロックを含む。 5 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりなし。明黄褐色砂質土
- 5 次寅後巴王101Rの/4前は、和まソなし。カヌドロロルス上と細砂を含む。
 6 灰黄褐色土10/R5/2粘性、締まりなし。明黄褐色砂質土プロックと細砂を含む。
 7 灰黄褐色土10/R5/2粘性なく、締まりあり。Hr-FP軽石(な2m~5mm)を2%と細砂を含む。

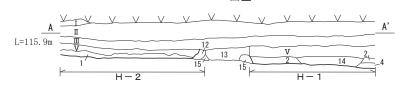
- 9 灰寅梅色土101K8/2粘性、締まりなし。hr-FP軽右(62 mm ~ 3mm) を198と 2細砂を含む。
 10 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりなし。9層よりhr-FP 軽石が多く、細砂、明黄褐色砂質ブロックを含む。
 11 灰黄褐色土10YR5/2粘性なく、締まりあり。hr-FP軽石(62 mm ~ 3mm) を1%と炭化物、細砂を含む。
 12 灰黄褐色土10YR5/2粘性なく、締まりあり。明黄褐色砂質

- 12 灰黄橋色土10/185/2桁性なく、締まりあり。明真橋色砂質 土を含む。 13 灰黄褐色土10/185/2粘性、締まりなし。細砂、軽石、明黄 褐色砂質土を含む。 14 灰黄褐色土10/185/2粘性、締まりなし。細砂、明黄褐色砂 質土ブロックを含む。 15 明黄褐色砂質土 (地山) 16 灰黄褐色土10/185/2粘性、締まりなし。にぶい黄橙色土を 含む。 (H-1P1)

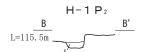




H-1・2 西壁







- 3区H-1貯蔵穴セクション土層注記(A-A')
- 1 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりなし。細砂を多く含み、にぶい黄橙色砂質土ブロックを含む。
- 3 区H−1 P₂セクション土層注記(B-B') 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性、締まりなし。細砂を多く含む。

- 3 区H 2 P.セクション土層注記(A-A') 1 にぶい黄褐色土10YR5/3粘性、締まりややあり。にぶい黄橙色土を多く含む。 2 灰黄褐色土10YR4/2粘性、締まりややあり。にぶい黄橙色土ブロックをわずかに含む。

- 3 区H 2 P:セクション土層注記(B-B') 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性、締まりややあり。白色軽石粒を含む。 2 灰黄褐色土10YR4/2粘性、締まりややあり、白色軽石とにぶい黄橙色砂質土ブロックを含む。

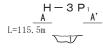
 $3\,\mathrm{CH}-3\,\mathrm{P}$:セクション土層注記(A-A') $1\,\mathrm{K}$ 灰黄褐色土10YR4/2粘性ややあり、締まりあり。細砂と軽石粒を含み、にぶい黄橙色土を含む。

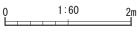




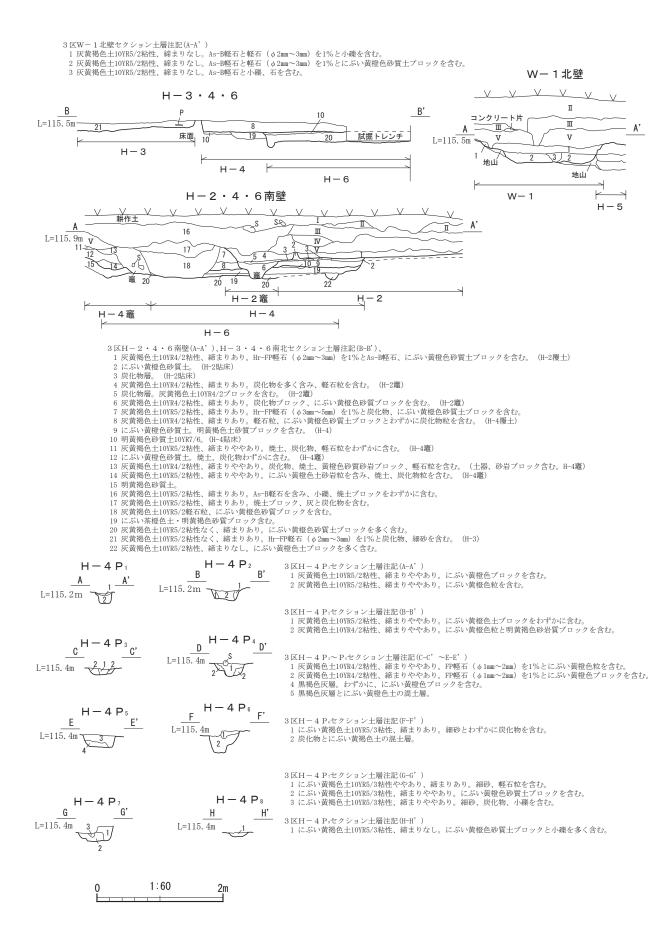
H-2P2

B'

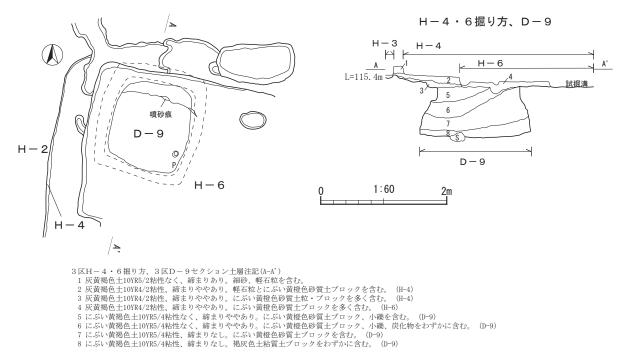


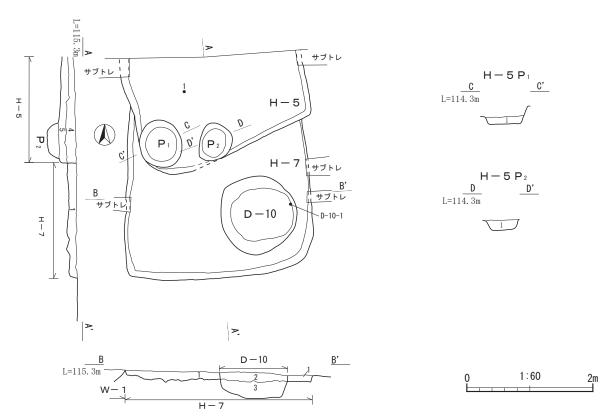


第12図 $3 ext{ 区H} - 1 \sim 4 \cdot 6$ 号住居跡、W - 1 号溝跡実測図



第13図 $3 区 H - 2 \sim 4 \cdot 6$ 号住居跡、W - 1 号溝跡実測図





- 3 区H − 5. H − 7. D − 10セクション土層注記(A-A', B-B')

 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性、締まりややあり。Hr-FP軽石(φ 2mm ~ 3mm)を1%とにぶい黄橙色土ブロック、炭化物粒を含む(H-7)。

 2 にぶい黄褐色土10YR5/4粘性、締まりややあり。炭化物、にぶい黄橙色土粒を含む(D-10)。

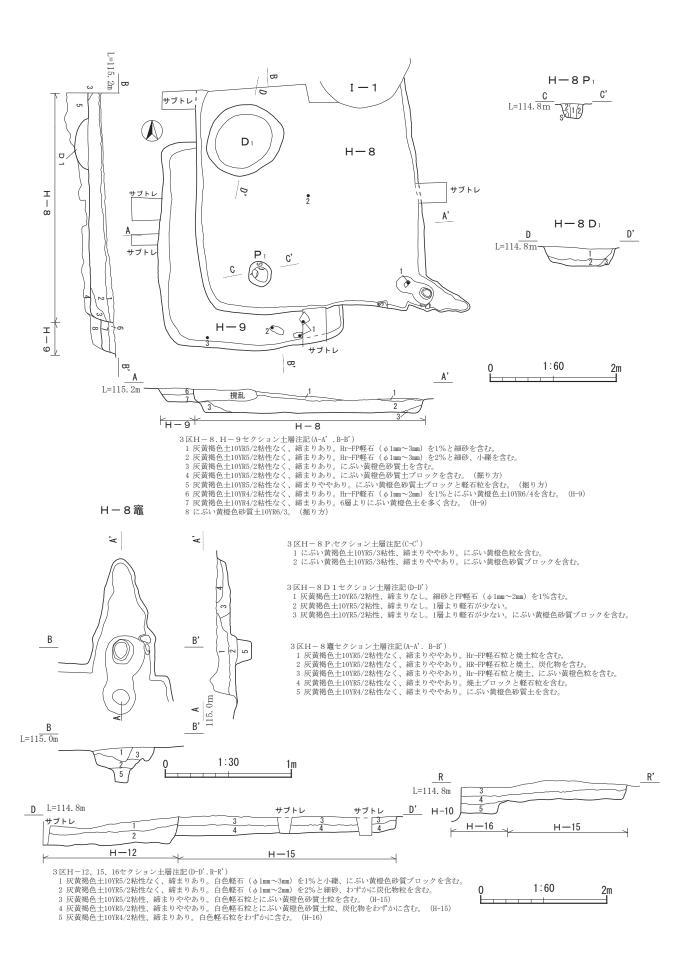
 3 にぶい黄褐色土10YR5/4粘性、締まりややあり。炭化物粒と小礫をわずかに含む(D-10)。

 4 灰黄褐色土10YR5/2粘性なく、締まりあり。白色軽石と炭化物、小石礫含む(H-5)。

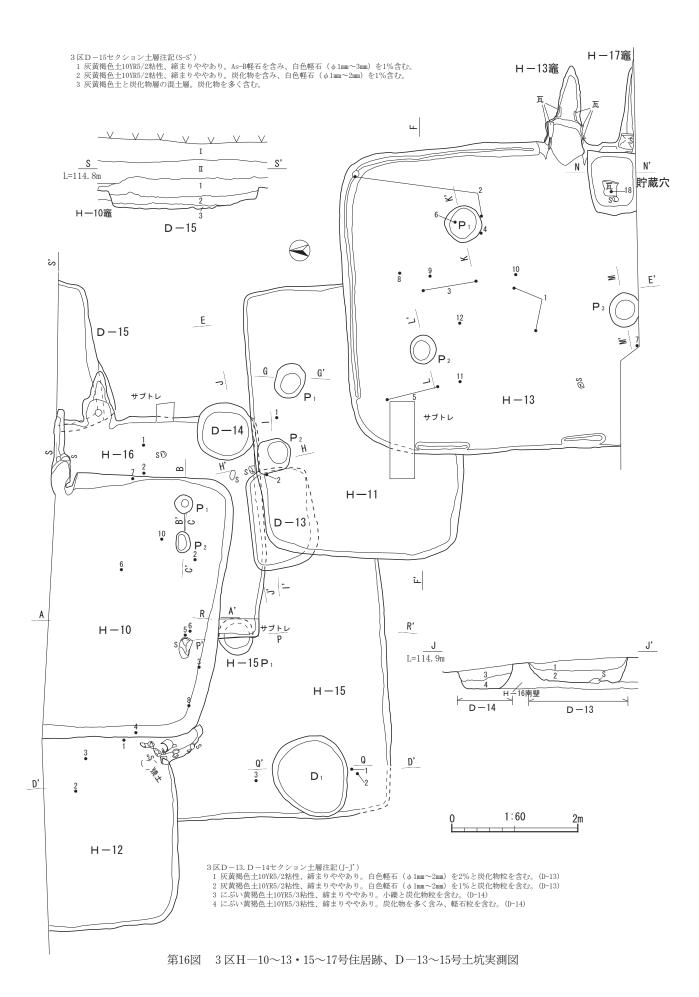
 5 灰黄褐色土10YR5/2粘性なく、締まりあり。4層より炭化物が多い(H-5)。

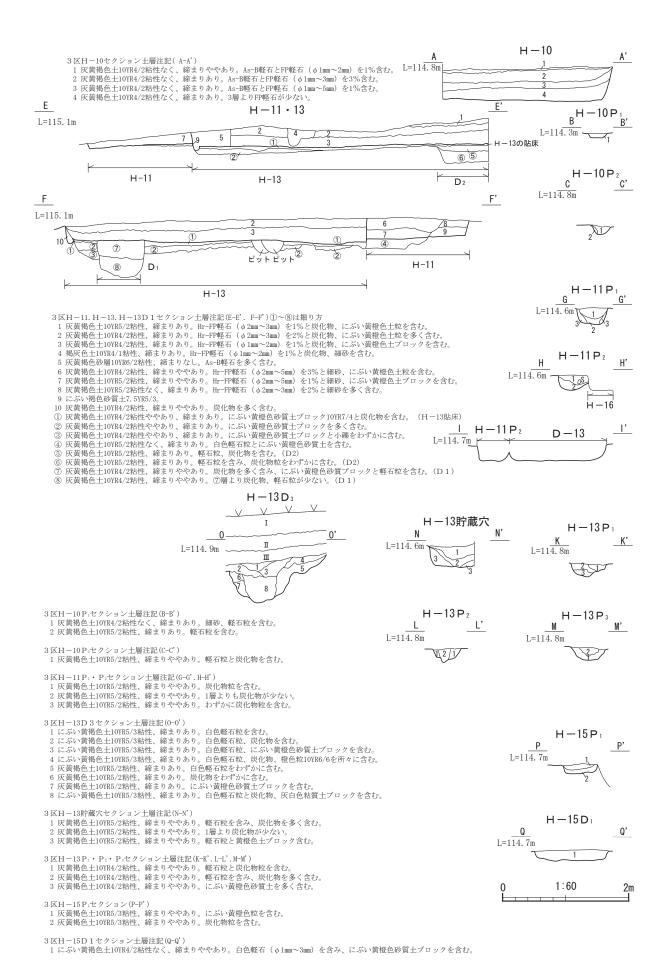
- 3 区H 5 P., P.セクション土層注記(C-C', D-D') 1 灰黄褐色土10YR4/2粘性なく、締まりややあり。細砂、軽石(ϕ 1mm~2mm)を1%とにぶい黄橙色砂質土ブロックを含む。

第14図 $3 区 H - 4 \sim 7 号 住 居$ $D - 9 \cdot 10$ 号 土 坑 実 測 図

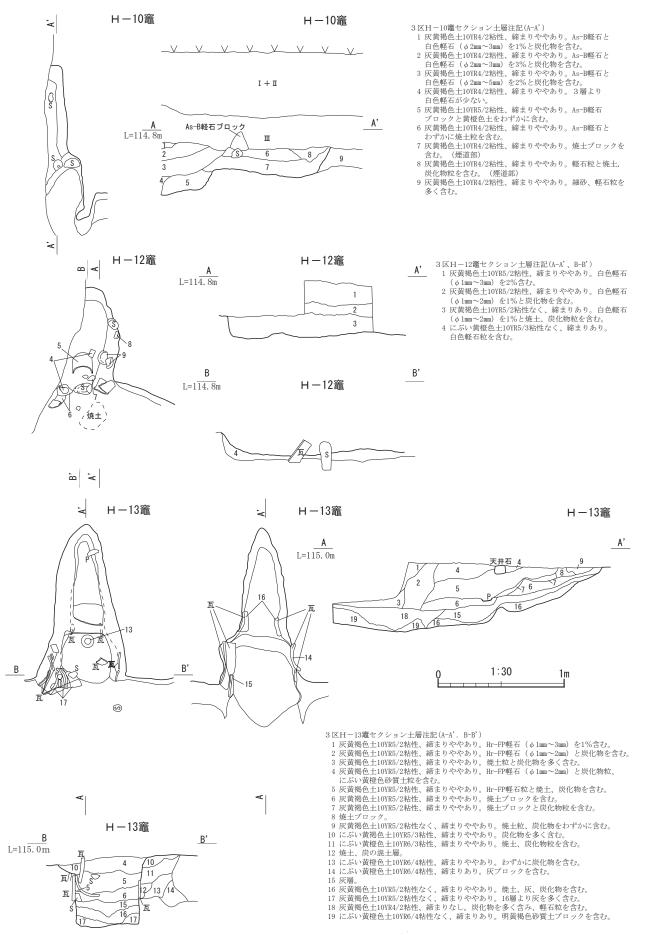


第15図 3 区H-8~10·12·15·16号住居跡実測図

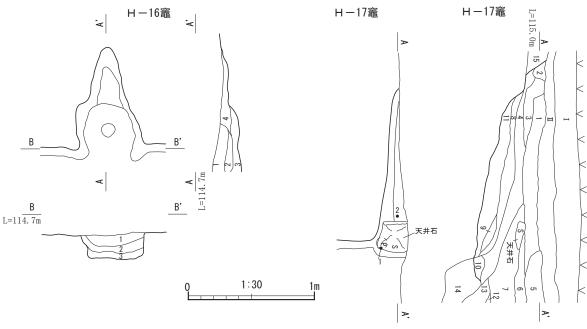




第17回 3 区H-10·11·13·15号住居跡、D-13号土坑実測図



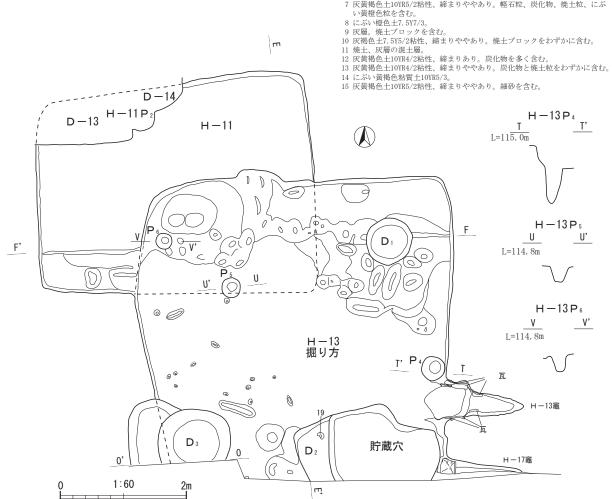
第18図 3 区H-10·12·13号住居跡竈実測図



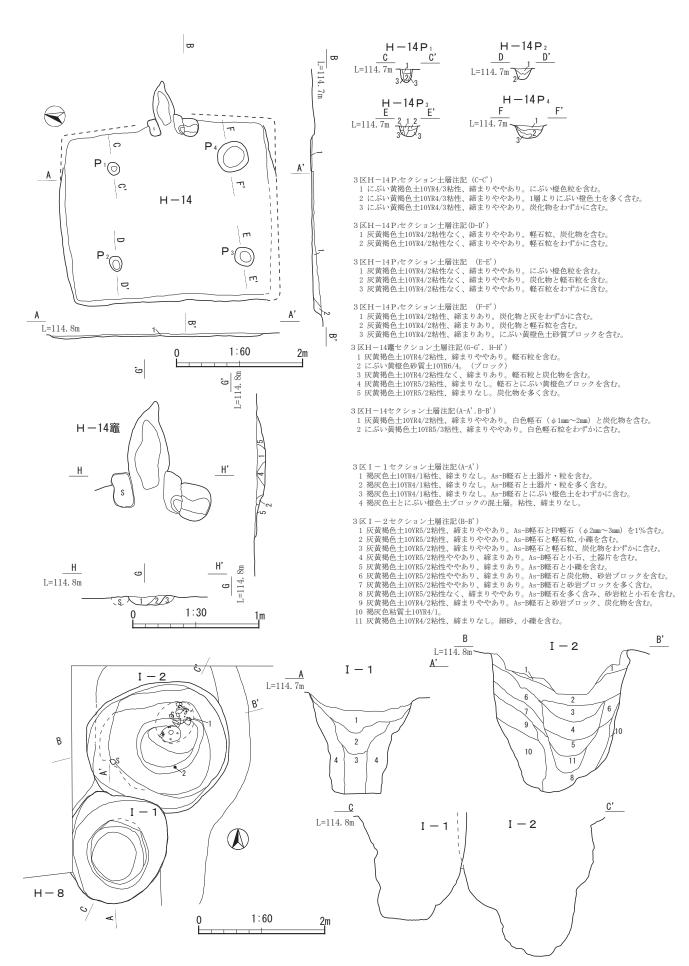
- 3 区H-16竈セクション土層注記(A-A'.B-B') 1 灰黄褐色土10YR5/2粘性ややあり、締まりあり。白色軽石 (ϕ 2mm \sim 3mm) を1%と炭 化物粒を含む。

- 1と 灰黄褐色土10YR5/2粘性ややあり、締まりあり。炭化物、焼土粒をわずかに含む。 3 灰黄褐色土10YR5/2粘性ややあり、締まりあり。炭化物をわずかに含む。 4 灰黄褐色土10YR5/2粘性ややあり、締まりあり。灰化物を多く含み、焼土粒を含む。

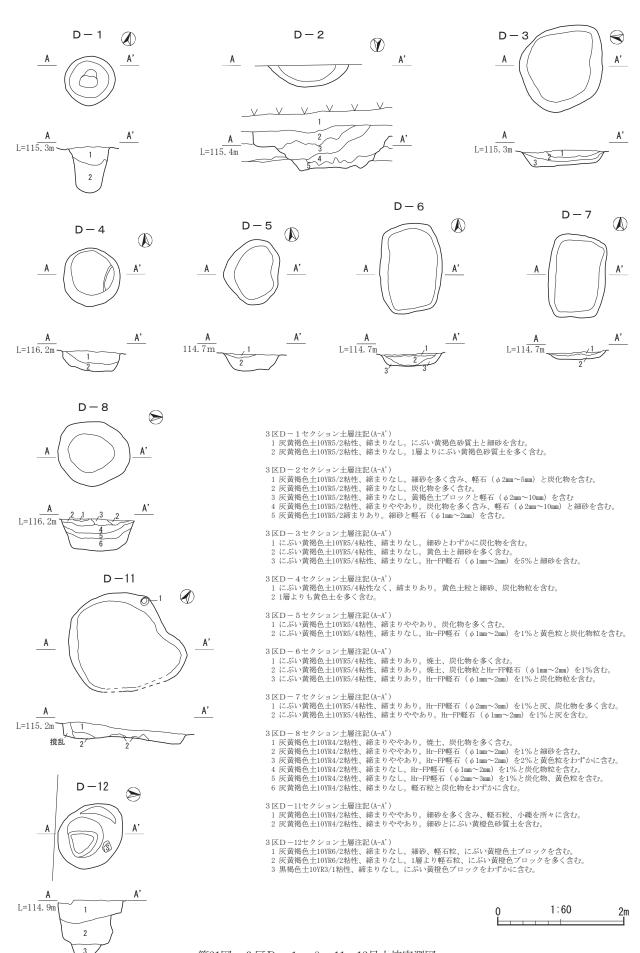
- 3区H-17竈セクション土層注記(A-A')
 1 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。炭化物、焼土粒を含む。
 2 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりあり。灰を含む。
 3 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。焼土、炭化物粒と焼石を含む。
 4 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。焼土、炭化物と灰を含む。
 5 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。細砂を含み、焼土粒をわずかに含む。
 6 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。焼土粒が多く、炭化物粒をわずかに含む。
 7 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。軽石粒、炭化物、焼土粒、にぶい黄緑色土10YR5/2粘性、締まりややあり。軽石粒、炭化物、焼土粒、にぶい黄緑色土10YR5/2粘性、締まりややあり。軽石粒、炭化物、焼土粒、にぶい黄緑色土10YR5/2粘性、締まりややあり。軽石粒、炭化物、焼土粒、にぶい黄緑色土10YR5/2粘性、締まりややあり。軽石粒、炭化物、焼土粒、にぶい黄緑色土10YR5/2粘性、締まりややあり。



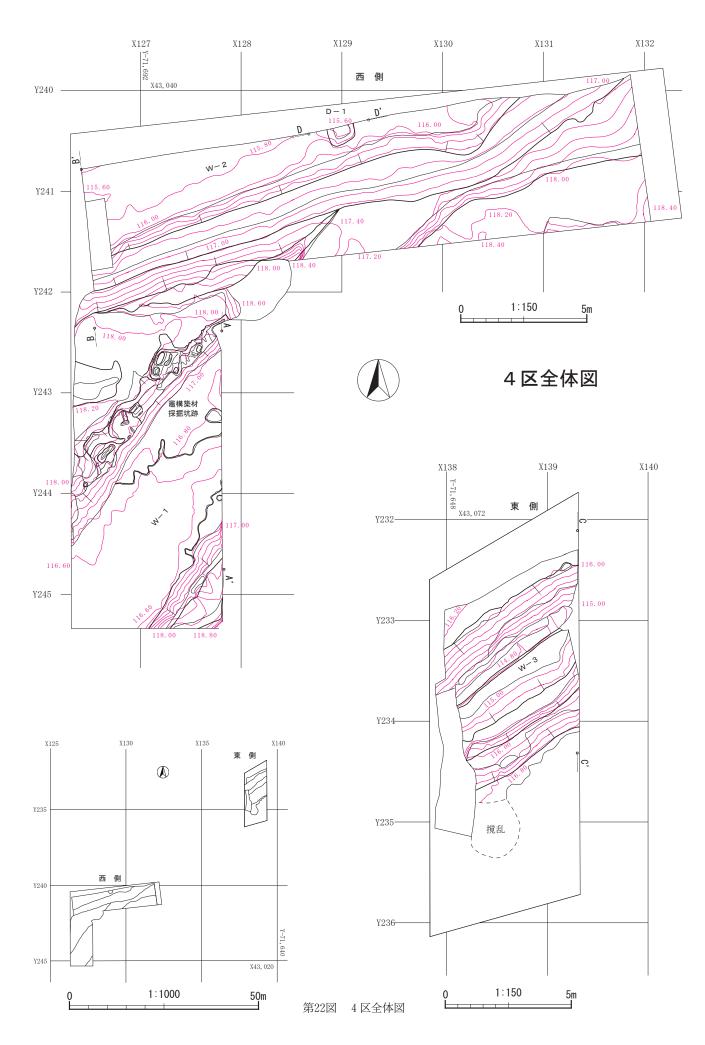
3 区H-11・13・16・17号住居跡実測図 第19図



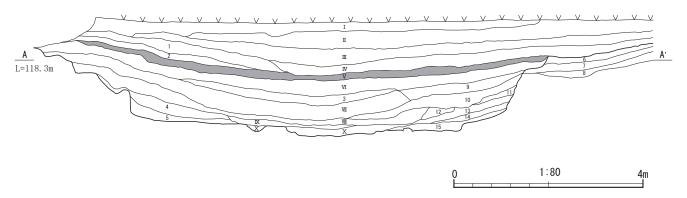
第20図 3 区 H - 14 号 住 居 跡、 $I - 1 \cdot 2 号 井 戸 跡 実 測 図$



第21図 $3 ext{ 区D} - 1 \sim 8 \cdot 11 \cdot 12$ 号土坑実測図



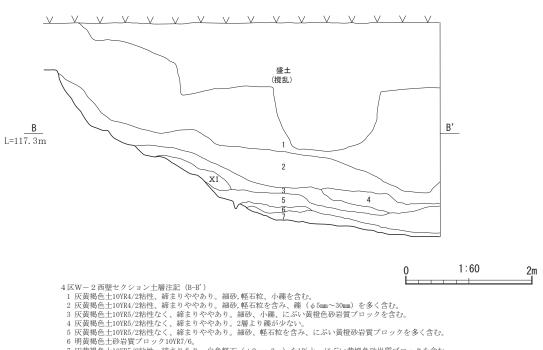
4区W-1東壁



- 4 区W−1 (B溝) 東壁セクション (A-A')

 1 灰黄褐色土10YR5/2 粘性なく、締まりややあり。As−B 軽石と軽石 (φ2mm~5mm) を含む。
 2 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。1層とAs−B 軽石の混土層。As−B 軽石を多く含む。
 3 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりあり。白色軽石 (φ2mm~10mm) を1%と小礫を含む。
 4 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりあり。白色軽石 (φ2mm~3mm) を1%と小礫を含む。
 5 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりあり。 16 色軽石 (φ2mm~3mm) を1%と砂質ブロックを含む。
 6 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりかやあり。As−B 軽石ブロックをかずかに含む。
 7 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりややあり。1 毎軽石 (φ1mm~2mm) を1%と砂質ブロックを含む。
 8 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりかやあり。1 毎軽石 (φ2mm~5mm) と小礫を含む。
 8 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。卵砂でダーマクを多く含む。
 10 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。卵黄褐色砂岩質ブロックを含む。
 11 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。明黄褐色砂岩質ブロックを含む。
 12 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。明黄褐色砂岩質ブロックを多く含む。
 13 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。明黄褐色砂岩質ブロックを含く含む。
 14 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。明黄褐色砂岩質ブロックを含く含む。
 15 灰黄褐色土10YR5/2 粘性、締まりなし。明黄褐色砂岩質ブロックをわずかに含み、小礫を含む。
 15 灰黄褐色土。にぶい黄橙色砂質土の混土層。

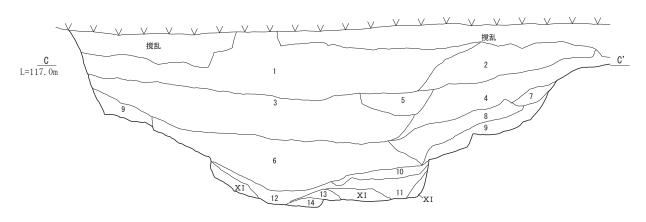
4区W-2西壁

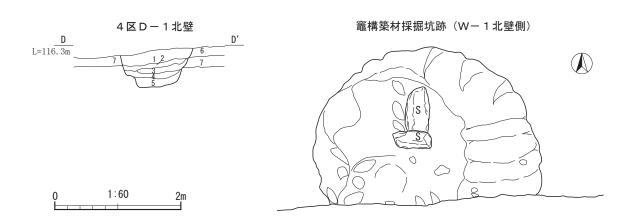


- 7 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりあり。白色軽石 (φ2mm~3mm) を1%と、にぶい黄橙色砂岩質ブロックを含む。

第23図 4区W-1号溝跡、W-2号溝跡(堀跡)実測図

4区W-3東壁セクション





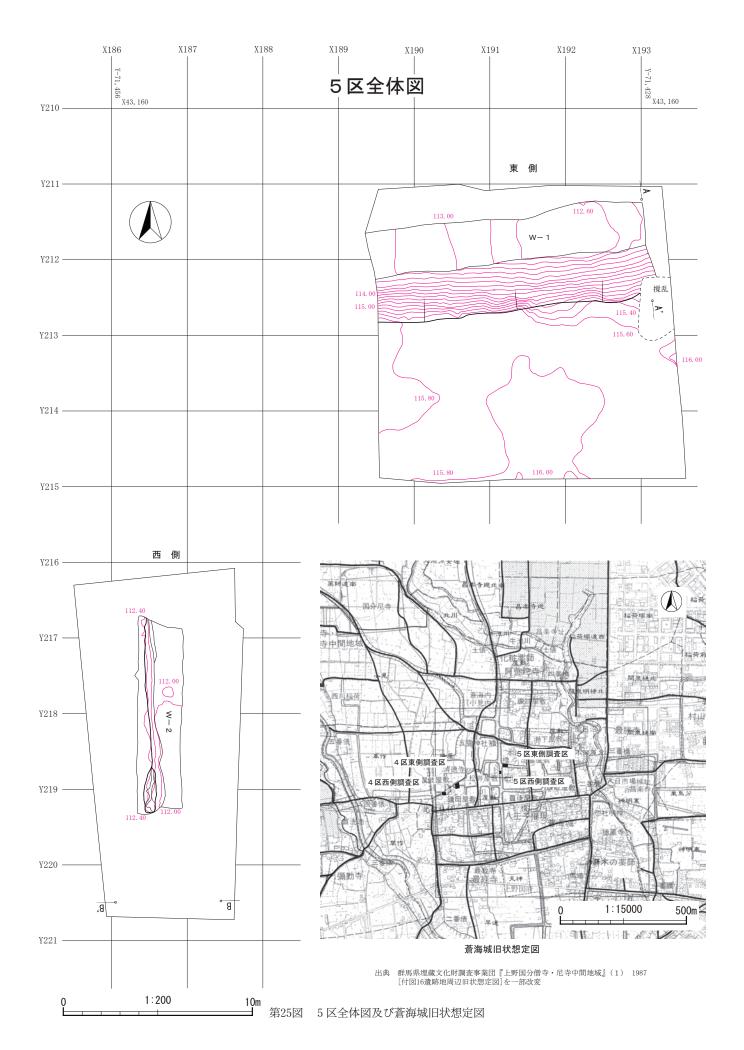
- 4 区W 3 東壁セクション (C-C')
 1 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。細砂を含む。
 2 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。細砂, 軽石粒、明黄褐色砂岩質ブロックを含む。
 3 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。細砂, 軽石粒、明黄褐色砂岩質ブロックを含む。
 4 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。細砂, 細砂 明黄褐色砂岩質ブロックを多く含む。
 5 灰黄褐色土10YR5/2粉性、締まりややあり。細砂, 明砂、銀砂・砂岩質ブロックを多く含む。
 6 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。細砂、明黄褐色砂岩質ブロック、小石、炭化物を含む。
 7 灰黄褐色土10YR4/1粘性、締まりややあり。白色軽石粒(6 lm ~ 3mm)を2%と黒褐色ブロック10YR3/1を含む。
 8 灰黄褐色土10YR4/1粘性、締まりややあり。にぶい黄橙色砂岩質ブロックを含く含む。
 9 灰黄褐色土10YR4/1粘性、締まりややあり。にぶい黄橙色砂岩ブロックを含く含む。
 10 灰黄褐色土10YR5/2粘性、締まりややあり。にぶい黄橙色砂岩ブロックを含む。
 11 にぶい黄橙色砂岩上銀岩色土の混土層。
 12 灰黄褐色土10YR4/2粘性、締まりかやあり。にぶい黄橙色・岩ブロックを含む。
 13 黒褐色土ブロック。
 14 にぶい黄橙色砂質土。黒褐色土ブロックをわずかに含む。

- 14 にぶい黄橙色砂質土。黒褐色土ブロックをわずかに含む。

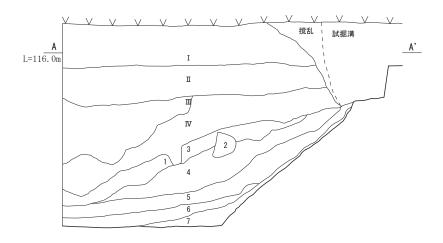
4 区D-1 北壁セクション土層注記 (D-D')

- 4区D 1 北壁セクション士層注記 (D-D')
 1 灰黄褐色土10YR6/2粘性なく、締まりややあり。細砂、白色軽石粒、灰白色土ブロックを含む。
 2 灰黄褐色土10YR6/2粘性なく、締まりややあり。細砂、白色軽石粒、灰白色土ブロック、褐灰色土ブロックを含む。
 3 灰黄褐色土10YR6/2粘性なく、締まりややあり。細砂、白色軽石粒、灰白色土ブロックをわずかに含む。
 4 灰黄褐色土10YR6/2粘性なく、締まりややあり。細砂、灰白色土ブロック、hr-FP軽石(φ3mm~20mm)をわずかに含む。
 5 灰黄褐色土10YR6/2粘性、締まりあり。白色軽石粒をわずかに含む。
 6 灰黄褐色土10YR6/2粘性、締まりあり。細砂、灰白色土ブロックを1%含む。
 7 灰黄褐色土10YR6/2粘性、締まりあり。灰白色土ブロックを8く含む

第24図 4 区W-3 号溝跡(堀跡)、D-1 号土坑、竈構築材採掘坑跡実測図

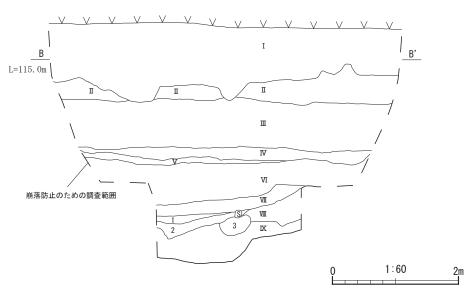


5区W-1東壁



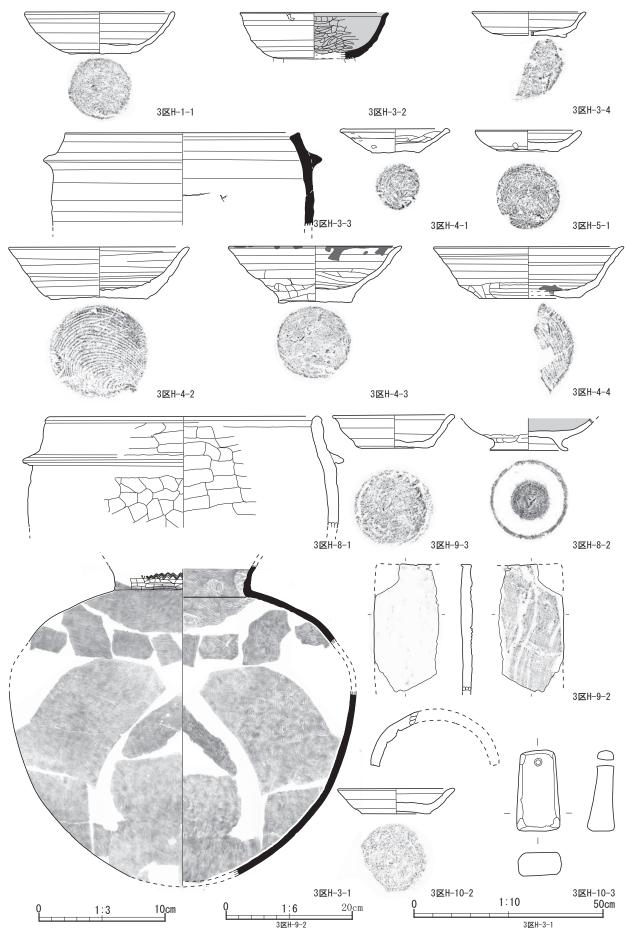
- 5 区W−1 東壁セクション土層注記 (A-A')
 1 灰黄褐色土10YR6/2粘性ややあり、締まりあり。IV層より黒褐色粘質土ブロックが少ない。
 2 灰黄褐色土10YR5/2粘性ややあり、締まりあり。細砂を多く含み、灰白色粘質土ブロックを含む。
 3 褐灰色土10YR5/1粘性、締まりあり。黒褐色粘質土ブロックを多く含む。
 4 にぶい黄橙色土10YR7/3粘性、締まりあり。黒褐色粘質土ブロック、にぶい黄橙色砂質土ブロック、小礫を含む。
 5 にぶい黄橙色土10YR7/3粘性、締まりあり。4層に石を含み、小礫を多く含む。
 6 褐灰色砂礫層10YR5/1。砂を多く含む。
 7 褐灰色砂礫層10YR5/1。石・小礫を多く含む。

5区W-2南壁

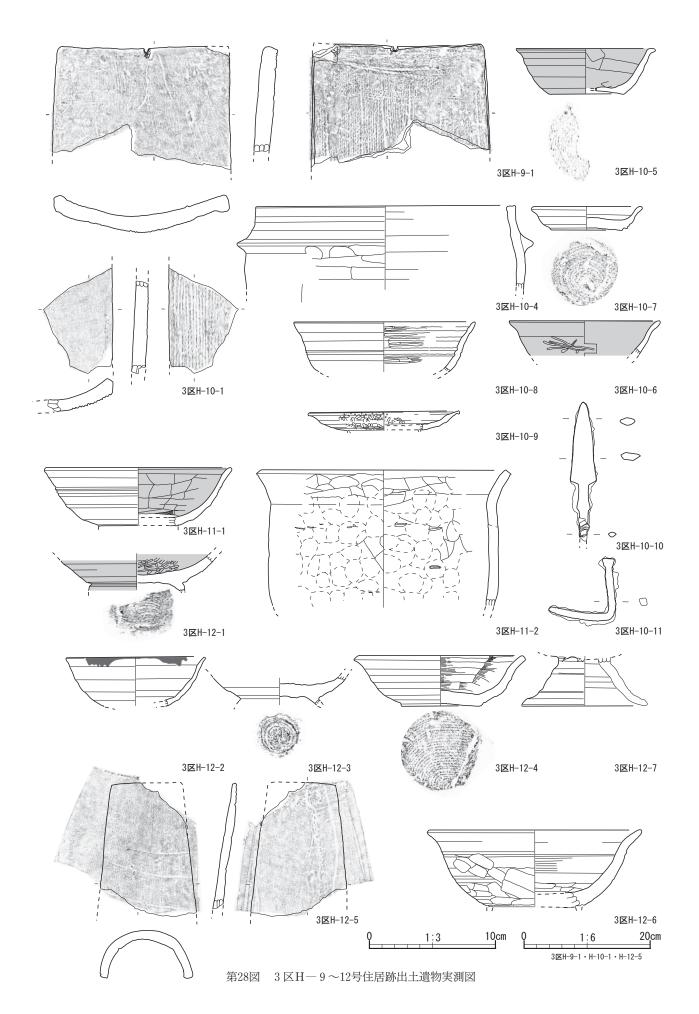


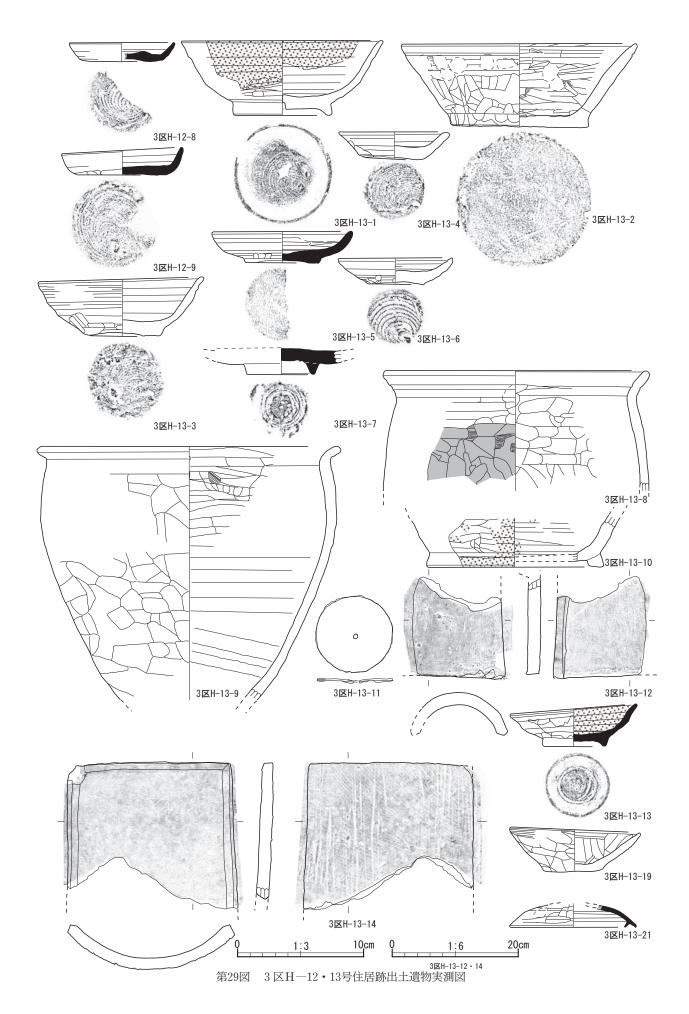
- 5区W-2 南壁セクション土層注記(B-B') 1 灰黄褐色土10YR4/2砂礫を含む。 2 灰黄褐色粘質土。 3 灰黄褐色土。砂礫ブロック、石を含む。

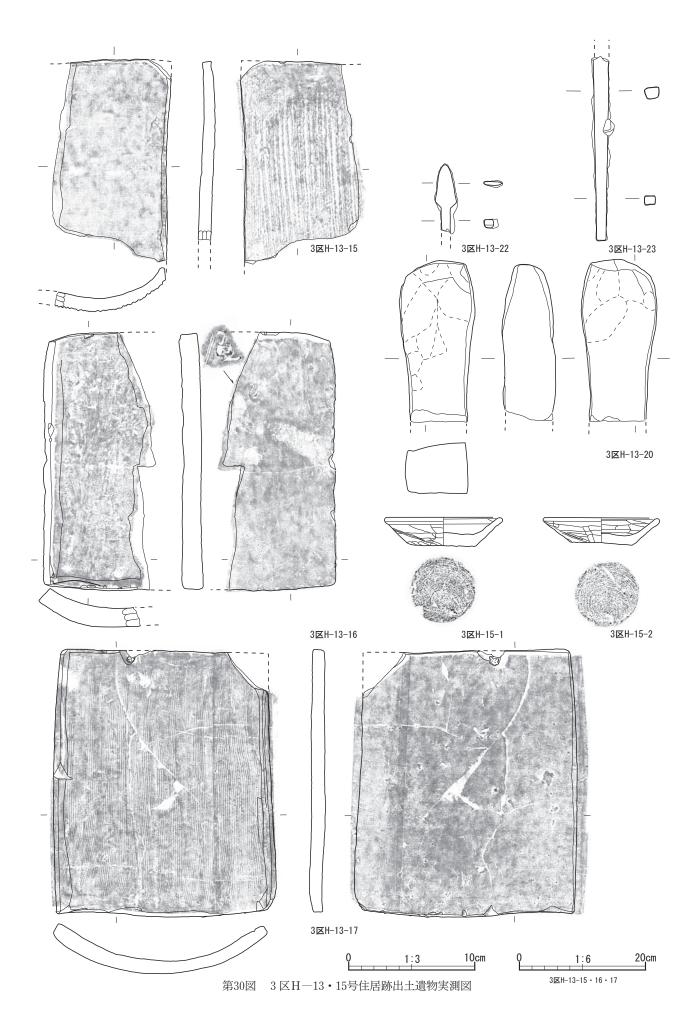
第26図 5 区W-1 · 2 号溝跡 (堀跡) 実測図

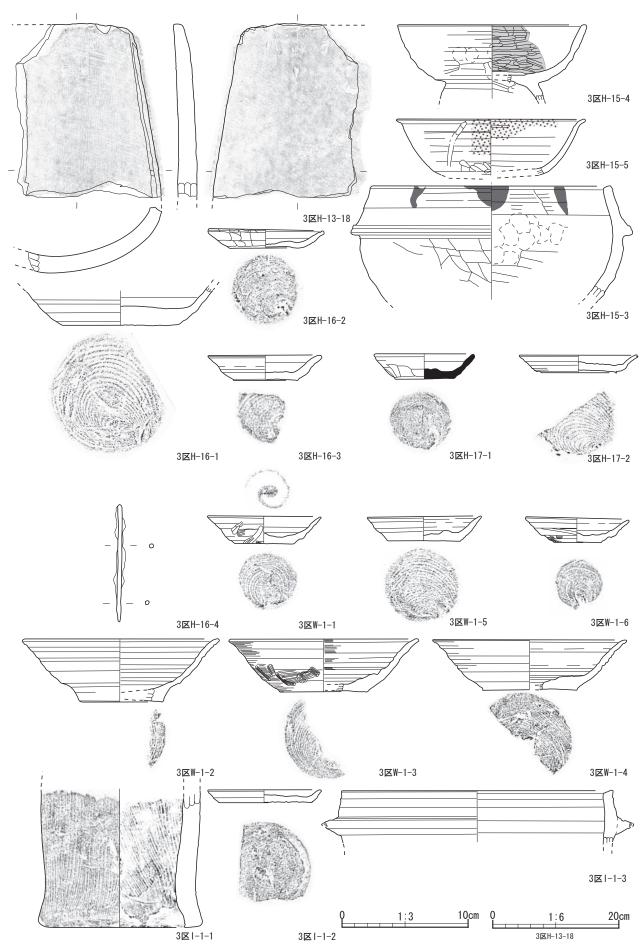


第27図 $3 \, \text{区H} - 1 \cdot 3 \sim 5 \cdot 8 \sim 10$ 号住居跡出土遺物実測図

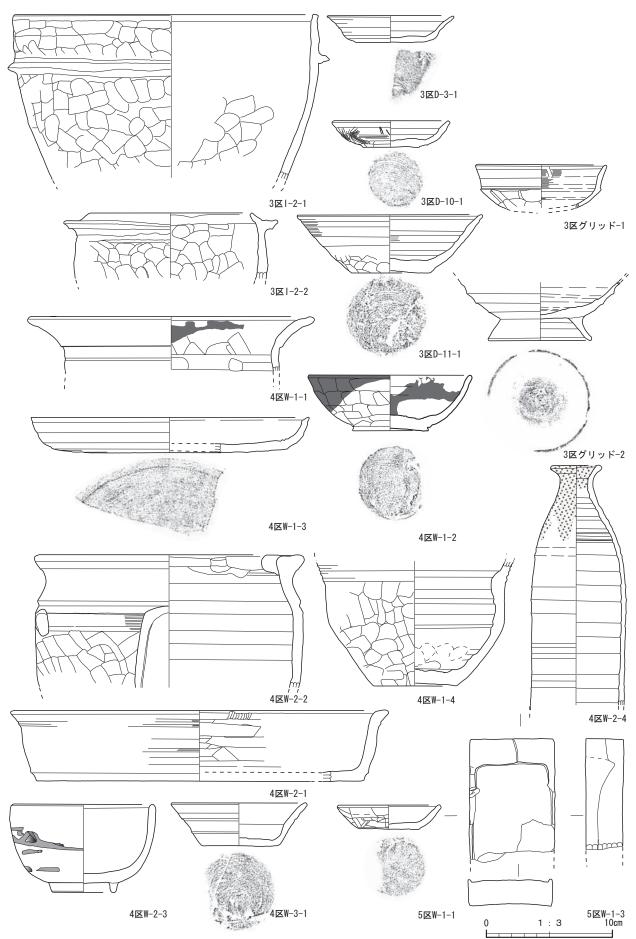




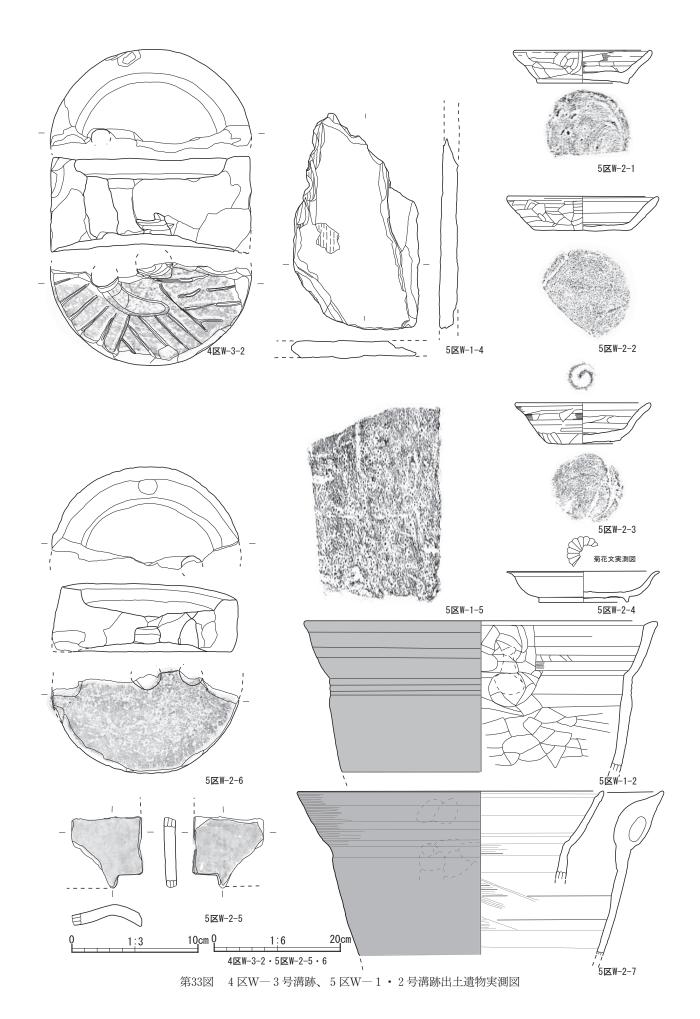




第31図 3 区H $-13 \cdot 15 \sim 17$ 号住居跡、 I $-1 \cdot 2$ 号井戸跡、W-1 号溝跡出土遺物実測図



第32図 3 区D - 3 •10 •11号土坑、I - 2 号井戸跡、グリッド、4 区W - 1 \sim 3 号溝跡、5 区W - 1 号溝跡出土遺物実測図



-56-



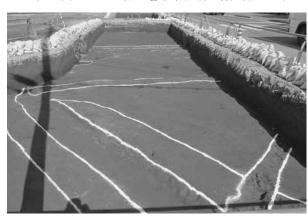
1区1面調査区全景(南西から)



1区1面As-B軽石層下水田跡全景(北から)



1区1面As-B軽石層下水田跡全景(西から)



1区1面As-B軽石層下水田跡全景(南から)



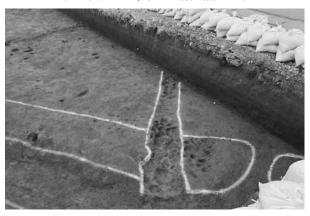
1区1面W-3号溝跡4・5号畦畔全景(東から)



1区1面1・2号水口全景(南から)



1区1面W-1号溝跡全景(東から)



1区1面W-2号溝跡、3号水口全景(南から)

図版 2



1区1面W-3号溝跡4・5号畦畔全景(北から)



1区1面W-4号溝跡全景(南から)



1区1面W-5号溝跡全景(南から)



1区1面東壁畦畔セクション(西から)



1区1面1・2号凹み跡全景(南から)



1区1面D-1号土坑全景(東から)



1区2面調査区全景(南西から)



1区2面畠跡、W-1号溝跡全景(南から)



1区2面畠跡確認面(北東から)



1区2面畠跡全景(西から)



1区2面畠跡全景(南西から)



1区2面畠跡セクション(東から)



1区2面畠跡、W-3号溝跡全景(北から)



1区2面畠跡、W-1号溝跡全景(北西から)



1区2面W-2号溝跡全景(北から)



1区1・2面東壁セクション(西から)



2区調査区全景(南から)



2区W-1号溝跡全景(北から)



2区竈構築材採掘坑跡全景(北西から)



2区竈構築材採掘坑跡全景(南西から)



2区竈構築材採掘坑跡(南東から)



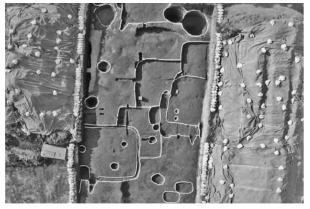
2区東壁セクション(西から)



3 区調査区全景(上が北)



3 区調査区西側 (上が西)



3区調査区中央(上が西)



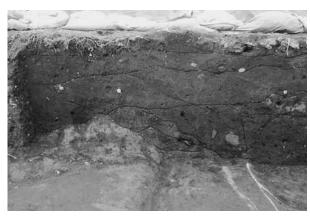
3区H-1号住居跡全景(西から)



3区H-1~4⋅6号住居跡全景(南から)



3区H-2号住居跡竈・貼り床南壁セクション(北から)



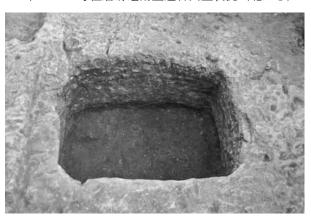
3区H-4号住居跡竈南壁セクション(北から)



3区H-4号住居跡竈南壁遺物出土状況(北から)



3 区H−4・6 号住居跡掘り方・D−9 号土坑全景



3区D-9号土坑全景(西から)



3区D-9号土坑遺物出土状況(西から)



3区H-5・7号住居跡全景(南から)



3区H-8・9号住居跡全景(西から)



3区H-8号住居跡竈全景(西から)



3区H-8号住居跡竈掘り方全景(西から)



3 区H-10・12・15・16号住居跡全景 (西から)



3区H-10号住居跡竈全景(南から)



3区H-12号住居跡竈全景(北西から)



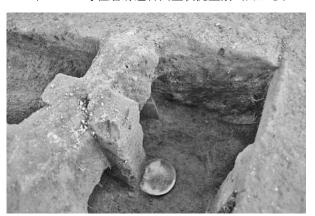
3区H-12号住居跡竈掘り方全景(北西から)



3区H-11・13号住居跡全景(西から)



3区H-13号住居跡遺物出土状況全景(西から)



3区H-13号住居跡竈遺物出土状況(北から)



3区H-12号住居跡遺物出土状況(北西から)



3区H-13号住居跡全景(西から)



3区H-13号住居跡竈全景(西から)



3区H-13号住居跡竈掘り方セクション(西から)



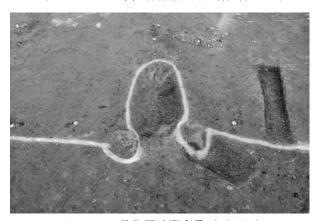
3区H-13号住居跡貯蔵穴遺物出土状況(西から)



3区H-11・13号住居跡掘り方全景(北から)



3区H-14号住居跡全景(東から)



3区H-14号住居跡竈全景(西から)



3区H-10・15・16号住居跡全景(西から)



3区H-15号住居跡遺物出土状況(西から)



3区H-10・16号住居跡全景(西から)



3区H-16号住居跡遺物出土状況(西から)



3区H-16号住居跡竈全景(西から)



3区H-17号住居跡竈全景(西から)



3区H-17号住居跡竈掘り方全景(西から)



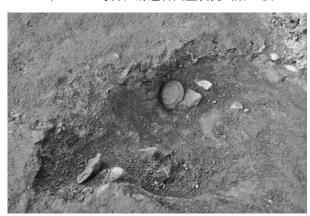
3区Ⅰ-1・2号井戸跡全景(北から)



3区I-2号井戸跡遺物出土状況(東から



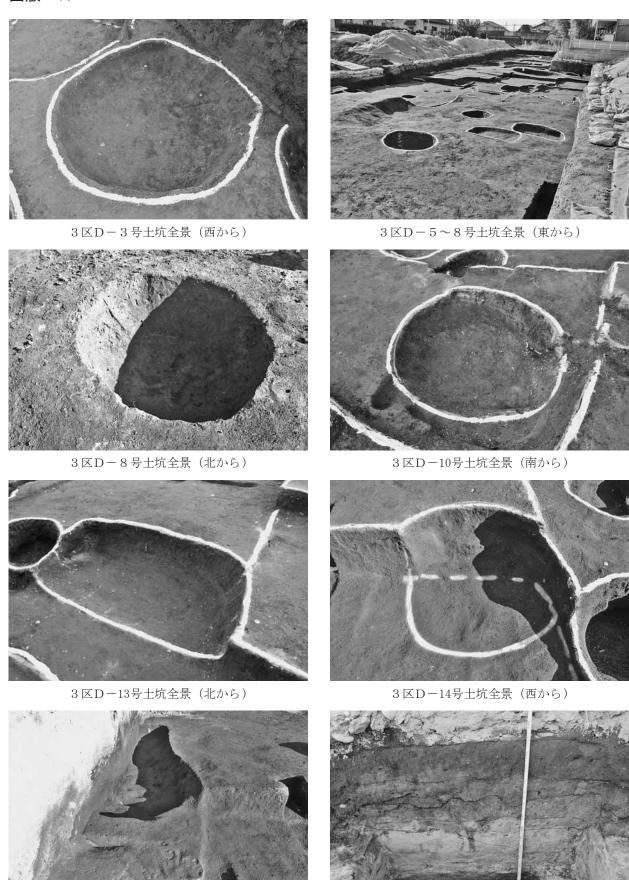
3区W-1号溝跡全景(南から)



3区W-1号溝跡遺物出土状況(東から)



3区D-1号土坑全景(南から)



3区D-15号土坑全景(西から)

3区南壁セクション(北から)



4区東側調査区全景(南から)



4 区東側調査区W-3号溝跡(堀跡)全景(東から)



4 区東側調査区W-3号溝跡(堀跡)全景(西から)



4区西側調査区全景(西から)



4区西側調査区W-1号溝跡セクション(西から



4 凶西側調査凶遺物出土状况(東から)

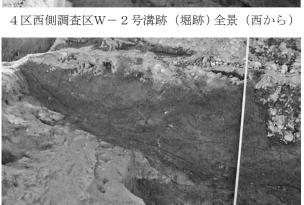


4 区西側調査区竈構築材採掘坑跡全景(南から)



4区西側調査区竈構築材採掘坑跡近景(東から)





4区西側調査区W-2号溝跡 (堀跡)西壁セクション



5区東側調査区W-1号溝跡(堀跡)全景(西から



5区西側調査区W-2号溝跡 (堀跡)全景 (北から)



4 区西側調査区W-2 号溝跡 (堀跡)全景 (東から)



4区西側調査区D-1号土坑全景(南から)

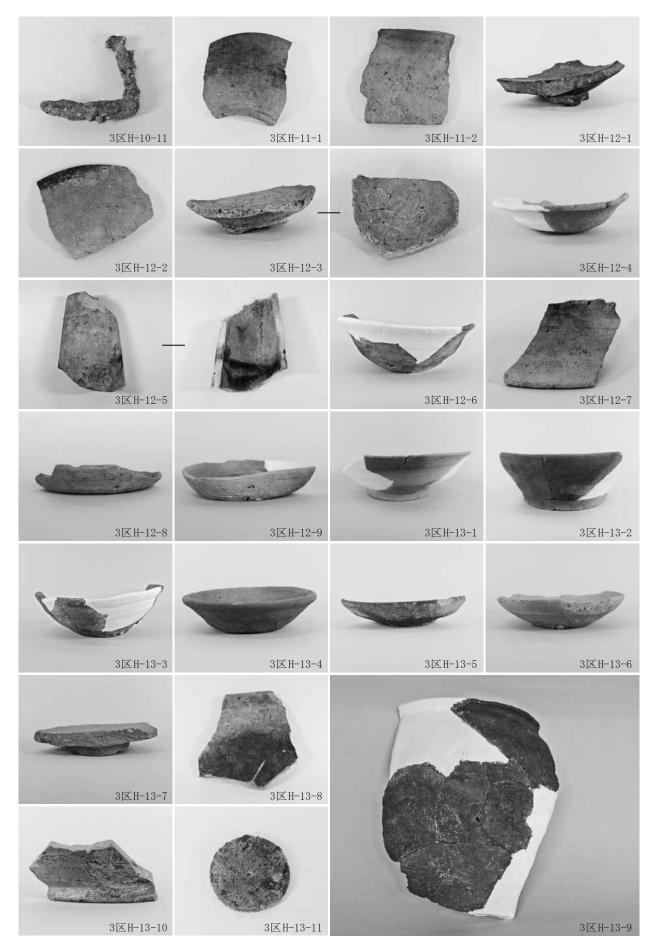


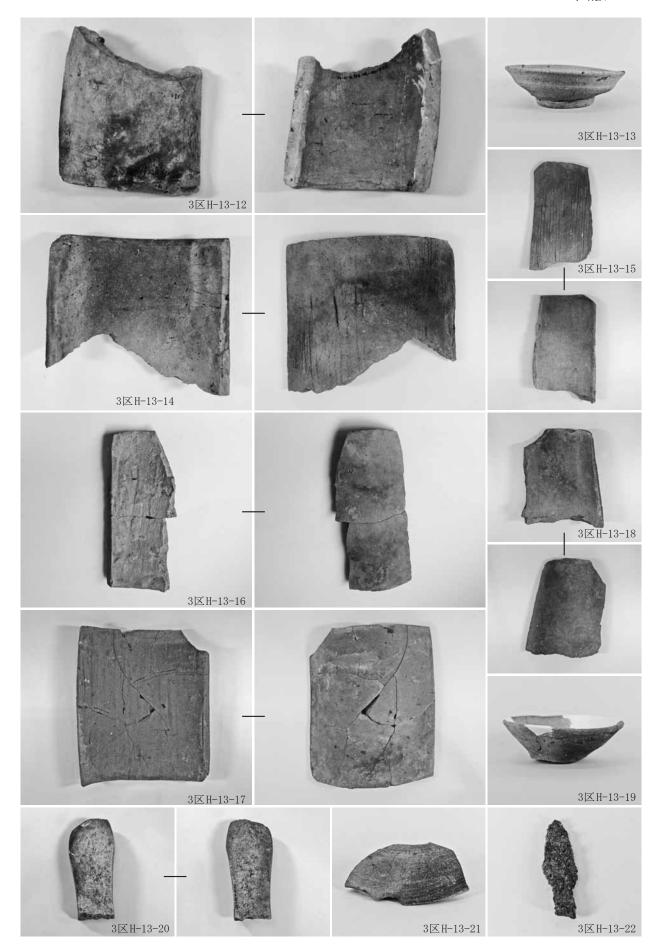
5区東側W-1号溝跡(堀跡)東壁セクション(西から)



5区西側調査区W-2号溝跡(堀跡)全景(南から)











抄 録

		_	
フ	リガ	ナ	モトソウジャ オウミ イセキグン
書		名	元総社蒼海遺跡群(36)
副	書	名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻		次	
シ	リーズ	名	
シ	リーズ番	号	
編	著者	名	神宮 聡 (前橋市教育委員会) 荻野博巳・金子正人 (スナガ環境測設株式会社)
編	集機	関	前橋市教育委員会
編组	集機関所在	地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発	行年月	日	西暦2011年3月11日

フリガナ	フリガナ	コード		位		置	細木	調本売待	細木匠田
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	北緯		東 経	一 調査期間	調査面積	調査原因
^{モトソウジャ オ ウミ イ セキ} 元総社蒼海遺跡 ^{グン} 群 (36)	マエバシ シ もトソウジャマチ 前橋市元総社町	10201	22 A 130 -36	36°22′13″		139°04′37″		1,640m²	
	1914.1916.1917.						20100000		前橋都市計画 事業 元総社
	2039.2044.2177.				<i>"</i>]		20100909		
	2185ほか						20110311		蒼海土地区画
	ッウジャマチソウジャ 総社町総社3106.								整理事業
	3108.3136ほか								

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
	溝跡	古墳時代	溝跡3条		
	畠跡	古墳時代	サク列跡51列		
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡17軒	土師器・須恵器・砥石・	鉄製紡錘車、鉄鏃が出土
				鉄製品·施釉陶器·瓦·	
元総社蒼海遺跡	水田跡	平安時代	水田跡7区画	土師器・須恵器	畦畔7本検出
群 (36)	採掘跡	平安時代	竈構築材採掘坑跡		2 箇所検出
	溝跡	平安~中近世	溝跡8条	土師器・須恵器	
	土坑	平安~中近世	土坑17基	土師器・須恵器	地下式土壙状の土坑1基
	井戸跡	平安~中世	井戸跡2基	土師器・埴輪	
	堀跡	中世	堀跡 4 箇所	かわらけ・石臼・板碑・	蒼海城の堀跡
				内耳土鍋・陶器・焙烙	

元総社蒼海遺跡群 (36)

2011年3月3日 印刷 2011年3月11日 発行

> 発行 前 橋 市 教 育 委 員 会 前橋市三俣町二丁目10-2

> 編集 スナガ環境測設株式会社 前橋市青柳町211番地の1

印刷朝日印刷工業株式会社